

京都大学
大学院理学研究科
地球惑星科学専攻年報

2010（平成22）年度

Division of Earth and Planetary Sciences
Graduate School of Science, Kyoto University

目次

	頁
1. はじめに	1
2. 教育活動の概要	
2.1 学部	2
2.1.1 講義	
2.1.2 課題演習	
2.1.3 課題研究	
2.1.4 学生進路	
2.2 大学院	11
2.2.1 特別講義	
2.2.2 大学院学生	
2.2.3 大学院修士課程入学者	
2.2.4 大学院博士後期課程進学・編入学者	
2.2.5 研修員・研究生・日本学術振興会特別研究員（PD）	
2.2.6 学位	
2.2.6.1 修士	
2.2.6.2 博士	
2.2.7 大学院学生進路	
3. 図書室	27
4. 教室経理	29
5. 各種委員会	31
6. 職員名簿	35
付 録 1. 研究活動・論文・報告書・学会発表	37
付 録 2. 観測データ・野外調査	64
付 録 3. その他の活動	65
付 録 4. 助成金	71
付 録 5. 地球物理技術情報活動報告	74

1. はじめに

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災により亡くなられた方々、行方不明の方々、避難生活をされている方々に謹んで哀悼の意を表し、お見舞いを申し上げます。

理学研究科では、全構成員に対し義捐金を募っております。また、地球惑星科学専攻に於いても、図書室の利用・複写サービスをはじめとして、被災大学の学生および教員の受け入れを行っております。皆様のご協力をお願い致します。

平成 22 年度を振り返りますと、前年度の引っ越しによって同じ理学研究科 1 号館に研究室を移した地球物理学教室、地質学鉱物学教室、地磁気世界資料解析センター、地球熱学研究施設京都分室の全構成員がお互いの共通点、相違点に気付き、お互いに摺り合わせを始めた 1 年でした。また耐震改築をした建物の構造上の問題、地下実験室のカビの大量発生問題もありましたが、理学研究科からの支援を得て教育・研究の場として改善されつつあります。5 月 15 日、16 日の 2 日間にわたって地質の日の記念イベント第 2 回「大地は語る。～見て・触れて・聴く、地質学って何だろう?～」が地質学鉱物学教室・総合博物館共催で京大総合博物館にて開催されました。特別講演会、院生によるフロンティアレクチャー、体験企画等の催しがあり、二日間で 300 人を越える多数の一般市民参加者があり盛況でした。5 月 21 日には当専攻恒例の観葉会が開催されました。さらに、専攻以外の方々に地球惑星科学専攻を知ってもらうことを主目的としてウェゲナー祭が企画され、6 月 11 日に開かれました。会場となった 563 号共通会議室には、両教室発展の礎を築かれた志田順博士、小川琢治博士、松山基範博士の肖像レリーフ・写真が飾られました。3 先生の業績説明のプレートも側にありますので、ご一読下さい。外にも 8 月 12 日には京都大学オープンキャンパスの教室企画が両教室で開催され、京都大学に関心を持つ高校生を対象とした地球惑星科学に関する展示が行われました。また、平成 23 年 2 月 19 日には地球物理学教室の同窓会が開かれました。地質学鉱物学教室恒例の新年会は平成 23 年はお休みで、次回は平成 24 年 1 月に予定しています。

第 2 回白眉プロジェクトの募集があり、地球惑星科学に関係する内外の若手研究者に応募を依頼しましたが、当専攻を受け入れ先とする教員の採用はありませんでした。今後も応募者を増やす努力が必要です。

人事関係では、水圏地球物理学講座の淡路敏之教授が京都大学理事に就任されました。教育担当理事として基礎教育の改革に手腕を振るわれることが期待されていると聞いています。地球物理学教室としては、淡路理事の大学院生に対する研究指導力に期待するところが多く、吉川研究科長に兼任願いを提出し、認められました。平成 24 年 3 月まで水圏地球物理学講座の教授を兼任して頂くことになりました。多忙な理事との兼任ですから、私達も淡路理事の地球物理学教室での負担を最小限にするよう努めています。また、地球物理学教室事務室では、西浦由利子事務職員が平成 22 年 4 月 1 日付けで着任されました。4 月上旬には、地球惑星科学専攻図書室の銭谷多美事務補佐員の再雇用が認められました。延原由紀事務主任の産前・産後休職中を理学研究科財務掛の三宅里枝事務補佐員、その後の育児休暇中を佐々木知代さんに事務の仕事をお願いしています。平成 23 年 3 月には地球惑星科学専攻図書室の木村敬子事務補佐員が退職されました。地質学鉱物学教室事務室では、正規職員の補充が無いまま、入野健志、岩崎里映、本多春華の 3 人体制で業務をこなしました。平成 23 年 3 月には地球惑星科学専攻図書室の運用方法について両教室主任、図書委員長、事務方で打合せを数度にわたって行い、平成 23 年 4 月から名実共に地球惑星科学専攻図書室として再スタートします。

東日本大震災に再度言及致します。大震災は、今後日本の地球惑星科学、地球惑星科学専攻に影響を与え続けることが予想されるからです。巨大地震による固体地球内部の擾乱が、電離圏にまでおよぶことが明瞭にみえたのはほんの 1 例です。両教室へは予算削減・定員削減の加速の形での影響が心配されます。事務組織の統合は避けられないでしょう。3 月 23 日に行われた両教室教員による合同教員会議においても教員が工夫するとの方針が確認されました。この状況は一定期間続くことが予想されます。これに耐え、乗り越えるには、学部・大学院教育の充実への努力、そして教員・院生の独創的研究へのこれまで以上の努力が不可欠だと思います。

最後になりましたが、本年報を編集されました委員会メンバー、それぞれの分野の取りまとめをされました堤浩之准教授ならびに前田晴良准教授、さらに、両教室の事務職員の方々と資料を頂いた両教室構成員の皆様へ感謝致します。

平成 23 年(2011 年) 3 月 31 日

平成 22 年度地球惑星科学専攻長・副専攻長
中西 一郎・小畑 正明

2. 教育活動の概要

2.1 学部

2.1.1 講義

科 目	前・後	担 当 教 員
地球惑星科学入門 II	前	中西一郎・福田洋一・竹村恵二
地球惑星科学入門 III	後	町田 忍・里村雄彦・秋友和典
計算地球物理学	後	石岡圭一・秋友和典・宮崎真一
計算地球物理学演習	後	石岡圭一・秋友和典・宮崎真一・根田昌典・石川洋一・ 内藤陽子・齊藤昭則
地球連続体力学	後	宮崎真一
観測地球物理学	前	町田 忍・里村雄彦・古川善紹(阿)・林 泰一(防)・重 尚一
観測地球物理学演習 A	夏期集中	宮崎真一・大倉敬宏(阿)・鍵山恒臣(阿)・宇津木 充(阿)・里村雄彦・ 西 憲敬・齊藤昭則・内藤陽子
観測地球物理学演習 B	夏期集中	竹村恵二(別)・大沢信二(別)・堤 浩之・柴田知之(別)・ 川本竜彦(別)・山本順司(別)
グローバルテクトニクス	後	田上高広(鉦)・古川善紹(阿)
弾性波動論	前	中西一郎
地球流体力学	前	重 尚一
電離気体電磁力学	前	家森俊彦(磁)
地球熱学	前	竹村恵二(別)・鍵山恒臣(阿)・大沢信二(別)・柴田知之(別)・ 川本竜彦(別)・山本順司(別)
測地学 I	後	福田洋一・宮崎真一
地震学 I	後	平原和朗
海洋物理学 I	後	秋友和典
気象学 I	後	余田成男
地球電磁気学	後	藤 浩明(磁)
物理気候学	前	里村雄彦
火山物理学 I	後	古川善紹(阿)
地形学	後	堤 浩之
測地学 II	前	福田洋一・宮崎真一
地震学 II	前	久家慶子・James J Mori(防)
海洋物理学 II	前	淡路敏之
気象学 II	前	石岡圭一
太陽地球系物理学	前	町田 忍
陸水学	前	大沢信二(別)
火山物理学 II	前	鍵山恒臣(阿)・大倉敬宏(阿)・石原和弘(防)・井口正人(防)・ 宇津木 充(阿)
活構造学	前	堤 浩之

磁: 地磁気世界資料解析センター

防: 防災研究所

別: 地球熱学研究施設

阿: 地球熱学研究施設火山研究センター

科目	前・後	担当教員
岩石学Ⅰ	前	小畑正明
岩石学Ⅱ	後	小畑正明
岩石学実験Ⅰ	前	河上哲生・平島崇男
岩石学実験Ⅱ	後	平島崇男・河上哲生
基礎地質科学実習	随時	下林典正・田上高広・前田晴良・三宅 亮・堤 昭人・松岡廣繁・ 河上哲生・渡邊裕美子
結晶学演習	前	下林典正
構造地質学	前	山路 敦・佐藤活志
鉱物学Ⅰ	前	下林典正・三宅 亮
鉱物学Ⅱ	後	下林典正・三宅 亮
鉱物学実習	前	三宅亮・下林典正
鉱物学特論	前	下林典正・三宅 亮
古生物学Ⅰ	前	前田晴良・松岡廣繁
古生物学Ⅱ	後	前田晴良・大野照文(博)・松岡廣繁
古生物学実験	後	前田晴良・大野照文(博)・松岡廣繁
生物圏進化史	後	大野照文(博)・松岡廣繁
博物館実習Ⅴ	前	前田晴良・大野照文(博)(分担)
活構造学	前	堤 昭人
グローバルテクトニクス	後	田上高広・古川善嗣(阿)
地球テクトニクスⅠ	前	田上高広・渡邊裕美子
地球テクトニクスⅡ	後	堤 昭人・田上高広
地球テクトニクス実習Ⅰ	後	田上高広・堤 昭人・渡邊裕美子
地球テクトニクス実習Ⅱ	前	田上高広・堤 昭人・渡邊裕美子
地史学	前	酒井治孝・前田晴良
地質科学通論Ⅰ	前	酒井治孝
地質科学通論Ⅱ	後	小畑正明
地質科学野外巡検Ⅰ	随時	地球惑星科学系教員多数
地質科学野外巡検Ⅱ	集中	地球惑星科学系教員多数
地質学機器分析法	後	平田岳史・平島崇男・下林典正・田上高広・三宅 亮・堤 昭人・河上哲生・ 渡邊裕美子
地質調査法	前	前田晴良・山路 敦・佐藤活志
地層学	前	酒井治孝
地層学実験	前	酒井治孝・山路 敦・佐藤活志
変成岩岩石学	前	平島崇男
宇宙地球化学	前	平田岳史
宇宙地球化学実習	前	平田岳史
理論テクトニクス	後	山路 敦・佐藤活志

博:総合博物館

全学共通科目

科 目	前・後	担 当 教 員
Visual 地球科学概説	前	久家慶子(分担)
Visual 地球科学演習	前	久家慶子(分担)
少人数セミナー(ポケットゼミ) 「海と気候の科学」	前	淡路敏之
少人数セミナー(ポケットゼミ) 「太陽・地球・惑星の科学」	前	町田 忍(分担)
少人数セミナー(ポケットゼミ) 「巨大地震(大地動乱)の時代」	前	平原和朗
地球の物理	前	平原和朗・余田成男
プラズマ科学入門	前	町田 忍(分担)
地球科学実験 A	前	石岡圭一(分担)・齊藤昭則(分担)・河上哲生(分担)・三宅亮(分担)・渡邊裕美子(分担)・佐藤活志(分担)
地球科学セミナー	後	小畑正明
地球生物圏史セミナー	前	前田晴良
地球科学実験 B	後	齊藤昭則(分担)
低温科学 B	後	福田洋一(分担)
Field 地球科学B	後	平島崇男
地球テクトニクス基礎セミナー	前	堤 昭人
環境地圏科学ゼミナール II	後	堤 昭人(分担)

2.1.2 課題演習

課題名	担当教員
DA: 固体地球系	福田洋一・宮崎真一・堤 浩之・久家慶子・古川善紹(阿)
DB: 流体地球系	秋友和典・根田昌典・石川洋一・石岡圭一・齊藤昭則・西 憲敬・ 藤 浩明(磁)・能勢正仁(磁)
DC: 固体地球系	地球惑星科学系教員多数
DD: 流体地球系	地球惑星科学系教員多数
E1: 地質科学研究法1	酒井治孝・山路敦・前田晴良・松岡廣繁・佐藤活志
E2: 地質科学研究法2	平島崇男・平田岳史・下林典正・田上高広・三宅亮・堤昭人・河上哲生・ 渡邊裕美子

課題演習 DA・DB

・2010 年度登録者(地球物理分野) (総計 49 名)

D-A. 今中壮志・上枝よしの・衣川悠也・杉本亜紗香・土田真也・露木啓悟・中西峰之
中野龍二・二村忠宏・服部浩二・前田侑里香・松崎和也・松嶋俊樹・三竹博和
宮地哲朗・安田大剛・山極修司・吉岡貴浩・兒玉悠佑・諏訪博之・西海知洋
吉田佑輔・丹羽優介・深澤道哉

D-B. 今中壮志・上枝よしの・内野宏俊・衣川悠也・杉本亜紗香・土田真也・中西峰之
中野龍二・南部瞳・二村忠宏・服部浩二・前田侑里香・松崎和也・松嶋俊樹
松本直樹・三竹博和・宮地哲朗・安田大剛・山極修司・吉岡貴浩・兒玉悠佑
諏訪博之・吉田佑輔・丹羽優介・深澤道哉

・2011 年度登録者(地球物理分野) (総計 42 名)

D-A. 伊藤将行・上田学・川嶋一生・軍司翔兵・佐藤佑輔・清水宏幸・瀬尾卓
高尾知江・高崎正信・武村一史・田中美穂・津村優磨・西崎遼・細川周一
増田慧・宮本歩・三輪直寛・岩間研治・呉信廣・五島仁志・露木啓悟

D-B. 赤嶺直匡・伊藤将行・上田学・生松聡・川嶋一生・軍司翔兵・佐藤佑輔
清水宏幸・瀬尾卓・高尾知江・武村一史・田中美穂・津村優磨・西崎遼
細川周一・増田慧・松本諭・宮本歩・三輪直寛・呉信廣・露木啓悟

課題演習 E1・E2

・2010 年度登録者(地質学鉱物学分野) (総計 15 名)

E1. 青木翔吾・雨宮大樹・池田 都・大貫 巧・坂井 勇・佐藤竜也・田中浩亮・東野晃大・

広木大雅・藤川雅美・山中一平・川崎大地・田中満隆・水野有梨・平田郁生

E2. 青木翔吾・雨宮大樹・池田 都・大貫 巧・坂井 勇・佐藤竜也・田中浩亮・東野晃大・
広木大雅・藤川雅美・山中一平・川崎大地・田中満隆・水野有梨

・2011 年度登録者(地質学鉱物学分野) (総計 9 名)

E1. 天野早織・川崎隆広・中村圭吾・並木由香・宮嶋佑典・安本篤史・坂本龍一・高橋龍平・高田航史郎

2.1.3 課題研究

課 題 名	担 当 教 員
T1:電磁気圏	町田 忍・齊藤昭則・能勢正仁(磁)・家森俊彦(磁)・藤 浩明(磁)・ 竹田雅彦(磁)・宇津木 充(阿)
T2:大気圏・水圏	余田成男・石岡圭一・内藤陽子・里村雄彦・重 尚一・西 憲敬・淡路敏之・秋友和 典・根田昌典・石川洋一・大沢信二(別)
T3:固体圏	平原和朗・中西一郎・久家慶子・福田洋一・宮崎真一・堤 浩之・竹村恵二(別)・鍵山 恒臣(阿)
T11:地球テクニクス	田上高広・堤昭人・渡邊裕美子
T12:岩石学	小畑正明・平島崇男・河上哲生
T13:鉱物学	下林典正・三宅亮
T14:地層学	前田晴良・松岡廣繁・大野照文(博物館併任)
T15:地史学	酒井治孝・山路敦・佐藤活志
T16:相関地球化学	平田岳史

磁:地磁気世界資料解析センター 別:地球熱学研究施設

阿:地球熱学研究施設火山研究センター

・2010 年度登録者(地球物理学分野) (総計 32 名)

T1	田丸裕史・中村紗都子・穂積裕太・山中貞人・山野信・佐々木辰実・松尾雄司
T2	大井川正憲・齋藤泉・鈴木順也・野口峻佑・藤井晶・古屋姫美愛・真鍋和太 物部智徳・李哲俊・石田智也・廣松佑一・山本紀幸・渋谷航平
T3	重村樹・杉本純也・西海知洋・野村和正・堀田耕平・松井宏香・山下真一 鈴木淳・福田哲也・亀井隆徳・鍋田真・深澤道哉

・課題研究の題目

T1	田丸裕史	プラズマラインによる電離圏観測
	中村紗都子	THEMIS による磁気圏の可視化
	穂積裕太	アルフベン定在波から推定する内部磁気圏の質量密度分布
	山中貞人	重力音波による沿磁力線電流の生成と Alfvén 波動
	山野 信	磁気リコネクションの基礎理論
	佐々木辰実	低緯度における電離圏アルフベン共鳴現象の解析
	松尾雄司	ヨーロッパ GPS 受信機網データを用いた電離圏トモグラフィ
T2	大井川正憲	赤道太平洋上でみられた帯状雲の分割現象についての解析
	齋藤 泉	β 平面上の2次元乱流における新しい保存量の検証
	鈴木順也	浜松の冬はなぜ寒いか
	野口峻佑	アンサンブル予報データ解析による北半球成層圏変動の予測可能性の研究
	藤井 晶	4月の低温偏差についての解析

古屋姫美愛	植物と大気の総合作用についてのレビュー:蒸散にしぼって
真鍋和大	TRMM/PR データを用いた熱帯低気圧の降水鉛直分布の解析
物部智徳	西部赤道太平洋における ENSO の物理過程に関する研究
李 哲俊	大陸棚上で形成される高密度海水の斜面沈降過程に対する潮流の効果
石田智也	高分解能モデルを用いた噴火湾周辺海域の変動過程の解明
山本紀幸	黒潮続流域におけるアルゴフロート軌跡のデータ同化
T3 杉本純也	スロースリップの時間インバージョンにおける非負拘束の影響について
西海知洋	速度・状態依存摩擦構成則を用いた内陸・プレート境界地震発生シミュレーション
野村和正	百瀬川, 石田川の河川争奪について
堀田耕平	GPS 観測による桜島の地殻変動に関する研究
松井宏香	地震の断層面とモーメント解放分布をオートメーション化して決定する手法の改良
鈴木 淳	桜島火山のマグマ起源と進化に関する研究
福田哲也	西南日本スラブ内地震の波形解析による地下構造の推測
亀井隆徳	GOCE Gravity Model と静的な表層海流に関する研究
深澤道哉	沈み込み帯の塩素の循環

・2011 年度登録者 (総計 27 名)

T1	今中壮志・内野宏俊・中西峰之・服部浩二・吉田佑輔
T2	上枝よしの・衣川悠也・杉本亜紗香・土田真也・南部瞳・前田侑里香・松島俊樹 松本直樹・宮地哲郎・兒玉悠佑・丹羽優介
T3	五島仁志・露木啓悟・中野龍二・二村忠宏・松崎和也・三竹博和・安田大剛 山極修司・吉岡貴浩・諏訪博之・山下真一

・2010 年度登録者(地質学鉱物学分野) (総計 22 名)

T11	グリーン佐助・沖田正明・山田有生
T12	東野文子・朝倉顯爾・上村謙一郎
T13	服部健太郎・相馬信洋・井原宏幸
T14	河合真梨香・福田康太・山中克正・小俣慎也・黒滝啓介・佐藤亘孝・山田純輝
T15	中濱秀昭・小山俊之・渋谷小春・幡手克志
T16	山田まりな・向山 翔

・課題研究の題目

T11	グリーン佐助	インドネシア産チーク年輪を用いた古気候復元のための基礎的研究
	沖田正明	コディアック島に分布する Ghost Rocks 層泥岩中に発達する細粒黒色断層物質の高速すべり弱体化機構に関する研究
T12	東野文子	東南極セールロンダーネ山地バルヒェン山に産する黒雲母-ザクロ石-珪線石片麻岩の岩石学

- 朝倉顯爾 三波川変成帯五良津岩体産 impure marble の鉱物反応組織から読み解く流体活動史
上村謙一郎 九州八代地方の黒瀬川帯小田尾ユニットの変成分帯
- T13 服部健太郎 岡山県大佐山産ヒスイ輝石岩中の Sr、Ba 鉱物: stronalsite-banalsite の固溶体
井原宏幸 含水銅・亜鉛硫酸塩鉱物の合成実験: 箕面市平尾旧坑産未知鉱物相の合成を目指して
- T14 河合真梨香 絶滅潜水性鳥類マンカラ亜科(チドリ目ウミスズメ科)の翼の筋群復元及びそれに基づいた青森県尻屋崎更新統産化石の潜水適応進化的特徴の考察
福田康太 沖縄島・辺戸岬から産出する第四紀脊椎動物化石と、その古脊椎動物相における意義
小俣慎也 上部カンブリア系エイラム頁岩中の Orsten 化石相の堆積作用について
- T15 中濱秀昭 白川扇状地の地形・地質と吉田北キャンパスの地下地質
小山俊之 和泉山地西端の加太層における古流向とスランプ褶曲から見た白亜紀後期和泉堆積盆の古傾斜
渋谷小春 室戸半島, 行当岬の四万十付加体の地質学的研究
幡手克志 ヒマラヤ前縁の弱変成岩ナップの原岩と変形の研究
- T16 山田まりな レーザーアブレーション-ICP 質量分析計を用いた生体試料中の微量元素イメージング
向山 翔 ポリアクリルイミドゲル電気泳動法を用いたタンパク質分離および金属元素分析法の開発

2.1.4 学生進路

地球物理学分野

京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻進学	17名
京都大学大学院理学研究科物理学専攻進学	1名
京都大学大学院エネルギー科学研究科進学	1名
京都大学経営管理大学院進学	1名
京都大学大学院人間・環境学研究科進学	1名
京都大学大学院法学研究科進学	1名
就職・その他	4名(エムエスジー(株)・文部科学省・ (株)テクノスジャパン・国税庁)

地質学鉱物学分野

2009年度

京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻(地質学鉱物学分野)進学	8名
京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻進学(地球物理学分野)	1名
京都精華大学芸術学部	1名
高知工科大学	1名
就職・その他	1名

2010年度

京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻進学	6名
京都大学大学院理学研究科化学専攻固体化学進学	1名
大谷専修学院進学	1名
(株)Z会	1名
就職・その他	3名

2.2 大学院

2.2.1 特別講義

- ・衛星測地学
大坪俊通（一橋大学・大学院社会学研究科）
- ・太平洋の海洋循環
川辺正樹（東京大学・海洋研究所）
- ・温室効果気体の変動と循環
中澤高清（東北大学・大学院理学研究科）
- ・高分解能古気候学の展開
中塚 武（名古屋大学・環境学研究科）
- ・地殻流体化学
黒澤正紀（筑波大学・第一自然学類）
- ・宇宙化学
塚本尚義（北海道大学・理学研究院）
- ・二枚貝類の古生態学
近藤康生（高知大学・理学部）
- ・古海洋から見た過去1億年の地球環境変遷史
西 弘嗣（東北大学・総合博物館）

2.2.2 大学院学生:所属分科, 指導教員, 学年, 氏名, 研究題目

(地球物理分野)

・測地学及び地殻変動論分科

測地学講座(福田洋一)

博-4 由井智志 地殻変動データによる地球深部ダイナミクスの研究

博-2 長谷川 崇 衛星重力データを用いた地球の粘弾性構造に関する研究

博-1 ODERA PATROBA ACHOLA

Precise determination of a local geoid model and a reference height system for the establishment of a geodetic datum and its applications

修-2 長岡哲也 測地データを用いた地球変動に関する研究

修-1 長崎鋭二 GPS データを用いたスロースリップイベントに関する研究

修-1 山田晋也 地球表層流体による地球パラメータの変動についての研究

測地学講座(宮崎真一)

修-1 奥 光平 地殻変動についての研究

修-1 馬場和人 人工衛星を使った重力研究

・地震学及び地球内部物理学分科

地震学講座(平原和朗)

- 博-3 三井雄太 間隙流体によって支配された地震発生過程の研究
 修-2 正木喜啓 地震発生サイクルシミュレーション研究
 修-2 矢田大樹 深発地震の余震発生に関する研究
 修-1 大谷真紀子 地震発生サイクルシミュレーション
 修-1 川村布由子 粒子法による動的破壊シミュレーション
 地震学講座(久家慶子)
 博-2 浦田優美 断層帯に存在する水と摩擦発熱が地震の破壊過程に与える影響
 修-2 平澤寅庄 震源過程シミュレーションに関する研究
 地震学講座(宮崎真一)
 修-2 加納将行 観測データに基づいた地殻活動予測シミュレーションに関する研究
 防災研・地震予知研究センター(橋本 学)
 博-2 有本美加 InSAR 時系列解析によるゆっくりとした地殻変動検出に関する研究
 修-2 中村悠希 合成開口レーダーによる断層運動に関する研究
 修-1 岡本淳一 宇宙測地技術を用いた地殻変動の研究
 防災研・地震予知研究センター(飯尾能久)
 修-2 佐々木裕樹 長野県西部地域の応力降下量の研究
 修-2 千葉慶太 長野県西部地域の応力場の研究
 修-1 小川拓哉 地震の規模別頻度分布について
 防災研・地震予知研究センター(澁谷拓郎)
 修-2 中川陽一朗 レシーバ関数解析による地殻・マントル構造の研究
 修-1 福居大志 フィリピン海スラブと周辺領域の地震学的構造に関する研究
 防災研・地震予知研究センター(片尾 浩)
 修-1 青木裕晃 地震活動と地殻構造の研究
 防災研・地震予知研究センター(遠田晋次)
 修-1 廣瀬志保 地震のトリガリングに関する研究
 防災研・地震発生機構研究分野(James J. Mori)
 博-3 乗松君衣 極々微小地震の研究
 博-1 王 墩 最近の大地震の短周期エネルギーの放射
 修-2 木村紗由美 大規模地震の発生機構についての研究

・火山物理学分科

- 地球熱学研究施設・火山研究センター(鍵山恒臣)
 博-4 小森省吾 火山体浅部における比抵抗構造と熱水
 修-2 小豆畑逸郎 映像解析による火山活動の時間定数の研究
 地球熱学研究施設・火山研究センター(大倉敬宏)
 博-2 安部祐希 レシーバ関数と地震波トモグラフィを用いた九州地方の地震波速度構造解析 ～地殻・上部マントルにおけるマグマ・流体の存在～

・地殻物理学及び活構造論分科

- 活構造学講座(堤 浩之)

博-4 末岡 茂 熱年代学的手法による日本の山地地形発達史の研究

博-3 Noelynna Tuazon Ramos

フィリピン諸島周辺で発生する海溝型巨大地震に関する研究

博-3 Jeffrey Somintac Perez

ミンダナオ島のフィリピン断層帯の活動履歴に関する研究

博-2 石村大輔 近畿三角帯北東部の活構造に関する研究

修-2 木幡邦彦 活構造学

修-1 斎藤 真 活構造学

防災研・強震動研究分野(岩田知孝)

博-3 岩城麻子 強震動地震学

博-2 Contreras Ruis Esparza Moises Gerardo

Study on evaluation of time domain seismic ground motion site effects in sedimentary basins

修-2 小松正直 強震動地震学

修-2 瀧口正治 強震動地震学

修-1 今井基博 強震動地震学

防災研・都市防災計画研究分野(関口春子)

修-1 安田博信 強震動地震学

・環境地圏科学分科

防災研・斜面災害研究センター(末峯 章)

修-2 柳楽祐平 結晶片岩地すべり地における地下水流動の実態

防災研・斜面災害研究センター(福岡 浩)

修-1 津久井敦也 高速長距離地すべりの発生条件および運動機構

防災研・山地災害環境分野(千木良雅弘)

博-2 鄒 青穎 台湾大漢川流域の地形発達史と地すべりの発生場

博-1 樋口衡平 台湾南部の泥岩地帯におけるバッドランド形成機構

修-2 針山岳大 堆積岩の重力変形による構造

修-1 黒木雅弘 九州山地外帯における地形発達と地すべり発生場

修-1 外山 真 風化花崗岩の崩壊特性と履歴の解明

防災研・傾斜地保全研究分野(寺嶋智巳)

博-3 DANIEL WEREDE WOLDIE

Assessment of runoff generation from adjacent zero-order catchments, Fudoji-Japan

修-1 宮平永一郎 「表層崩壊」(水と電磁気の視点から見た崩壊予測のための実験と水・土に関する各種分析)

・地球熱学分科

地球熱学研究施設(竹村恵二)

博-1 熊谷仁孝 SiO₂-H₂O 系の相分離, 臨界現象の分子シミュレーションによる解析

修-3 山本友里恵 第四紀環境変遷の研究

修-2 黒岩健一 含水鉱物の破壊実験:スラブ内地震から温度構造を推定する

地球熱学研究施設(大沢信二)

博-2 三島壯智 鍾乳石の縞の成因と形成過程に関する地球化学的・水文学的研究
地球熱学研究施設・火山研究センター(鍵山恒臣)

修-1 浅野 剛 地球熱学の研究

・海洋物理学分科

海洋物理学講座(余田成男)

博-3 伊藤耕介 強風条件下における大気海洋相互作用に関する研究

海洋物理学講座(秋友和典)

博-2 LUU QUANG HUNG 沿岸・陸棚域の3次元物質循環モデル研究

博-2 仁科 慧 沿岸・混合水域系の高分解能モデリング研究

修-3 山西孝宜 北太平洋物質循環マッピングに関する研究

修-3 吉田 智(休) 西部太平洋と東部インド洋の暖水分布の変動過程についての研究

修-2 榎原賢一 海洋中・深層循環の変動過程に関する研究

修-2 小野珠美 大気海洋境界層の観測的研究

修-1 広瀬成章 沿岸海洋域における季節内変動に関する研究

修-1 公江仁一 海洋物理学

修-1 平野真弘 海洋物理学

・気象学・気候学及び大気物理学分科

気象学講座(余田成男)

博-2 山本博基 惑星大気大循環に関する数値的・理論的研究

博-2 Nurjanna Joko Trilaksono

Numerical study of severe weather in Indonesia using regional numerical weather prediction model

修-2 西村和裕 気象力学

修-1 櫻井佳代 大気力学

修-1 竹下愛実 大気力学

気象学講座(石岡圭一)

博-2 斉藤直彬 回転系における熱対流と平均流の相互作用に関する研究

博-1 日比野研志 大気中の組織構造の維持・崩壊メカニズム

修-2 原田 昌 気象力学

修-2 工藤崇裕(休) 気象力学

修-1 植松恵司 大気力学

物理気候学講座(里村雄彦)

博-2 山崎弘恵 超高解像度大気モデルの開発

博-1 広瀬民志 気候変動に関する雲観測データの解析的研究

博-1 伊東瑠衣 都市気候に与える環境の影響に関する研究

修-2 宮川 純 物理気候学

修-2 山田亜季 物理気候学

修-1 太田直樹 物理気候学

物理気候学講座(重 尚一)

修-2 真上 薫 物理気候学

修-1 谷口藍奈 物理気候学

防災研・暴風雨・気象環境研究分野(石川裕彦)

博-1 吉田龍二 北西太平洋における熱帯低気圧の発生メカニズムについて

修-2 遠矢敬一郎 応用気象に関する研究

修-2 三浦知博 応用気象に関する研究

防災研・暴風雨・気象環境研究分野(竹見哲也)

博-3 宮本佳明 台風の強度変化に及ぼす大気海洋相互作用の役割に関する数値的研究

修-2 野村昇平 メソスケール気象学

防災研・災害気候研究分野(向川 均)

修-2 田中智之 応用気象学

修-2 長田 翔 応用気象学

修-1 馬淵未央 応用気象学

防災研・流域災害研究センター(林 泰一)

修-1 阿波崎たかね 応用気象学

修-1 山田幸彦 応用気象学

生存圏研究所・大気圏環境情報分野(塩谷雅人)

博-6 小石和成 熱帯対流圏界面近傍の水蒸気変動に関する解析的研究

博-2 西本絵梨子 モンスーン循環と関連した対流圏界面付近における温度構造の特性に関する研究

修-1 仁野慎也 大気科学に関する研究

修-1 山田登太 大気科学に関する研究

生存圏研究所・大気圏精測診断分野(橋口浩之)

博-3 田畑悦和 インドネシア海洋大陸域におけるウィンドプロファイラー観測

・太陽惑星系電磁気学分科

地球電磁気学講座(町田 忍)

博-3 五井 紫 低軌道衛星を用いたプラズマ圏・上部電離圏における電子密度変動機構の解明

博-2 陳 佳宏 衛星データを用いた電離圏の構造・変動に関する研究

修-2 秋谷祐亮 ISS-IMAP/VISI とれいめい衛星 MAC による宇宙からの地球大気光観測

修-2 白井康裕 APD を用いたロケット・衛星搭載用エネルギー分析器の開発

修-2 原田裕巳 月周辺のプラズマ環境の研究

修-2 峰山 大 太陽地球系物理学の研究

修-1 門林 奨 衛星データと高分解能 GPS 受信機データを用いた電子密度変動の空間特性に関する研究

修-1 佐藤 馨 THEMIS データを用いたサブストームオンセットの研究

地磁気世界資料解析センター(家森俊彦)

博-2 松村 充 地表-熱圏間の音波共鳴が引き起こす電離層電磁気現象の観測的・理論的研究

- 修-1 富田 昂 内部磁気圏における高エネルギー粒子ピッチ角分布の統計解析
 修-1 中西邦仁 低高度衛星で観測される全球微細磁場変動分布
 地磁気世界資料解析センター(藤 浩明)
 修-2 南 拓人 西南日本弧の地殻・マントル電気伝導度構造

・地球内部電磁気学分科

防災研・地震テクトニクス研究分野(大志万直人)

- 博-4 畑 真紀 Network-MT 法による大規模比抵抗構造の推定
 修-1 比嘉哲也 地球流体に関する電磁気学的研究

(地質学鉱物学分野)

・地球テクトニクス分科(田上高広・堤 昭人・渡邊裕美子)

- 博-1 長谷川 航 北海道南西部の洞窟「北海洞」における洞窟学的研究
 修-2 小澤 高志 K-Ar 年代における過剰アルゴンの除去方法に関する研究
 修-2 郁芳 随徹 断層帯のジルコン熱年代学
 修-2 河内 悠紀 鍾乳洞滴水-鍾乳石相互作用に関する実験的研究
 修-2 鎌刈 裕紀 付加体泥質物質の高速摩擦特性に関する研究
 修-2 礮部 翔太郎 ハワイ・フアラライの歴史溶岩に含まれる過剰 ⁴⁰Ar 評価
 修-2 原田 麻央 熱帯樹を用いた古気候学的研究
 修-1 福永 卓也 鍾乳石の年分解能時間モデルに向けた基礎研究
 修-1 北 愛美 インドネシアの鍾乳石を用いた過去千年間の古気候復元

・地球物質科学分科

鉱物学 (下林典正・三宅亮)

- 博-6 野々垣 雅稔 輝石の計算機シミュレーション
 博-4 高谷 真樹 花崗岩構成鉱物の形成過程
 博-4 柏木 淑子 合成バナジン酸ガーネットの晶相変化
 博-3 野本 哲也 アイスランドイト中の斜長石・輝石の微細組織
 博-2 伊藤 裕美 隕石中に含まれる輝石の組織観察
 博-1 兒玉 優 南極ナピア岩体の長石の微細組織
 修-2 延寿寺 秀明 方解石の結晶成長実験
 修-2 伊神 洋平 珪線石の Al/Si 無秩序化
 修-2 牲川 菜月 アラレ石の双晶の観察と結晶成長理論
 修-1 植田 康浩 MgO 中の空孔の拡散のシミュレーション

岩石学(小畑正明)

- 博-3 上田 匡将 イタリアアルプス・バルムッチャかんらん岩の超塩基性シュード
 タキライト脈の多様性とその微細構造の研究

岩石学(平島崇男)

- 修-3 千眼 喜照 変成岩中の流体包有物の研究
 修-1 吉田 健太 変成岩と流体包有物を用いた深部流体活動の研究

修-1	皆川 広太	神居古潭変成岩を用いた深部流体活動の研究
修-1	土谷 成輝	三波川変成岩を用いた深部流体活動の研究
岩石学(河上哲生)		
修-2	山口 勇央	領家変成帯青山高原地域西部の変成分帯とジルコンの産状に関する研究
修-2	中村 文	東南極リュツォ・ホルム岩体明るい岬に産する黒雲母-ザクロ石片麻岩の形成プロセスに関する研究

・地球生物圏史分科

地層学・古生物学(前田晴良・松岡廣繁・大野照文)

博-5	熊谷 太朗	中生代表生二枚貝類の古生態学的研究
博-4	平澤 聡	中生界手取層群の年代層序学的研究
博-3	一田 昌宏	紡錘虫化石の古生態学的研究
博-3	北川 博道	東アジアのゾウ化石群の古生物学的研究
博-2	黒須 弘美	植物食恐竜(角竜類)の歯の発生と咀嚼機構の研究
修-4	赤木 啓人	脊椎動物化石のタフォノミーに関する実験的研究
修-3	甲斐 一平	和歌山県烏屋城層産モササウルス類の研究
修-2	有吉 俊	ジュラ系豊浦層群における軟体動物化石群と古環境の研究
修-2	牧田 侑子	南極完新統産アザラシ化石の研究
修-2	丸山 啓志	小型ハクジラ類の系統学的研究
修-2	吉田 亜希菜	中生代シャジクモ類化石群の研究
修-2	米村 心平	鮮新統津房川層産タイワンドジョウ科魚類の研究
修-1	岩出 昌	白亜紀イノセラムス類の研究
修-1	唐沢 與希	フィロセラス類アンモノイドのタフォノミー
修-1	河村 麻衣	中生代化石水性鳥類の研究
修-1	山本 倫弘	コイ科魚類咽頭歯化石の研究
修-1	渡邊 順也	新生代水性鳥類化石の研究

地史学(酒井治孝・山路 敦・佐藤活志)

修-2	上岡 周平	「かぐや」探査機のデータによる月の地質構造の研究
修-2	杉本 美沙	カトマンズ盆地の湖成堆積物による第四紀の古環境変動の研究
修-1	中井 一幸	中部ネパールのシワリーク層群の重鉱物組成変化に基づくヒマラヤ山脈の削剥プロセスの研究
修-1	柳澤 達彦	対州層群の構造地質学的研究

総合博物館(大野照文)

博-4	マシュー・ポール・イングリス	エディアカラ動物群, キンベレラ属のタフォノミー
-----	----------------	--------------------------

・相関地球化学分科

宇宙・地球化学(平田岳史)

博-2	横山 隆臣	親鉄性元素分配による惑星核形成過程の研究
-----	-------	----------------------

2.2.3 大学院修士課程入学者

(地球物理分野)

・入学試験(2010年8月9-10日実施)

・志願者数 46名,合格者 37名(含辞退者等8名)

分 科 名	氏 名
測地学及び地殻変動論	杉本純也
地震学及び地球内部物理学	青木 将
〃	岸本信二
地殻物理学及び活構造論	杉山達哉
〃	野村和正
火山物理学	徳本直明
〃	堀田耕平
地球熱学	鈴木 淳
〃	深澤道哉
海洋物理学	物部智徳
〃	山本紀幸
〃	李 哲俊
陸水物理学	萩村俊司
気象学・気候学及び大気物理学	遠藤寛也
〃	大井川正憲
〃	梶川 藍
〃	草川敬之
〃	小森友里
〃	斎藤 泉
〃	高村 奈央
〃	塘 三千代
〃	坪井 彩
〃	野口峻佑
〃	藤井 晶
〃	真鍋和大
太陽惑星系電磁気学	今井雅文
〃	中村紗都子
〃	穂積裕太
〃	山野 信

・出身大学

京都大学 16名,大阪大学 2名,富山大学2名,大阪市立大学 1名,同志社大学 1名,関西学院大学 1名,九州大学1名,広島大学 1名,東京理科大学1名,奈良女子大学1名,名古屋大学 1名,高知工業高等専門学校 1名

(地質学鉱物学分野;2010 年度入試)

・入学試験(2009 年 8 月 5-6 日実施)

・志願者数 25 名, 合格者 18 名(含辞退者等 5 名)

分 科 名	氏 名
地球テクニクス分科	福永卓也 北 愛美
地球物質科学分科	吉田健太 皆川広太 土谷成輝 植田康浩
地球生物圏史分科	岩出 昌 唐沢與希 河村麻衣 山本倫弘 渡辺順也 中井一幸 柳澤達彦

・出身大学

京都大学・理学部 8 名, 大阪市立大学 2 名, 神戸大学 1 名, 静岡大学1名, 同志社大学1名

(地質学鉱物学分野;2011 年度入試)

・入学試験(2010 年 8 月 9-10 日実施)

・志願者数 25 名, 合格者 17 名(含辞退者等 6 名)

分 科 名	氏 名
地球テクニクス分科	田中 誠 沖田正明
地球物質科学分科	上村謙一郎 東野文子
地球生物圏史分科	黒滝啓介 福田康太 小山俊之 嵩 由芙子 渋谷小春
相関地球惑星科学	服部健太郎 向山 翔

・出身大学

京都大学・理学部 10 名, 神戸大学1名

2.2.4 大学院博士後期課程進学・編入学者

(地球物理分野)

・進学・編入学試験(2011年2月16日-17日実施)

・志願者数:6名 受験者数:6名 合格者数6名

分科名	氏名
地震学及び地球内部物理学	加納 将行
〃	千葉 慶太
気象学・気候学及び大気物理学	福井 堯
太陽惑星系電磁気学	秋谷 祐亮
〃	原田 裕己
〃	南 拓人

・出身大学

京都大学大学院・理6名

・留学生(博士)入学者

分科名	氏名	費用
気象学・気候学及び大気物理学	Mahavik, Nattapon	国費

(地質学鉱物学分野:2010年度入試)

・入学試験 2010年1月28-29日

・志願者数:2名 受験者数:2名 合格者数:2名

分科名	氏名
地球テクニクス分科	長谷川 航
地球物質科学分科	児玉 優

・出身大学

京都大学大学院・理1名, 北海道大学1名

(地質学鉱物学分野;2011年度入試)

・入学試験 2011年2月7-8日

・志願者数:5名 受験者数:5名 合格者数:3名(不合格者数:1名, 欠席者1名)

分 科 名	氏 名
地球テクニクス分科	原田麻央
地球物質科学分科	牲川菜月
相関地球惑星科学	岡林識起

・出身大学

京都大学大学院・理 2 名, 東京工業大学大学院1名

2.2.5 研修員・研究生・日本学術振興会特別研究員(PD)

(地質学鉱物学分野)

氏名	研究題目(期間)
(学術支援・研究員)	
村上雅紀	ジルコンフィッシュオントラック分析による断層近傍の熱履歴の解明(H22年4.1からH23年3.31まで)
(教務補佐員)	
苗村康輔	(H22年4.1からH22年10.20まで)
星出隆志	(H22年4.1からH22年8.31まで)
野口直樹	(H22年4.1からH23年3.31まで)
牧賢志	(H22年4.1からH23年3.31まで)
(技術補佐員)	
藤井理恵	(H22年8.1からH23年3.31まで)

2.2.6 学位

2.2.6.1 修士

(地球物理分野で審査をしたもの)

NO	氏名	論文題目
1	秋谷 祐亮	れいめい衛星による大気光観測および大気分光撮像装置の開発
2	小豆畑逸郎	火山・地熱地域における噴湯現象の規則性に関する研究
3	小野 珠実	黒潮続流海域における海面乱流フラックスの直接観測データを用いた海洋混合層のエネルギー収支の研究
4	加納 将行	アジョイント法による余効すべり時空間発展の予測手法の開発
5	木村紗由美	2009年駿河湾地震の余震における波形の相互相関を用いた震源再決定
6	佐々木裕樹	近畿地方北部の微小地震活動域直下の地殻構造の推定 -S波反射法とレシーバ関数解析による-
7	白井 康裕	内部磁気圏探査に向けた低エネルギーイオン分析器の開発
8	瀧口 正治	茨城県沖で繰り返し発生する海溝型大地震の広帯域強震記録を用いた震源過程の推定と比較
9	田中 智之	夏季北西太平洋域の循環偏差が中高緯度大気循環の予測に及ぼす影響について
10	千葉 慶太	応力多重逆解法を用いた長野県西部地域の応力場解析
11	中川陽一朗	レシーバ関数解析手法の高度化とその紀伊半島下のイメージへの適応
12	中村 悠希	ハイレートGPSで見る2010年バハ・カリフォルニア地震の震源過程
13	長田 翔	成層圏突然昇温が北半球環状モードの予測可能性に与える影響 -2009年・2010年冬季の比較解析-
14	西村 和裕	アンサンブルカルマンフィルタを用いた簡易大気モデルでの感度解析法の比較
15	野村 昇平	関東平野において夏期の午後に発生する局地豪雨の発生環境場に関する研究
16	原田 昌	f平面二層浅水系におけるジェットからの重力波放射について
17	原田 裕己	かぐや衛星観測によって見いだされた電子・イオンの"gyro-loss"効果
18	針山 岳大	流れ盤をなす堆積岩の重力変形:その変形構造の特徴と発達過程
19	正木 喜啓	地震波干渉法による2003年十勝沖地震における地下構造変化検出の試み
20	三浦 知博	Large Eddy Simulationを用いた層積雲の崩壊過程についての数値的研究
21	南 拓人	海陸共同観測データを用いた西南日本背弧の電気伝導度構造
22	峰山 大	合成開口レーダーを用いた干渉法観測に見られる位相差と電離圏擾乱の関係性についての研究
23	山本友里恵	琵琶湖湖底堆積物中に挟在するテフラの磁気特性

(地質学鉱物学分野で審査をしたもの)

	氏名	論文題目
1	有吉 俊	ジュラ紀豊浦層群西中山層のアンモナイトの化石化作用について

- 2 伊神洋平 珪線石のムライトへの分解過程の放射線粉末 X 線回折実験と微組織観察
- 3 郁芳随徹 断層帯のジルコン熱年代学—跡津川断層系茂住祐延断層と四国興津地域を例として—
- 4 磯部翔太郎 Hualalai 歴史溶岩試料中の過剰アルゴン除去メカニズムの再検討
- 5 上岡周平 月の数値地形データを使ったマグマだまり探索: グラーベンの静力学モデリング
- 6 鎌苅裕紀 付加体泥岩の中・高速摩擦特性: 宮崎県延岡市東部に分布する上部白亜系槇峰層群の泥岩について
- 7 杉本美沙 スミアスライドと微粒炭の分析に基づく古カトマンズ湖の過去 70 万年の環境変遷史
- 8 千眼喜照 深部流体中の Li/B 比とその意義—三波川変成岩中の流体包有物の例
- 9 中村 文 拡散速度の異なる元素に注目した高温変成作用における流体及びメルトの挙動推定
- 10 牲川菜月 オストワルド段階則での安定相形成に関する理論と実験
- 11 原田麻央 インドネシア産 樹木年齢(スンカイ)の組織観察と酸素・炭素同位体比分析を用いた気候復元のための基礎研究
- 12 牧田侑子 南極舟底池周辺の完新統から産出した *Leptonychotes weddellii* 化石とその胃内容物—アザラシ化石鉱床の化石化メカニズム解明に向けて—
- 13 山口勇央 領家変成帯青山高原地域西部における変成作用時のジルコンの挙動

2.2.6.2 博士

(地球物理分野で審査をしたもの)

取得者名	専攻合格日	学位授与日	下段に論文題目
濱田篤	2010.6.25	2010.7.23	静止衛星赤外線観測による熱帯域雲活動の推定に関する研究
三井 雄太	2010.12.22	2011.1.24	Study on relationships between frictional strength and long-term fault behavior including evolution of pore fluid pressure
安部 麻衣子	2010.12.22	2011.1.24	Improved environmental models for superconducting gravity records and its application to the GRACE data evaluation
小森 省吾	2011.1.26	2011.3.23	Conductivity separation method into pore water and matrix components and its application to volcanic fields – New approach to evaluating mass flux of volcanic fluid
岩城 麻子	2011.1.26	2011.3.23	Study on Seismic Wave Propagation Characteristics in a Sedimentary Basin and Waveform Inversion for Three-dimensional Basin Boundary Shape
Noelynna T. Ramos	2011.1.26	2011.3.23	Tectonic implications of uplifted Holocene marine terraces along the Manila and Philippine trenches, Philippines
伊藤 耕介	2011.1.26	2011.3.23	台風強度の再現性向上に関するアジョイント手法を用いた基礎的研究
宮本 佳明	2011.1.26	2011.3.23	ROLES OF SEA SURFACE FLUXES ON THE MAINTENANCE AND INTENSIFICATION OF TROPICAL CYCLONES
Daniel Werede Woldie	2011.1.26	2011.3.23	Understanding the Role of a Less-permeable Surface in Water Dynamics of Headwater Catchments based on Various Monitoring, Analytical Methods and a Numerical Model

(地質学鉱物学分野で審査をしたもの)

取得者名

(平成 22 年度)

北川博道

Taxonomic revision of the Pleistocene fossil Elephantidae (Mammalia, Proboscidea) from Japanese and Taiwanese islands

2.2.7 大学院学生進路

(地球物理分野)

・博士課程

東京個別指導学院(非常勤講師),地球熱学研究施設火山研究センター(非常勤研究員),フィリピン大学理学部地質学科(研究員),台湾国立大学(PD),(独)防災科学技術研究所(契約研究員),北海道大学(学振PD)理化学研究所計算科学機構(特別研究員)

・修士課程

長野県,NECシステムテクノロジー(株),東芝エレベーター,国際石油開発帝石(株),ルネサスエレクトロニクス(株),新日鉄ソリューションズ2名,日本電気(株),日立製作所,鉄道情報システム(株),(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構,(株)ノーリツ,成田国際空港(株),気象庁,藤沢市役所,NTTコムウェア(株)

(地質学鉱物学分野)

・博士課程

洛星高等学校,京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻(教務補佐員)

・修士課程

京都大学理学研究科地球惑星科学専攻博士課程進学 2 名,(株)GSP,(株)スミセイ情報システム,(株)アイ・ティ・フロンティア,(株)ベネッセコーポレーション,国土交通省国土地理院,(株)木下製作所,(株)日本板硝子,(株)グラフィック,ヴィアートル学園洛星中学高等学校,立命館守山中学高等学校,安楽寺,(株)DOWA ホールディングス,能開センター,学校法人高宮学園代々木ゼミナール

3. 図書室

※図書委員(◎委員長)

地球物理学分野

宮崎真一 石川洋一 石岡圭一 ◎堤 浩之 齊藤昭則 久家慶子 重 尚一

地質鉱物学分野

渡邊裕美子 河上哲生 下林典正 前田晴良 ◎酒井治孝 平田岳史 岩出昌

※2010年4月1日より名称を「地球惑星科学専攻図書室 Earth and Planetary Sciences Library」と改め、地球物理学教室図書室と地質鉱物学教室図書室が統合した、専攻の図書室として運営されています。

※2010(H22)年度に受け入れた雑誌・図書は以下の通りです。

(寄贈分は除く)

外国雑誌	43	タイトル (地球: 25 地鉱: 17 共通: 1)
国内雑誌・学会誌	15	タイトル (地球: 10 地鉱: 5)
図 書	43	冊
製本冊数	314	冊 (地球: 171 地鉱: 143 雑誌の製本のみ)

※2010年度は地質鉱物学教室の蔵書を中心に京都大学 KULINE(オンライン蔵書目録)へのデータ入力を進め、バーコードシールを貼付する作業を行いました。この結果、図書室の多くの資料が KULINE で検索できるようになると同時に、貸出も機械で処理され、手続きが簡単になりました。所蔵雑誌もほとんどのタイトルが KULINE で検索できます。寄贈雑誌や CD-ROM・地図なども KULINE で探すことができるものが増えてきています。2011年度は地質鉱物学教室の地図資料を KULINE に登録していく予定です。

登録済の資料数は以下のとおりです。(2011年3月31日現在)

図書	22,032	冊 (地球: 10,462 地鉱: 11,570)
雑誌タイトル	2,702	タイトル (地球: 926 地鉱: 1,776)

※貴重書を含む約1,800冊の図書が地質鉱物学教室から理学部中央図書室に移管されました。

※図書室ホームページについて

新しく導入された電子リソース・新着図書・雑誌の紹介など随時更新しています。図書室の利用案内や、所蔵する雑誌の目録、学位論文のリストなども掲載しています。

地球惑星科学専攻図書室のホームページ

<http://www.eps.sci.kyoto-u.ac.jp/tosho/>

蔵書検索(KULINE)は図書室に常備されている端末機でも利用できます。

(地質学鉱物学分野)

平成 22 年度からは、理学研究科中央図書館のご協力のもとに、図書の廻及入力作業が始まり、現在も継続中です。これは地球惑星科学専攻図書室のうち、北側の地質学鉱物学教室書庫、および理学部 6 号館地下の自然史書庫等に保管されている膨大な単行本・雑誌・地図を対象としています。井上・石川の両ベテラン司書の奮闘のおかげで、作業は着々と進行しています。

作業の過程で古い資料の再発見・再評価も進みました。例えば、地質学鉱物学教室書庫から耐震工事の避難のために中央図書館に移された資料の中から、歴代教授の野帳が再発見されました。その中には、1923 年 9 月 1 日に起きた関東大震災に際し、京都帝国大学・小川琢治教授(地質学)が先遣調査隊を派遣した様子を記したものもあります。小川琢治先生は、湯川秀樹先生の実父に当たる方です。この資料が見つかったおかげで、当時の震災対応の詳細が明らかになりました。

また、この資料を翻刻・解読した結果、これらの資料と、現在、京都大学総合博物館に保管されている新聞:「静岡新報」の実物コレクションとの間に深いつながりがあることがわかりました。すなわち、先遣隊員の本間不二男氏(後の岩石学講座教授)は、静岡市に滞在して情報収集を行う過程で震災記事の豊富な「静岡新報」に着目し、本隊のいる京都帝国大学に送ったものであることがわかりました。

東日本大震災があった今年、これら 88 年前の資料の再発見は社会の注目を集め、2011 年 5 月 13 日付の京都新聞朝刊に「関東大震災 京大調査団員の手紙」と題する記事として紹介されました。また、2011 年 5 月 14 日・15 日の両日に京都大学総合博物館で開かれた「大地は語る 2011」イベントに資料の実物が展示され、多くの来館者の注目を集めました。

これらの資料は、現在、総合博物館内のアーカイブス部門に移管し、専門家による調査と保全がはかられています。

地質学鉱物学教室図書委員会委員長代理 前田 晴良

4. 教室経理

(地球物理学分野)

項目	金額(千円)	
大学運営費交付金	40,311	(支出内訳)
間接経費	4,278	研究教育経費 19,736
		図書経費 7,821
		事務室経費 1,074
		技術情報委員会経費 1,734
		人件費 6,958
		維持費 7,266
産学連携等研究費 (受託研究)	52,783	(支出内訳)
		函館地域産業振興財団 淡路 9,128
		海洋研究開発機構 石川 4,754
		青森県産業技術センター 石川 1,480
		宇宙航空研究開発機構 石川 630
		文部科学省 齊藤 2,823
		海洋研究開発機構 平原 20,250
		科学技術振興機構 里村 1,709
		三井物産株式会社 重 5,063
		宇宙航空研究開発機構 重 6,946
産学連携等研究費 (共同事業・共同研究)	6,245	宇宙航空研究開発機構 根田 1,645
		四国総合研究所 堤 500
		東京大学地震研究所 平原 4,100
助成金	33	活構造学研究助成 堤 33
科学研究費補助金	51,700	(教室所属員が代表者になった分)(獲得額内訳)
		基盤研究(A) 9,900(1件)
		基盤研究(B) 30,400(8件)
		基盤研究(C) 2,300(2件)
		若手研究(B) 1,300(2件)
		萌芽研究 1,300(1件)
		日本学術振興会特別研究員奨励費 6,500(9件)

(地質学鉱物学分野)

項目	直接経費計(千円)		代表者	直接経費(千円)
京都大学研究費	4,000	コアステージバックアップ 1 件	酒井 治孝	4,000
		最先端・次世代支援 1 件	渡邊 裕美子	210
産学連携等研究費				
(受託研究)	3,000	農業・食品産業研究機構	平田 岳史	2,000
		日本きのこセンター	平田 岳史	1,000
(共同研究)	818	日本原子力機構	田上 高広	700
		東京大学地震研究所	渡邊 裕美子	178
(助成金)	500	東京地学協会研究・調査助成金	酒井 治孝	500
教室構成員が代表者になった分				
科学研究費補助金	155,520	基盤研究(S) 1 件	平田 岳史	107,400
		基盤研究(A) 1 件	平島 崇男	37,500
		基盤研究(B) 1 件	田上 高広	5,720
		基盤研究(C) 2 件	小畑 正明	1,100
			前田 晴良	1,100
		若手研究(B) 2 件	渡邊 裕美子	900
			佐藤 活志	600
		学振特別研究員奨励費 2 件	上田 匡将	1,200

5. 各種委員会

(地球物理学分野)

委員会等名称		氏名
教室	教室主任	中西一郎
	副教室主任	余田成男
	図書	堤浩之・石岡圭一・久家慶子・石川洋一・齊藤昭則・宮崎真一・重尚一・銭谷多美
	技術情報	石岡圭一・福田洋一・中西一郎・堤浩之・根田昌典・齊藤昭則・西憲敬・高畑武志
	ミニクラス担当	平原和朗・余田成男・町田忍・中西一郎・里村雄彦・宮崎真一・重尚一・藤浩明
	広報委員	中西一郎・石岡圭一・堤浩之・延原由紀・青島裕美
	大学院学事	町田忍・久家慶子・根田昌典
	オープンキャンパス	宮崎真一・石川洋一
	環境安全委員会	根田昌典・西憲敬・延原由紀
	理学部	研究科会議メンバー
専攻主任		町田忍
将来計画委員会		余田成男・中西一郎・平原和朗・家森俊彦
理学部・教育委員会		福田洋一・秋友和典
環境安全委員会		根田昌典
理学部・広報委員会		重尚一・齊藤昭則
国際・社会交流委員会		宮崎真一
事務組織・研究支援体制検討委員会		中西一郎
人権擁護委員会		淡路敏之
図書・出版委員会		堤浩之
ネットワーク・電子計算機委員会		石岡圭一
大学院教育教務委員会		久家慶子
自己点検・評価委員会		淡路敏之
兼業委員会		中西一郎
セミナーハウス管理運営委員会		重尚一
リスク管理委員会		重尚一
6号館運営委員		秋友和典
1号館運営委員		秋友和典
4号館運営委員		町田忍
情報セキュリティ委員会		福田洋一
技術開発室運営委員会	中西一郎	
プロジェクトスペース委員会	町田忍	
リサーチフェロー委員会	町田忍	
わくわく理学編集委員会	重尚一	

全学	学際融合教育推進センター長 評議員・副研究科長 全学共通教育システム委員会地学部会 全学同窓会 理事補 外国人留学生奨学金等選考委員会 未来戦略検討委員会 スーパーコンピュータシステム運用委員会 学術情報メディアセンター全国共同利用運営委員会	余田成男 平原和朗 余田成男・秋友和典 福田洋一 淡路敏之 平原和朗 久家慶子 石川洋一 石岡圭一

(地質学鉱物学分野)

	委 員 会 等 名 称	氏 名
	教室主任	小畑正明
	専攻主任	山路 敦
	地鉱・地物専攻連絡会	小畑正明・山路 敦
	会計	小畑正明・田上高広・平田岳史・山路 敦・ 前田晴良・下林典正
	図書・(年報)	酒井治孝・平田岳史・前田晴良・下林典正・ 河上哲生・渡邊裕美子
教	教室内ネットワーク	三宅 亮・佐藤活志
	教室内自己点検・評価	小畑正明・平島崇男・田上高広・酒井治孝・ 平田岳史・山路 敦
	衛生危険物連絡	小畑正明・平田岳史・三宅 亮・松岡廣繁・ 河上哲生・渡邊裕美子・
	自動車	堤 昭人・松岡廣繁
	標本	前田晴良・下林典正・堤 昭人・松岡廣繁・ 河上哲生
	技術室	平島崇男・下林典正・堤 昭人・松岡廣繁・ 河上哲生・佐藤活志
	紀要	小畑正明・山路 敦
	人権擁護	小畑正明・平島崇男・田上高広・酒井治孝・ 山路 敦
	無機廃液処理担当者	平田岳史
	有機廃液処理担当者	平田岳史
室	グループ代表	小畑正明・田上高広・平田岳史・山路 敦・ 前田晴良・下林典正
	幅合部	平島崇男
	教室会議・研究者会議議長	小畑正明
	院生会議	横山隆臣
	オープンキャンパス担当	平島崇男・平田岳史・山路 敦

研究科会議メンバー	酒井治孝・山路 敦
将来計画委員会	小畑正明・山路 敦
理学部・教育委員会	田上高広・下林典正(理学部)
環境安全委員会	平島崇男
情報・広報委員会	三宅 亮
情報セキュリティー	小畑正明
理 国際・社会交流委員会	平島崇男・山路 敦
事務組織・研究支援体制検討委員会	小畑正明・酒井治孝
人権擁護委員会	酒井治孝
図書・出版委員会	酒井治孝
大学院教育教務委員会	山路 敦
自己点検・評価委員会	小畑正明・山路 敦
兼業委員会	平島崇男
学 1号館運営委員	小畑正明
2号館運営委員	小畑正明
6号館運営委員	小畑正明
KUCRUS 委員	平田岳史
1号館モニター槽委員	河上哲生
理学研究協会	河上哲生
北部構内実験排水委員会*	該当せず(*22年度は物理・生物;23年度は地鋳)
部 自家用電気工作物保安主任者・ 保安要員	小畑正明
<hr/>	
全 一般教育地学部会	平島崇男
学 教室事務電算管理運営委員(任期2年)	平田岳史

6. 職員名簿

地球物理学分野(2011年4月1日現在)

教員:

教授: (兼)淡路敏之 (海洋物理学)
町田 忍 (地球電磁気学)
余田成男 (気象力学)
平原和朗 (地震学)
中西一郎 (相関地球惑星科学)
福田洋一 (測地学)
里村雄彦 (物理気候学)
(兼)鬼頭昭雄 (気象学)(気象庁気象研究所)

准教授: 秋友和典 (海洋物理学)
久家慶子 (地震学)
堤 浩之 (活構造学)
石岡圭一 (気象力学)
宮崎真一 (固体地球物理学)
重 尚一 (物理気候)
(兼)堀 高峰 (地震学)(独立行政法人海洋研究開発機構)

助教: 根田昌典 (海洋物理学)
西 憲敬 (物理気候学)
齊藤昭則 (地球電磁気学)
内藤陽子 (気象力学)
石川洋一 (海洋物理学)

職員: 延原由紀(育休中)
西浦由利子
高畑武志

事務補佐員: 青島裕美

臨時用務員: 毛利陽子

(地質学鉱物学分野)

教員:

教授: 小畑正明 (岩石学)
平島崇男 (岩石学)
田上高広 (地球年代学)
酒井治孝 (堆積学・テクトニクス)
大野照文 (地層学・古生物学) (総合博物館)
平田岳史 (宇宙地球化学)
山路 敦 (構造地質学・テクトニクス)

准教授: 前田晴良 (地層学・古生物学)
下林典正 (鉱物学)
三宅 亮 (鉱物学)

助教: 松岡廣繁 (地層学・古生物学)
堤 昭人 (構造地質学)
河上哲生 (岩石学)
渡邊裕美子 (同位体地球科学)
佐藤活志 (構造地質学)

職員:

事務室: 入野健志
岩崎里映
本多春華

図書室: 木村敬子

薄片技術室: 堤 久雄

用務員室: 中江かすみ

付録1. 研究活動・論文・報告書・学会発表

(地球物理分野)

◇論文

- Abe, Y., T. Ohkura, T. Shibutani, K. Hirahara and M. Kato, Crustal structure beneath Aso Caldera, Southwest Japan, as derived from receiver function analysis, *J. Volcanol. Geotherm. Res.*, 195, 1–12, doi:10.1016/j.jvolgeores.2010.05.011, 2010.
- Akitomo, K., 2010. Baroclinic instability and submesoscale eddy formation in weakly stratified oceans under cooling, *Journal of Geophysical Research*, 115, C11027, doi:10.1029/2010JC006125.
- Chen, C. H., J. D. Huba, A. Saito, C. H. Lin, and J. Y. Liu, 2011. Theoretical study of the ionospheric Weddell Sea Anomaly using SAMI2. *J. Geophys. Res.*, Vol. 116, A04305, doi:10.1029/2010JA015573.
- Doi, K., K. Shibuya, Y. Aoyama, H. Ikeda and Y. Fukuda (2010): Observed gravity change at Syowa Station induced by Antarctic ice sheet mass change, *IAG Symposia* 135, Springer, 557–562, DOI 10.1007/978-3-642-10634-7_74.
- Elsaesser G. S., C. D. Kummerow, T. S. L'Ecuyer, Y. N. Takayabu, and S. Shige, 2010: Observed self-similarity of precipitation regimes over the tropical oceans. *J. Climate*, 23, 2686–2698.
- Forster, P.M., and D.W.J. Thompson (Coordinating Lead Authors), M.P. Baldwin, M.P. Chipperfield, M. Dameris, J.D. Haigh, D.J. Karoly, P.J. Kushner, W.J. Randel, K.H. Rosenlof, D.J. Seidel, S. Solomon, G. Beig, P. Braesicke, N. Butchart, N.P. Gillett, K.M. Grise, D.R. Marsh, C. McLandress, T.N. Rao, S.-W. Son, G.L. Stenchikov, and S. Yoden, Stratospheric changes and climate, Chapter 4 in *Scientific Assessment of Ozone Depletion: 2010*, Global Ozone Research and Monitoring Project-Report No. 52, World Meteorological Organization, Geneva, Switzerland, pp 4.1–4.60
- Fu, G., W. Sun, Y. Fukuda, S. Gao and T. Hasegawa (2010): Effects of Earth's curvature and radial heterogeneity in dislocation studies: Case studies of the 2008 Wenchuan earthquake and the 2004 Sumatra earthquake, *Earthq. Sci.* 23, 301–308, Doi: 10.1007/s11589-010-0727-5.
- Fu, G., W. Sun, Y. Fukuda and S. Gao (2010): Coseismic displacements caused by point dislocations in a three-dimensional heterogeneous, spherical earth model, *Geophys. J. Int.*, 183, 706–726, doi: 10.1111/j.1365-246X.2010.04757.x.
- Fujiwara, M., H. Vömel, F. Hasebe, M. Shiotani, S.-Y. Ogino, S. Iwasaki, N. Nishi, T. Shibata, K. Shimizu, E. Nishimoto, J. M. Valverde Canossa, H. B. Selkirk, and S. J. Oltmans, 2010: Seasonal to decadal variations of water vapor in the tropical lower stratosphere observed with balloon-borne cryogenic frost point hygrometers, *J. Geophys. Res.*, 115, D18304, doi:10.1029/2010JD014179.
- Fukuda Y., J. Nishijima, T. Hasegawa, Y. Sofyan, M. Taniguchi (2010): Monitoring groundwater variations using A10 absolute gravimeter, *Proc. International Symposium on Terrestrial Gravimetry: Static and Mobile Measurements*, 22–25 June 2010, Russia, Saint Petersburg. 84–90.
- Fukuda Y., J. Nishijima, M. Taniguchi (2010): Applications of Absolute Gravity Measurements for Environmental Issues, *Proc. 5th Kentingan Physics Forum, Sahid Jaya Solo Hotel*, July 14, 2010, 85–88.
- Guangyu, F., W. Sun, Y. Fukuda, and S. Gao (2010): Coseismic displacements caused by point dislocations in a three-dimensional heterogeneous, spherical earth model, *Geophysical Journal International*, 183, 706–726, doi: 10.1111/j.1365-246X.2010.04757.x.
- Guangyu, F., W. Sun, Y. Fukuda, S. Gao and T. Hasegawa (2010): Effects of Earth's curvature and radial heterogeneity in dislocation studies: Case studies of the 2008 Wenchuan earthquake and the 2004 Sumatra earthquake, *Earthquake Science*, 23, 301–308, Doi: 10.1007/s11589-010-0727-5.
- Harada, Y., S. Machida, Y. Saito, S. Yokota, K. Asamura, M. N. Nishino, T. Tanaka, H. Tsunakawa, 2010. Interaction between terrestrial plasma sheet electrons and the lunar surface: SELENE (Kaguya) observations, *Geophys. Res. Lett.*, Vol. 37, L19202, doi:10.1029/2010GL044574.
- Hitchcock, P., T. G. Shepherd, and S. Yoden, 2010: On the approximation of local and Linear radiative damping in

the middle atmosphere. *Journal of the Atmospheric Sciences* Vol.67, pp2070–2085

- Hori T. and S. Miyazaki (2010): Hierarchical asperity model for multiscale characteristic earthquakes: a numerical study for the off-Kamaishi earthquake sequence in the NE Japan subduction zone, *Geophys. Res. Lett.*, 37, L10304, doi:10.1029/2010GL042669.
- Horinouchi, T., Nishizawa, S., Watanabe, C., Tomobayashi, A., Otsuka, S., Koshiro T., Hayashi, Y.-Y., and GFD Dennou Club, 2010: Gfdnavi web-based data and knowledge server software for geophysical fluid sciences, Part I: Rationales, stand-alone features, and supporting knowledge documentation linked to data. *Lecture Notes in Computer Science*, 6913 93–104
- Kida, S., S. Shige, and T. Manabe, 2010: Comparison of rain fractions over tropical and sub-tropical ocean obtained from precipitation retrieval algorithms for microwave sounders. *J. Geophys. Res.*, 115, D24101, doi:10.1029/2010JD014279.
- Kohma, M., S. Nishizawa, and S. Yoden, 2010: Classification of Polar-night Jet Oscillations and Their Relationship to Fast and Slow Variations in a Global Mechanistic Circulation Model of the Stratosphere and Troposphere. *J. Climate*, 23, 6438–6444. DOI: 10.1175/2010JCLI2458.1
- Konda, M.(2010): AIR-MASS TRANSFORMATION ACROSS THE SST FRONT IN THE KUROSHIO EXTENSION REGION RETRIEVED BY THE SURFACE FLUX BUOYS AND ADVANCED MICROWAVE SCANNING RADIOMETER FOR EARTH OBSERVATION, *International Archives of the Photogrammetry, Remote Sensing and Spatial Information Science*, Volume XXXVIII, Part 8,W09O13, 969–974, Kyoto Japan 2010
- Konda, M., H. Ichikawa, H. Tomita, M. F. Cronin, (2010): Surface heat flux variations across the Kuroshio Extension as observed by surface flux buoys, *J. Climate*, vol. 23(19), 5206–5221.
- Konda, M., T. Ono, O. Tsukamoto, and K. Uehara (2010): Shipboard Measurement of Turbulent Fluxes by Eddy Covariance Technique in the Kuroshio Extension Region, *Techno Ocean 2010, A New Era of the Ocean. Ocean Circulation and Remote Sensing session chair by M. Konda*, (DVD), October 14–16, Kobe, Japan
- Kouketsu, S., T. Doi, T. Kawano, S. Masuda, N. Sugiura, Y. Sasaki, T. Toyoda, H. Igarashi, Y. Kawai, K. Katsumata, H. Uchida, M. Fukasawa, T. Awaji: Deep ocean heat content changes estimated from observation and reanalysis product and their influence on sea level change, *JGR*, 116, C03012, 16PP.,2011
- Kuge, K., Y. Kase, Y. Urata, J. Campos, and A. Perez, Rupture characteristics of the 2005 Tarapaca, northern Chile, intermediate-depth earthquake: Evidence for heterogeneous fluid distribution across the subducting oceanic plate? , *J. Geophys. Res.*, 115, B9, B09305, doi:10.1029/2009JB007106, 2010.
- Masuda, S., T. Awaji, N. Sugiura, J. P. Matthews, T. Toyoda, Y. Kawai, T. Doi, S.Kouketsu, H. Igarashi, K. Katsumata, H. Uchida, T. Kawano, M. Fukasawa: Simulated rapid warming of abyssal North Pacific waters, *Science*, 329, 319–322, 2010.
- Matsumura, M., T.Iyemori, Y.Tanaka, D.Han, M.Nose, N.Oshiman, M.Utsugi, H.Shinagawa, Y.Odagi, Y.Tabata, 2010. The predominant periods of the atmospheric perturbations and geomagnetic oscillations, *Advances in Geosciences*, World Scientific Publishing Company, Vol.21, pp 129–142.
- Mitsui N, T. Hori, S. Miyazaki, K. Nakamura (2010): Constraining interplate frictional parameters by using limited terms of synthetic observation data for afterslip: a preliminary test of data assimilation, *Theoretical and Applied Mechanics Japan*, 58, 113–120.
- Miyashita, Y., S. Machida, A. Ieda, D. Nagata, Y. Kamide, M. Nosé, K. Liou, T. Mukai, S. P. Christon, C. T. Russell, I Shinohara, Y. Saito , 2010. Pressure changes associated with substorm dipolarization in the near-Earth plasma sheet, *J. Geophys. Res.*, 115, A012239, doi:10.1029/2010JA015608.
- Mochizuki, T., M. Ishii, M. Kimoto, Y. Chikamoto, M. Watanabe, T. Nozawa, T. Sakamoto, H. Shiogama, T. Awaji, N. Sugiura, T. Toyoda, S.Yasunaka, H. Tatebe, and M. Mori: Pacific decadal oscillation hindcasts relevant to near-term climate prediction, *PNAS*, 107, 1833–1837, 2010.
- Nagano, A., K. Ichikawa, H. Ichikawa, H. Tomita, H. Tokinaga, and M. Konda, (2010): Stable volume and heat transports of the North Pacific subtropical gyre revealed by indentifying the Kuroshio in synoptic hydrography south of Japan. *J. Geophys. Res.*, vol. 115, C09002, doi:10.1029/2009JC00574.

- Nakamura, T., Y. Kawasaki, T. Kono and T. Awaji: Large-amplitude internal waves observed in the Kruzenshtern Strait of the Kuril Island Chain and possible water transport and mixing, *Continental Shelf Research*, 30, 598–607, 2010.
- Nakamura, T., T. Toyoda, Y. Ishikawa, and T. Awaji: Effects of mass source/sink at the western boundary on the wind-driven gyres: Implications for the ventilation of the North Pacific intermediate layer through convection in the Okhotsk Sea and tidal mixing at the Kuril Straits, *JO*, 66, 41–60, 2010.
- Nishijima, J. Y. Fujimitsu, Y. Sofyan, Y. Fukuda, T. Hasegawa and M. Tanigushi (2010): A geothermal reservoir monitoring using an absolute gravity measurement around Takigami geothermal power plant, central Kyushu, Japan, *RENEWABLE ENERGY 2010 Proceedings (CD-ROM)*, 2010.10.
- Nishijima, J., H. Saibi, Y. Sofyan, S. Shimose, Y. Fujimitsu, S. Ehara, Y. Fukuda, T. Hasegawa and M. Taniguchi (2010): Reservoir monitoring using hybrid micro-gravity measurements in the Takigami geothermal field, Central Kyushu, Japan, *Proceedings World Geothermal Congress 2010, Bali, Indonesia, 25–29 April 2010*, 6p.
- Nishizawa, S., Horinouchi, T., Watanabe, C., Isamoto, Y., Tomobayashi, A., Otsuka, S., and GFD Dennou Club: 2010 Gfdnavi, web-based data and knowledge server software for geophysical fluid sciences, Part II: Restful web services and object-oriented programming interface. *Lecture Notes in Computer Science*. 6193, PP105–116
- Ogohara, K. and T. Satomura, 2010: Changes in mass flow caused by CO₂ condensation in the Martian atmosphere. *Adv. Geosci.*, 19, 195–205.
- Ohtani, M., K. Hirahara, Y. Takahashi, T. Hori, M. Hyodo, H. Nakashima, and T. Iwashita, Fast computation of quasi-dynamic earthquake cycle simulation with Hierarchical Matrices, *Procedia Com. Sci.*, 4, 1456–1465, 2011.
- Ohzono, M., T. Sagiya, K. Hirahara, M. Hashimoto, A. Takeuchi, Y. Hosono, Y. Wada, K. Onoue and R. Doke, Strain accumulation process around the Atotsugawa fault system in the Niigata–Kobe Tectonic Zone, *Geophys. J. Int.*, doi:10.1111/j.1365-246X.2010.04876.x, 2011.
- Ramos, N. T. and Tsutsumi, H., 2010, Evidence of large prehistoric offshore earthquakes deduced from uplifted Holocene marine terraces in Pangasinan Province, Luzon Island, Philippines, *Tectonophysics*, 495, 145–158.
- Saito., S.I., R. Mugo, I.N. Radiarta, S. Asaga, F. Takahashi, T. Hirawake, Y. Ishikawa, T. Awaji, T. In, S. Shima, Some operational uses of satellite remote sensing and marine GIS for suitanabel fisheries and aquaculture, *ICES J. of Marine Sci.*, 68, 687–695, 2011.
- Satomura, T., K. Yamamoto, B. Sysouphanthavong, and S. Phonevilay, 2011: Diurnal variation of radar echo area in the middle of Indochina. *J. Meteor. Soc. Japan*, 89A, 299–305.
- Sugino, M. and T. Satomura, 2010: Long-lived Typhoons over Indochina. *J. Res. Eng. Tech.*, 7, 97–104.
- Sugito, N., Okada, A., and Tsutsumi, H., 2010, Geologic evidence for surface rupture associated with the 1847 M 7.4 Zenkoji earthquake at Dannohara, Nagano City, Japan, *Bulletin of the Seismological Society of America*, 100, 1678–1694.
- Takayabu, Y. N., S. Shige, W.-K. Tao, and N. Hirota, 2010: Shallow and deep latent heating modes over tropical oceans observed with TRMM PR spectral latent heating data. *J. Climate*, 23, 2030–2046.
- Tanaka, Y., and K. Akitomo, 2010. Alternating zonal flows in a two-layer wind-driven ocean, *Journal of Oceanography*, vol.66, 475–487.
- Tao, W.-K., S. Lang, X. Zeng, S. Shige, and Y. N. Takayabu, 2010: Convective and stratiform rainfall and their relationship to latent heating. *J. Climate*, 23, 1874–1893.
- Tatedoko, M., T. Shimizu, A. Saito and M. Yoshikawa, 2010. A Retrieval Method for Earth Science Data Based on Integrated Use of Wikipedia and Domain Ontology, *Database and Expert Systems Applications, Lecture Notes in Computer Science*, 6262/2010, 277–284, doi: 10.1007/978-3-642-15251-1_23.
- Toyoda, T., T. Awaji, N. Sugiura, S. Masuda, H. Igarashi, Y. Sasaki, Y. Hiyoshi, Y. Ishikawa, T. Mochizuki, T. T. Sakamoto, H. Takebe, Y. Komuro, T. Suzuki, T. Nishimura, M. Mori, Y. Chikamoto, S. Yasunaka, Y. Imada, M.

- Arai, M. Watanabe, H. Shiogama, T. Nozawa, A. Hasegawa, M. Ishii, M. Kimoto: Impact of the Assimilation of Sea Ice Concentration Data on an Atmosphere–Ocean–Sea Ice Coupled Simulation of the Arctic Ocean Climate, SOLA, 2011, Vol. 7, 037–040, doi:10.2151/sola.2011-010, 2011.
- Watanabe, Y., H. Matsuoka, S. Sakai, J. Ueda, M. Yamada, S. Ohsawa, M. Kiguchi, T. Satomura, S. Nakai, B. Brahmantyo, K. A. Maryunani, T. Tagami, K. Takemura, and S. Yoden, 2010: Comparison of stable isotope time series of stalagmite and meteorological data from West Java, Indonesia. *Paleogeogr. Paleoclim. Paleoeco.*, 293, 90–97.
- Yamamoto, K., Y. Fukuda and K. Doi (2010): Interpretation of GIA and ice–sheet mass trends over Antarctica using GRACE and ICESat data as a constraint to GIA models, *Tectonophysics*, doi:10.1016/j.tecto.2010.11.010, Available online 26 November 2010.
- Yamazaki, H. and T. Satomura, 2010: Nonhydrostatic Atmospheric Modeling Using a Combined Cartesian Grid. *Mon. Wea. Rev.*, 138, 3932–3945.
- Yoden, S., Y.-Y. Hayashi, K. Ishioka, Y. Kitamura, S. Nishizawa, S. Takehiro, and S. Yamada, 2010: Jet formation in decaying two–dimensional turbulence on a rotating sphere. *Proceedings of the IUTAM Symposium on Rotating Stratified Turbulence and Turbulence in the Atmosphere and Oceans*, D. Dritschel(Ed.), Springer, IUTAM BOOKSERIES, 2010, Volume 28, Part 4, 253–263, DOI:10.1007/978-94-007-0360-5_21
- Zhang, C., J. Ling, S. Hagos, W.-K. Tao, S. Lang, Y. N. Takayabu, S. Shige, M. Katsumata, W. S. Olson, and T. L’Ecuyer, 2010: MJO signals in latent heating: Results from TRMM retrievals. *J. Atmos. Sci.*, 67, 3488–3508.
- 石村大輔, 加藤茂弘, 岡田篤正, 竹村恵二, 2010, 三方湖東岸のボーリングコアに記録された三方断層帯の活動に伴う後期更新世の沈降イベント, *地学雑誌*, 119, 775–793.
- 石村大輔, 2010, 関ヶ原周辺における段丘編年と活断層の活動性, *第四紀研究*, 49, 255–270.
- 大塚 成徳・余田 成男, 2010: アンサンブル予報に基づく気象災害軽減のための判断支援システムの試作. *京都大学防災研究所年報*, 53-B, 377–382
- 垣内佑哉・堤 浩之・竹村恵二・鈴木毅彦・村田昌則, 2010, 琵琶湖西岸断層帯北部上寺断層の活動による河成段丘の隆起, *第四紀研究*, 49, 219–231.
- 加納将行・宮崎真一・伊藤耕介・平原和朗 (2010): 余効すべり人工データを用いたアジョイント法による摩擦パラメータ・初期値の推定, *地震*2,63, 57–69, 2010
- 小向井淳・岡本謙一・重尚一・真鍋武嗣, 2010a: TRMM 降雨レーダアルゴリズム改良のための地表面規格化レーダ断面積の解析 PART I :海上の参照用規格化レーダ断面積, *日本リモートセンシング学会論文*, *日本リモートセンシング学会論文*, 30, 221–233.
- 小向井淳・岡本謙一・重尚一・真鍋武嗣, 2010b: TRMM 降雨レーダアルゴリズム改良のための地表面規格化レーダ断面積の解析 PART II:陸上の参照用規格化レーダ断面積, *日本リモートセンシング学会論文*, 30, 234–247.
- 堤 浩之・杉戸信彦・越谷 信・石山達也・今泉俊文・丸島直史・廣内大助, 2010, 岩手県奥州市・一関市に出現した2008年岩手・宮城内陸地震の地震断層, *地学雑誌*, 119, 826–840.

◇研究機関レポート

- 根田昌典(2011):2010年度 宇宙航空研究開発機構 共同研究「GCOM-W1 AMSR2 で得られる海上風速観測精度の向上とそれを用いた海面フラックスデータの評価」31 ページ, 調達仕様書番号:JX-PSPC-308662
- 平原 和朗・大谷 真紀子・高橋 康人・堀高 峰・兵藤 守、「南海トラフ巨大地震発生サイクルの物理的理解」京都大学学術情報メディアセンター、全国共同利用版 広報【プログラム高度化支援事業研究報告】 vol.9 No.2 2010
- 平原和朗、学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点平成22年度採択課題 10-NA07 「巨大地震発生サイクルシミュレーションの高度化」報告書(<http://jhpcn-kyoten.itc.u-tokyo.ac.jp/>)

◇研究費などの成果報告書

なし

◇一般書・啓蒙書・読み物等

Fukuda Y., 2011. Groundwater and Subsurface Environments – Human Impacts in Asian Coastal Cities–: Chapter 5 Monitoring Groundwater Variations Using Precise Gravimetry on Land and from Space, pp85–112, Ed. Makoto Taniguchi, Springer. 2011.

平原和朗、地震発生予測シミュレーションに向けて、地震ジャーナル、50,6–10, 2010.

平原和朗・堀高峰・加藤尚之、地震サイクルシミュレーションの課題と目標、科学、8,794–796,2010.

余田 成男, (分担), 2011: 総説 宇宙天気. 「第 13 章 太陽活動変動の地球気候への影響」柴田一成、上出洋介 編, 京都大学学術出版会, 469–507.

◇その他

榎本剛, 茂木耕作, 伊藤耕介, 吉田聡, 山口宗彦: THORPEX 研究連絡会第4回研究集会の報告, 天気, 2011 年 3 月

末岡 茂, 堤 浩之, 田上高広, 長谷部徳子, 山田国見, 田村明弘, 荒井章司, 2010, 熱年代学的手法に基づく木曾山脈の隆起・削剥史. フィッション・トラックニュースレター, 23, 1–3.

杉戸信彦・池田安隆・東郷正美・今泉俊文・堤 浩之, 2010, 1:25,000 都市圏活断層図「邑知潟」, 国土地理院.

杉戸信彦・堤 浩之, 2010, 1:25,000 都市圏活断層図邑知潟断層帯とその周辺「邑知潟」「邑知潟西南部」解説書, 国土地理院技術資料 D・1–No. 561, 19 p.

堤 浩之・中田 高・平川一臣・杉戸信彦・石山達也, 2010, 1:25,000 都市圏活断層図「邑知潟西南部」, 国土地理院.

柳瀬亘, 中村哲, 伊藤耕介, 茂木耕作, 川瀬宏明: 若手連携の萌芽 ～気象気候若手研究者交流会に参加して～, 天気, 2011 年 3 月

余田 成男, 2010: 領域モデルによるアンサンブル予報(2008年度秋季大会シンポジウム「地域の詳細な気象と気候の再現を目指して-ダイナミックダウンスケール技術の高度利用-」の報告). 「天気」第 57 巻 8 号報, 554–560.

◇学会・会議・シンポジウムの発表

- Akiya, Y., Saito, A., Sakanaoi, T., Tsugawa T., 2010. Conjugate observations of total electron content at high-latitudes and auroral structures observed by the Reimei satellite, Asia-Pacific Radio Science Conference '10, Toyama.
- Akiya, Y., Saito, A., Sakanaoi, T., Yamazaki, A., Hirahara M., 2010. Spatial distribution of the airglow observed by the Reimei/MAC limb observations, American Geophysical Union 2010 Fall Meeting, San Francisco.
- Ali Pinar・Nihan Sezgin・Keiko Kuge, Orientation of Stress Field in the Proximity of the Creeping Section of the North Anatolian Fault Zone, Turkey, 日本地球惑星科学連合 2010 年大会, STT075-07, 千葉、幕張、5 月.
- Chen, C. H., A. Saito, Charles Lin, J. Y. Liu, 2010. Theoretical Study of the Ionospheric Mid-latitude Summer Nighttime Anomaly (MSNA) using SAMI2, 日本地球惑星科学連合 2010 年大会, 千葉.
- Chen, C. H., J. D. Huba, A. Saito, Charles Lin, 2010. The mid-latitude nighttime ionospheric electron density enhancement in the Weddell Sea region, 25th CEDAR, Boulder.
- Chen, C. H., A. Saito, J. D. Huba, C. H. Lin, J. Y. Liu, 2010. A theoretical study of the mid-latitude electron density enhancement by SAMI2 model, Asia-Pacific Radio Science Conference '10, Toyama.
- Chen, C. H., A. Saito, J. D. Huba, C. H. Lin, J. Y. Liu, 2010. The ionospheric mid-latitude nighttime electron density enhancement, 128th SGPSS Fall Meeting, Okinawa.
- Chen, C. H., A. Saito, C. H. Lin, J. D. Huba, J. Y. Liu, 2010. Theoretical Study of the Ionospheric Weddell Sea Anomaly using SAMI2, 中間圏・熱圏・電離圏研究会, Tokyo.
- Fukuda, Y., Geodesy for Environmental Issues, An International Conference and Workshop on Acoustical & Geophysical Advances & Applications (AGCM 2011), Solo Paragon Hotel, March 8-9, 2011.(Invited talk on March 8, 2011)
- Fukuda, Y., H.Z. Abidin, J. Nishijima, Y. Sofyan, S. Miyazaki, T. Hasegawa, M. Hashimoto, M. Taniguchi, R.M. Delinom, Application of A10 absolute gravimeter for monitoring land subsidence and crustal movement in Indonesia, International Workshop on Geodynamics and Disaster Mitigation of West Java, Auditorium ITB-Bandung, 12-14, July, 2010 (Presented on July 12, 2010) .
- Fukuda, Y., H. Ikeda, H. Hayakawa, S. Yosshii, Y. Tamura, P. Manurung, Superconducting gravimeter observation in Cibinong, Indonesia, 2nd International Gravity Field Symposium, Faribanks, Alaska, 20-22, September 2010 (Presented, Sep., 22, 2010).
- Fukuda, Y., J. Nishijima, T. Hasegawa, Y. Sofyan, M. Taniguchi, Monitoring groundwater variations using A10 absolute gravimeter, International Symposium on Terrestrial Gravimetry: Static and Mobile Measurements (TG-SMM2010), 22-25, June 2010, Russia, Saint Petersburg. (Presented on June 23, 2010).
- Fukuda, Y., J. Nishijima, T. Hasegawa, Y. Sofyan, M. Taniguchi, H. Z. Abidin and R. M. Delinom, Monitoring Groundwater Variations Using a Portable Absolute Gravimeter, (EGU2010-3786, May 05), EGU General Assembly 2010, Vienna, Austria, May 2-7, 2010. (Poster)
- Fukuda Y., J. Nishijima, Y. Sofyan, S. Miyazaki, T. Hasegawa, M. Hashimoto, M. Taniguchi, H. Z. Abidin, R. M. Delinom, Application of A10 absolute gravimeter for monitoring land subsidence and crustal movement in Indonesia, 地球惑星科学連合 2010 年大会(MAG022-03), 千葉県千葉市, 幕張メッセ国際会議場, 2010 年 5 月 28 日 .
- Fukuda, Y., J. Nishijima, M. Taniguchi, Applications of absolute gravity measurements for environmental issues, International Conference on Physics and Its Applications for Environmentally Friendly Technology and Disaster Management Sahid Raya Hotel, Solo, Indonesia, July 14, 2010.
- Fukuda, Y., J. Nishijima, M. Taniguchi, Precision, Repeatability and Accuracy of A10 Absolute Gravimeter, 2010 AGU Fall Meeting, 13-17 December 2010, Moscone Center, San Francisco.(G11A-0631:Poster)
- Hasegawa, T., Y. Fukuda, K. Yamamoto, T. Nakaegawa, Y. Tamura and H. McQueen, Long-term trends of terrestrial water storage in south-east Australia revealed by GRACE and superconducting gravimeter, (EGU2010-7136, May 05), EGU General Assembly 2010, Vienna, Austria, May 2-7, 2010.

- Hirahara, K., A strategy of receiver function tomography, ASC2010, Hanoi, Vietnam, November.
- Hirahara, K., Y. Kaneda and T. Furumura, Research project for the next Nankai megathrust earthquake, southwest Japan, ASC2010, Hanoi, Vietnam, November (invited).
- Ishikawa, Y., T. Awaji, T. In, S.-I. Saitoh, Development of coastal data assimilation system for environmental monitoring/forecasting, PICES 2010, Portland, USA, Oct, 2010.
- Ishimura D., 2010, Chronology of fluvial terraces in the Kinki district, southwest Japan, based on tephra analysis of loamy soil, International Field Conference and Workshop on Tephrochronology, Volcanism and Human Activity, P15, Kirishima City, Japan, (May 2010)
- Ito, K.: Adjoint Equations of Rotunno and Emanuel (1987): Parameter Estimation and Sensitivity Analysis, 29th Conference on Hurricanes and Tropical Meteorology, Tucson, Arizona, May 2010
- Ito, K. Yoichi Ishikawa and Toshiyuki Awaji: Estimating Air-Sea Exchange Coefficients through an Adjoint Data Assimilation Method with the Intermediate Tropical Cyclone Model, 6th International Symposium on Gas Transfer at Water Surfaces (GTWS-6), Kyoto, Japan, May 2010
- Ito, K Yoichi Ishikawa and Toshiyuki Awaji: Modification of Air-Sea Exchange Coefficients in the High-Wind Regime of a Mature Tropical Cyclone Using an Adjoint Method, International Conference on Mesoscale Convective Systems (MCSs) and High-Impact Weather in East Asia (ICMCS-VIII), Nagoya, Japan, March 2011
- Ito, K., Yoichi Ishikawa, Toshiyuki Awaji and Yoshiaki Miyamoto: Short-timescale process in a mature tropical cyclone as a response to anomalous heat fluxes, International Conference on Mesoscale Convective Systems (MCSs) and High-Impact Weather in East Asia (ICMCS-VIII), Nagoya, Japan, March 2011
- Ito, R., S. Yamane and T. Satomura, Effects of reclamation works on regional climate, JSPS international Forum "Climatic Changes in Monsoon Asia (CCMA)", Jan 6-7, 2011, Bangkok, Thailand.
- Konda, M., 2010: Air-mass transformation across the SST front in the Kuroshio Extension region retrieved by the surface flux buoys and Advanced Microwave Scanning Radiometer for Earth Observation Satellite., ISPRS Technical Commission VIII Symposium, Kyoto International Conference Center, Kyoto, Aug. 9-12, 2010
- Konda, M., 2010: Air-mass transformation across the SST front in the Kuroshio Extension region retrieved by the surface flux buoys and Advanced Microwave Scanning Radiometer for Earth Observation Satellite., PORSEC 2010, Keelung, Taiwan, Oct. 18-22, 2010
- Konda, M., 2011: Evaluation of the sea surface flux through the improvement of the wind derived by GCOM-W AMSR2. GCOM Joint PI Workshop of Global Environment Observation Mission, TKP Otemachi Conference Center, Tokyo, Japan, Dec. 6-9, 2010
- Konda, M., T. Ono, O. Tsukamoto, and K. Uehara, 2010: Shipboard measurement of turbulent fluxes by eddy covariance technique in the Kuroshio Extension region. Techno Ocean 2010, A New Era of the Ocean. Ocean Circulation and Remote Sensing session chair by M. Konda, Kobe International Exhibition Hall, Kobe, Japan, Oct. 14-16, 2010
- Kubota, T., M. Kachi, R. Oki, T. Ushio, S. Shige, K. Aonashi, and K. Okamoto, 2010: Near-real-time global rainfall map using multi-satellite data by JAXA, 2010 Asia-Pacific Science Conference (Tsukuba, Japan, July 24-26, 2010)
- Kubota, T., M. Kachi, R. Oki, T. Ushio, S. Shige, K. Aonashi, and K. Okamoto, 2010: Near-real-time global rainfall map using multi-satellite data by JAXA and its validation, 2010 AGU Fall Meeting (San Francisco, California, USA, 13-17 December)
- Machida, S., 2010. Catapult current sheet relaxation model to explain triggering of substorm, International Space Plasma Symposium, Tainan, Taiwan, June 29, 2010. (招待講演)
- Machida, S., 2010. Catapult current sheet relaxation model to explain triggering of substorm, National Cheng Kung University, Tainan, Taiwan, (招待講演).
- Machida, S., 2010. Catapult Current Sheet Relaxation Model for Triggering Substorm, サブストーム開始機構研究会, 名古屋大学 STE 研究所, 名古屋.

- Machida, S., Y. Miyashita, and A. Ieda, 2011. Catapult current sheet relaxation model for substorm onset, Earth-Sun System Exploration: Variability in Space Plasma Phenomena, Kona, Hawaii, Jan 18. (招待講演)
- Matsumoto, J., T. Satomura, A. Higuchi, S. Kanae, H. Takahashi, P. Wu, N. Endo, H. Kubota, I. Akasaka, M. Hattori, J.-I. Hamada, S. Mori, M. D. Yamanaka, T. Oki, M.-C. Yen, T.-C. Chen, D. D. Tu, N. T. T. Thanh, T. V. Sap, N. D. Thanh, F. Syamsudin, S. Baimoung, S.-Y. Ogino, K. Masuda and T. Hayashi, Monsoon Asian Hydro-Atmosphere Scientific Research and prediction Initiative (MAHASRI) and climatic changes in Southeast Asia, JSPS international Forum “Climatic Changes in Monsoon Asia (CCMA)”, Jan 6-7, 2011, Bangkok, Thailand.
- Matsumoto, J., T. Satomura, M. D. Yamanaka, S. Mori, S.-Y. Ogino, P. Wu, N. Endo, M. Hattori, H. Kubota, H. Kamahori, N. V. Tue, N. T. T. Thanh, F. Syamsudin, Ailikun, B. Wang and J. Li, Monsoon Asian Hydro-Atmosphere Scientific Research and prediction Initiative (MAHASRI), MAIRS (Monsoon Asia Integrated Regional Study), AMY (Asian Monsoon Years 2007-2012) projects for the sustainable monsoon Asia, ICSS Asia 2011, March 2-4, 2011, Hanoi, Vietnam.
- Matsumura, M., H. Shinagawa, T. Iyemori, 2010. Numerical simulations of the formation process of acoustic-gravity wave resonance between the ground and the mesosphere, American Geophysical Union 2010 Fall Meeting, San Francisco. San Francisco, December.
- Y. Naito, N. Nishi, E. Nishimoto, M. Suzuki, C. Mitsuda, C. Takahashi, K. Imai, N. Manago, H. Hayashi, T. Sano, and M. Shiotani, 2011: Global distribution of minor constituents observed (口頭), SMILES and its dynamical background: AMS 16th Conference on Middle Atmosphere (Seattle, WA, USA) 2011.1.23
- Y. Naito, N. Nishi, E. Nishimoto, M. Suzuki, C. Mitsuda, C. Takahashi, K. Imai, N. Manago, H. Hayashi, T. Sano, and M. Shiotani, 2010: Global distribution of minor constituents observed by SMILES and its dynamical background (ポスター), EOS AURA Science Team Meeting (Boulder, CO, USA) 2010.9.27
- Y. Naito, N. Nishi, E. Nishimoto, M. Suzuki, C. Mitsuda, C. Takahashi, K. Imai, N. Manago, H. Hayashi, T. Sano, and M. Shiotani, 2011: Global distribution of minor constituents observed by SMILES and its dynamical background (ポスター), SMILES International Workshop. 2011 (京都市) 2011.3.14
- Nishi, N., J. Suzuki, A. Hamada, and M. Shiotani, 2010: Phase speed and period of equatorial Kelvin waves around the tropopause. American Geophysical Union (AGU) Fall meeting (San Francisco, USA, 17 Dec 2010)
- Nishijima, J., Y. Fujimitsu, Y. Sofyan, Y. Fukuda, T. Hasegawa, M. Taniguchi, A Geothermal Reservoir Monitoring Using an Absolute Gravity Measurement Around Takigami Geothermal Power Plant, Central Kyushu, Japan, Renewable Energy 2010, Pacifico Yokohama, Yokohama, Japan, 27 June - 2 July, 2010.
- Nishijima, J., H. Saibi, Y. Sofyan, S. Shimose, Y. Fujimitsu, S. Ehara, Y. Fukuda, T. Hasegawa, M. Taniguchi, Reservoir Monitoring Using Hybrid Micro-Gravity Measurements in the Takigami Geothermal Field, Central Kyushu, Japan, World Geothermal Congress 2010, Bali, Indonesia, 25-29 April 2010.
- Ogohara, K., and T. Satomura, Regionality of Dust Storm Expansion on Mars, Fourth International Workshop on the Mars Atmosphere: Modelling and Observations, February 8-11, 2011, Paris, France.
- Ohmi, S. and K. Hirahara, Detecting subsurface reflectors in Shikoku district, southwestern Japan, using Ambient Seismic Noise, 2010 AGU Fall meeting, S33A-2061, San Francisco, USA, December.
- Ohtani, M., K. Hirahara, Y. Takahashi, T. Hori, M. Hyodo, H. Nakashima and T. Iwashita, Large-scale quasi-dynamic earthquake cycle simulation with H-matrices, ASC2010, Hanoi, Vietnam, November.
- Okamoto, K., T. Manabe, and S. Shige, A proposal of the spaceborne new precipitation observation system (Tsukuba, Japan, July 24-26, 2010)
- Okamoto, K., T. Manabe and S. Shige, 2010: Spaceborne radar/microwave radiometer combined rain observation system, ERAD2010 The 6-th European Conference on Radar in Meteorology and Hydrology (Sibiu-Romania 6-10 September 2010)
- Okamoto, K., S. Shige, M. Kachi, T. Kubota, and T. Ushio, 2010: GSMap Overview, Techno-Ocean 2010 (Kobe, Japan, October 14, 2010)

- Otsuka, S. and Yoden, S., 2010: Numerical experiments on formation processes of thin moist layers in the tropical mid-troposphere over ocean (poster), WPGM, Taipei, 22-Jun-2010
- Otsuka, S. and Yoden, S., 2011: Numerical experiments on formation processes of thin moist layers in the tropical mid-troposphere over eastern Pacific (Poster), AMS 91st Annual Meeting, Seattle (USA) 27-Jan-2011
- Perez, J.S. and Tsutsumi, H., 2011, Paleoseismology along the Philippine fault zone in eastern Mindanao, Philippines. 2nd Workshop and Joint Coordination Meeting of Enhancement of Earthquake and Volcano Monitoring and Effective Utilization of Disaster Mitigation Information in the Philippines, Quezon City, Philippines (08 March 2011).
- Perez, J.S., Tsutsumi, H., Cahulogan, M.T., Daisuke, I. and Cabanlit, D.P., 2010, Evidence of large magnitude earthquake along the Philippine fault zone in eastern Mindanao, Philippines. 20th Year Commemoration of the 16 July 1990 Luzon Earthquake, Quezon City, Philippines (16 July 2010).
- Peter Hitchcock, Theodore Shepherd, Shigeo Yoden, Shunsuke Noguchi, Masakazu Taguchi, 2010: The dynamical origin of long time scales in the Arctic lower stratosphere(Oral). SPARC DynVar workshop, Boulder, Colorado, USA, November 3-5, 2010
- Saito, A., Y. Akiya, T. Tsugawa, and D. Yoshida, 2010. Development of a database of quick-look plots for the earth and space science data, American Geophysical Union 2010 Fall Meeting,
- Saito, A., Y. Akiya, T. Tsugawa, D. Yoshida, Y. Odagi, M. Takahashi, Y. Kumano, S. Iwasaki, and M. Yoshikawa, 2010. Development of educational programs using Dagik Earth, a four dimensional display of the Earth and planets, American Geophysical Union 2010 Fall Meeting,
- Saito, A., H. Eto, T. Tsugawa, M.Nishioka, and G. Ueno, 2010. Ionospheric Tomography using GPS Total Electron Content data with Constrained Least-squares Method, Committee on Space Research (COSPAR) 2010, Bremant, Germany.
- Saito, A., H. Eto, T. Tsugawa, M.Nishioka, G. Ueno Ionospheric Tomography with Constrained Least- Squares Method Using GPS Total Electron Content Data, Asia-Pacific Radio Science Conference '10, Toyama.
- Saito, A., Y. Goi, S. Kadobayashi, T. Tsugawa, M. Nishioka, 2010. Mid-latitude Ionospheric Disturbances Observed by GPS Receivers during the Long Low Solar Activity Period, Asia-Pacific Radio Science Conference '10, Toyama.
- Saito, A., Atsushi Yamazaki, Takeshi Sakanoi, Ichiro Yoshikawa, Takumi Abe, Yuichi Otsuka, Makoto Taguchi, Makoto Suzuki, Masayuki Kikuchi, Takuji Nakamura, Mamoru Yamamoto, Hideaki Kawano, Mamoru Ishii, Kazuaki Hoshino, Kazuyo Sakanoi, Hitoshi Fujiwara, Minoru Kubota, Mitsumu Ejiri, IMAP working group, 2011. Space-borne imaging observations of the Earth's upper atmosphere, 日本地球惑星科学連合2010年大会,千葉.
- Saito, A., D. Yoshida, Y. Odagi, M. Takahashi, T. Tsugawa, and Y. Kumano, 2010. Educational program using four-dimensional presentation of space data and space-borne data with Dagik Earth, Committee on Space Research (COSPAR) 2010, Bremant, Germany.
- Satomura, T., H. Kamimera, M. Katsumata, J. Matsumoto, S. Mori, S. Ogino and S. Yokoi, Toward the elucidation of typhoons' behavior over tropical land, JSPS international Forum "Climatic Changes in Monsoon Asia (CCMA)", Jan 6-7, 2011, Bangkok, Thailand.
- Satomura, T., Meteorological Early Warning Systems, Training Workshop on Meteorological Early Warning Systems for Prevention and Mitigation of Agricultural Disasters, 15-19 November 2010, Bangkok, Thailand.
- Satomura, T., Toward the mitigation of water disaster in Indochina: Efforts to make radar composite maps over borders, Typhoon Committee Integration Workshop on Urban Flood Risk Management in a Changing Climate: Sustainable and Adaptation Challenges, 6-10 September 2010, Macau, China.
- Satomura, T., Toward the mitigation of water disaster in Indochina: Efforts to make radar composite maps over borders -Part II-, Typhoon Committee Integration Workshop on Urban Flood Risk Management in a Changing Climate: Sustainable and Adaptation Challenges, 6-10 September 2010, Macau, China.
- Shige, S., 2010: The large-scale response of tropical atmosphere to latent heating estimated from the TRMM PR,

The 29th Conference on Hurricanes and Tropical Meteorology (Tucson, AZ, USA, 10–14 May 2010)

- Shige, S., H. Ashiwake, S. Kida, T. Kubota, T. Manabe, and K. Okamoto, 2010: Improvement of passive microwave rainfall retrievals over the mountain area in Japan, The 29th Conference on Hurricanes and Tropical Meteorology (Tucson, AZ, USA, 10–14 May 2010)
- Shige, S., H. Ashiwake, A. Taniguchi, S. Kida, and T. Kubota, 2010: Improvement of GSMaP Passive Microwave Imager Rainfall Retrievals over the Mountainous Area in Japan, 5th IPWG Workshop on Precipitation Measurements (Hamburg, Germany, 11–15 October 2010)
- Shige, S., H. Ashiwake, A. Taniguchi, S. Kida, and T. Kubota, 2010: Improvement of passive microwave rainfall retrievals over the mountain area in Japan, 2010 PMM SCIENCE TEAM MEETING (Seattle, WA, USA, Nov. 1–4, 2010)
- Shige, S., Y. N. Takayabu, M. Kachi and W.-K. Tao, 2010: Spectral retrieval of latent heating profiles from TRMM PR data, 2010 AGU Fall Meeting (San Francisco, California, USA, 13–17 December)
- Shige, S., A. Taniguchi, S. Kida, K. Kubota, 2010: Error Sources of Rainfall Retrievals from Active and Passive Microwave Sensors (Invited), 2010 AGU Fall Meeting (San Francisco, California, USA, 13–17 December)
- Shige, S., 2011: The large-scale response of tropical atmosphere to latent heating estimated from the TRMM PR, 91st Annual Meeting Seattle (WA, USA, 23–27 January 2011)
- Shikakura, Y., Y. Fukahata, N. Mitsui and K. Hirahara, 3-D cell model simulation of the inland earthquake generation pattern in Southwest Japan during the Nankai earthquake cycles in a layered viscoelastic medium, 2010 AGU Fall meeting, T338–2258,, San Francisco, USA, December.
- M. Shiotani, and Y. Naito, 2010 : Meteorological conditions during SMILES observation (口頭), SMILES International Workshop 2010(秋) つくば市 ,2010年9.13
- Trilaksono, N, J., Otsuka, S., and Yoden, S., 2010: Numerical study of heavy rainfall during Jakarta flood event 1 February (Oral), 日本気象学会 2010年秋季大会、京都 2010年10月
- Tsutsumi, H. and Perez, J. S., 2010, Progress in seismic hazard evaluation of the Philippine fault zone through fault mapping and paleoseismic trenching, 20th Year Commemoration of the 16 July 1990 Luzon earthquake “Harnessing Lessons Towards an Earthquake-Resilient Nation”, PHIVOLCS, Philippines.
- Urata, Y., K. Kuge, and Y. Kase. Spontaneous dynamic rupture propagation beyond fault discontinuities: effect of thermal pressurization, *Workshop Earthquake Source Dynamics: Data and Data-constrained Numerical Modeling*, Slovakia, June.
- Urata, Y., K. Kuge, and Y. Kase. Spontaneous dynamic rupture propagation beyond fault discontinuities: Effect of thermal pressurization, *7th ACES International Workshop*, Otaru, October.
- Urata, Y., K. Kuge, and Y. Kase. Spontaneous dynamic rupture propagation with thermal pressurization: Phase transitions of pore fluid, *the 8th ASC General Assembly*, S3–43, Hanoi, Vietnam, November.
- Ushio, T., T. Kubota, S. Shige and Z. Kawasaki, 2010: Global Satellite Mapping of Precipitation (GSMaP) with high resolution from microwave and infrared radiometer using Kalman filter, 2010 AGU Fall Meeting (San Francisco, California, USA, 13–17 December)
- Yamamoto. K., Y. Fukuda, T. Nakaegawa, T. Hasegawa, M. Taniguchi: An interpretation of the interannual mass trend change over the Indochina Peninsula observed by GRACE data, 2010 AGU Fall Meeting, 13–17 December 2010, Moscone Center, San Francisco.(G51C–0688:Poster)
- Yamamoto, K., Y. Fukuda, T. Nakaegawa, T. Hasegawa, M. Taniguchi, Interannual mass variation over Chao Phraya river basin observed by GRACE, (EGU2010–12626, May 05), EGU General Assembly 2010, Vienna, Austria, May 2–7, 2010. (Poster)
- Yamazaki, H., and T. Satomura, Two-dimensional cut cell simulations of nonhydrostatic atmospheric flow over a wide-range of slope angles, *Cut Cell Methods for Atmosphere and Ocean Modeling 2010*, July 5 –7, 2010, Berlin, Germany.
- Yamazaki, H., and T. Satomura, Two-dimensional cut cell simulations of atmospheric flow using a z-coordinate

- nonhydrostatic model, First Int. Workshop on Nonhydrostatic Numerical Model, Sept. 29 – Oct. 1, 2010, Kyoto.
- Yoden Shigeo, 2010: Long-term trends in stratospheric temperature and their detectability in simulations under the situation of large natural variability (Oral) 6th Workshop on Long-Term Changes and Trends in the Atmosphere. Boulder, Colorado, USA 16-Jun-2010
- Yoden Shigeo, 2010: International Collaborative Research for Prevention and Mitigation of Meteorological Disasters in Tropical Asia (Oral), Indo-Japanese colloquium on Weather & Climate over Asia, Visakhapatnam Andhra University, India 2010.7
- Yoden Shigeo, 2010: A Numerical Study on Heavy Rainfall of Jakarta Flood Event in January-February 2007 (Oral), 7th Annual Meeting AOGS, Hyderabad International Convention Centre, India 2010.7
- Yoden Shigeo, 2010: Classification of Polar-Night Jet Oscillations and Their Relationship to Fast and Slow Variations in a Global Mechanistic Circulation Model of the Stratosphere and Troposphere (Oral), Hyderabad International Convention Centre, India 2010.7
- Yoden Shigeo, 2010: Numerical studies on internal and external variations of the winter polar vortex with a mechanistic circulation model (Oral), WCRP Workshop on Seasonal to Multi-Decadal Predictability of Polar Climate Bjercknes Centre, Bergen, Norway
- Yoden, S., Otsuka, S., and Takeshita, M., 2011: Numerical experiments on extra tropical tropopause inversion layer using a mesoscale model (Oral), AMS91st Annual Meeting. Seattle (USA) 26-Jan-2011
- Watanabe, Y., H. Matsuoka, S. Sakai, M. Yamada, S. Ohsawa, M. Kiguchi, T. Satomura, S. Nakai, B. Brahamantyo, K. A. Maryunani, T. Tagami, K. Takemura and S. Yoden, Paleoclimatological Study using Stalagmite from Java Island, Indonesia, PAGES-1st Asia 2k Workshop, Aug. 26 – 27, 2010, Nagoya.
- 秋谷祐亮・斉藤昭則・坂野井健・山崎敦・平原聖文、2010. れいめい衛星 MAC リム観測による大気光空間分布の統計的研究、日本地球惑星科学連合 2010 年大会, 千葉.
- 秋谷祐亮・斉藤昭則・坂野井健・山崎敦・平原聖文、2010. れいめい衛星 MAC リム観測による中低緯度域の夜間大気光の空間分布の統計的研究、第 128 回地球電磁気・地球惑星圏学会総会・講演会、那覇.
- 秋谷祐亮・斉藤昭則・坂野井健・山崎敦・平原聖文、2010. れいめい衛星リム観測による大気光発光分布の解析、中間圏・熱圏・電離圏研究会、東京
- 秋谷祐亮・斉藤昭則・坂野井健・山崎敦・平原聖文、2011. れいめい衛星 MAC リム観測による中低緯度域の夜間大気光の空間分布の研究、第 11 回宇宙科学シンポジウム、神奈川
- 秋谷祐亮・斉藤昭則・坂野井健・山崎敦・平原聖文、2011. れいめい衛星多波長オーロラカメラによる大気光リム観測の解析、第 25 回大気圏シンポジウム、神奈川.
- 安部祐希・大倉敬宏・平原和朗・澁谷拓郎、レシーバ関数で見る九州地方のフィリピン海スラブ、日本地震学会 2010 年度秋季大会、P3-14, 広島、京都、10 月.
- 石岡圭一、2011.「ISPACK の GPU 利用の話」、(口頭) 地球流体データ解析・数値計算 実習／研究会、東京、2011 年 3 月 8 日.
- 石村大輔、2010, 養老一桑名一四日市断層帯周辺の地形発達と隆起・沈降速度分布、日本活断層学会 2010 年度秋季学術大会、P-17, 名古屋大学、2010 年 11 月.
- 伊藤耕介、石川洋一、淡路敏之: 軸対称台風モデルにおける最大風速: 感度解析による現象の理解と予測精度向上に向けた海面交換係数の制御、第 14 回データ同化夏の学校、むつ、2010 年 8 月
- 伊藤耕介、石川洋一、淡路敏之: アジョイント法を用いた台風状況下の海面交換係数の制御、日本気象学会 THORPEX 研究連絡会第 4 回研究集会「太平洋・アジア域に影響を与える気象」、大槌、2010 年 9 月
- 浦田優美・久家慶子・加瀬祐子, Rupture propagation beyond fault discontinuities under depth-dependent stress: Effect of thermal pressurization, 日本地球惑星科学連合 2010 年大会, SSS027-P21, 幕張, 5 月.
- 浦田優美・久家慶子・加瀬祐子, Thermal pressurization を考慮した動的破壊過程と間隙水の相変化、日本地震学会 2010 年秋季大会, P3-38, 広島, 10 月.
- 江藤 英樹、齊藤 昭則、津川 卓也、上野玄太、2010. GPS 全電子数データを用いたトモグラフィ法による Storm

Enhanced Density 3次元構造の推定、日本地球惑星科学連合 2010 年大会,千葉.

- 大久保修平, 風間卓仁, 山本圭吾, 田中宏幸, 菅野貴之, 田中愛幸, 坂守, 今西祐一, 福田洋一, 井口正人: 桜島火山における、ハイパーハイブリッド重力観測, 日本測地学会第 114 回講演会 (2010 年 11 月 8 日~10 日, 京都大学宇治キャンパス 宇治おうばくプラザ) (11 月 10 日発表)
- 大谷真紀子・平原和朗、三次元均質半無限弾性体を仮定した地震サイクルシミュレーションにおける高速多重極法 (FMM)を用いた応力計算法の開発、日本地球惑星科学連合 2010 年大会, SSS027-P18, 千葉、幕張、5 月。
- 大谷真紀子・平原和朗・高橋康人・掘高峰・兵藤守・中島浩・岩下武史、H_matrices を用いた大規模準動的な地震発生サイクルシミュレーション、日本地震学会 2010 年度秋季大会、P3-43, 広島、10 月。
- 大塚成徳, 余田成男, 2010: 熱帯対流圏中層に見られる湿潤層状構造の形成過程に関する数値実験 (口頭), 日本気象学会 2010 年度春季大会, 東京, 2010 年 5 月 23 日
- 大見士朗・平原和朗、雑微動の相互相関関数による西南日本の地殻下反射面の検出、日本地震学会 2010 年度秋季大会、A32-04、広島、10 月。
- 岡本 謙一, 重尚一, 牛尾知雄, 久保田拓志, 可知美佐子, 2010. 宇宙からの降雨観測データを用いた全球降水マップの作成と応用. 平成 22 年度 (第 61 回) 電気・情報関連学会中国支部連合大会(2010 年 10 月 23 日, 岡山)
- 小野珠実, 根田昌典, 塚本修, 近藤文義, 植原量行, 岩坂直人 2010:KT09-21 淡青丸観測航海における乱流熱フラックス直接観測, 2010 年度日本海洋学会秋季大会, 網走, 2010 年 9 月 7 日, 講演要旨集 110, 2010
- 風間卓仁, 福田洋一, 長崎鋭二, 山本圭吾, 井口正人, 菅野貴之, 大久保修平, 名和一成, 今西祐一, 田村良明, 大倉敬宏: 桜島ハルタ山における絶対および相対重力の同時連続観測, 日本測地学会第 114 回講演会 (2010 年 11 月 8 日~10 日, 京都大学宇治キャンパス 宇治おうばくプラザ) (ポスター)
- 仮野靖, 根田昌典, 植原量行, 増島雅親, 亀田卓彦 2010:平成 20 年度照洋丸第 4 次調査航海で観測された冬季海洋混合層の構造について, 2010 年度日本海洋学会秋季大会, 網走, 2010 年 9 月 7 日, 講演要旨集 111, 2010
- 木田智史, 重尚一, 2011. 衛星搭載マイクロ波サウンダを用いた降水推定アルゴリズムの開発. 第 18 回リモートセンシングフォーラム(2011 年 2 月 28 日, 千葉)
- 久家慶子、上部マントル中層で起こる先駆すべりをもつ稍深発大地震の震源過程、日本地球惑星科学連合 2010 年大会, SSS011-P08, 千葉、幕張、5 月。
- 久家慶子、沈み込み帯の地震活動の深さ分布とプレート境界低角逆断層地震の下限、日本地震学会2010年秋季大会, D11-05, 広島, 10月。
- 齊藤 昭則、山本 衛、佐藤 亨、大塚 雄一、佐藤 薫、堤 雅基, 2010. PANSY レーダーによる電離圏観測、日本地球惑星科学連合 2010 年大会,千葉.
- 齊藤 昭則、吉田 大紀, 2010. Development of Dagik, a data showcase system for Geoscience in KML, 第 128 回地球電磁気・地球惑星圏学会総会・講演会、那覇。
- 齊藤昭則、吉田大紀、小田木洋子、津川卓也、高橋みどり、熊野善介, 2010. デジタル 4 次元地球儀ダジックアースを用いた展示と授業、日本地球惑星科学連合 2010 年大会,千葉.
- 齊藤直彬, 石岡圭一, 2010: 回転軸が鉛直方向から傾いた系における熱対流と平均流の相互作用--安定定常なロール状対流による平均流加速--(口頭), 日本流体力学会 2010 年度年会, 札幌, 2010 年 9 月 9 日。
- 齊藤直彬, 石岡圭一, 2010: 回転軸が鉛直方向から傾いた系における熱対流と平均流の相互作用--安定定常なロール状対流による平均流加速--(口頭), 日本気象学会 2010 年度秋季大会, 京都, 2010 年 10 月 29 日。
- 齊藤直彬, 石岡圭一, 2010: 回転軸が鉛直方向から傾いた系における熱対流と平均流の相互作用--安定定常なロール状対流による平均流加速--(口頭), 第 12 回地球流体力学研究会--地球流体における流れの変動性と持続性の力学--, 柏, 2010 年 12 月 9 日。
- 佐藤馨・町田忍・宮下幸長・齋藤義文, 2010. Geotail衛星データに統計的手法を適用して求めた磁気中性線付近の物理構造, 第129回SGEPSS総会および講演会, 沖縄。

- 鹿倉洋介・深畑幸俊・光井能麻・平原和朗、成層粘弾性を仮定した南海トラフ地震サイクル中での西南日本内陸地震発生様式のセルモデルシミュレーション、日本地震学会2010年度秋季大会、P3-44、広島、10月。
- 重尚一、木田智史、谷口藍奈、久保田拓史、2010. 衛星全球降水マップ(GSMaP)アルゴリズムの研究開発. 熱帯気象研究会2010(2010年 9月21~22日, 高松)
- 重尚一、2010. 今後のGSMaP開発の方向性についての思案・試案・私案. 衛星による陸上の高精度降水推定技術の開発とその水文学への利用の研究計画のための集会(2010年11月24日, 名古屋)
- 重尚一、岡本謙一、牛尾知雄、可知美佐子、久保田拓志、井口俊夫、木田智史、宮川 純、入江 由美、2010. 衛星データを用いた全球降水マップの作成と評価. (社)日本リモートセンシング学会 第 49 回(平成 22 年度秋季)学術講演会(2010年 11月 9日~10日, 鹿児島)
- 澁谷拓郎・中尾節郎・福居大志・西村和浩・澤田麻沙代・平原和朗、紀伊半島でのリニアアレイ地震観測とレシーバ関数イメージング(2)、日本地震学会 2010 年度秋季大会、A31-10、広島、10月。
- 末岡 茂, Barry P. Kohn, 田上高広, 長谷部徳子, 堤 浩之, 田村明弘, 荒井章司, 狩野謙一, 池田安隆, 白濱吉起, 2011, 低温領域の熱年代学から見た木曾山脈・赤石山脈の傾動隆起. 第 35 回フィッション・トラック研究会, 京都市北区鷹峯ホテル然林房, 1月8日.
- 末岡 茂, Barry P. Kohn, 堤 浩之, 田上高広, 長谷部徳子, 山田国見, 田村明弘, 荒井章司, 2010, 熱年代学的手法に基づいた断層地塊山地の隆起・削剥過程の解明:木曾山脈を例として. 日本地球惑星科学連合 2010 年大会, S-SS017-14, 千葉幕張メッセ国際会議場, 5月26日.
- 谷口真人, 嶋田 純, 小野寺真一, 福田洋一, 山野 誠, 金子慎治, 吉越昭久:アジア沿岸都市の地下環境 ―過去100年の変遷―, 日本地下水学会 2010 年春季講演会, 慶應義塾大学 矢上キャンパス 創想館, 2010 年 5月 29 日
- 谷口 真人, 嶋田 純, 小野寺 真一, 福田 洋一, 山野 誠, 梅沢 有, 細野高敬, 安元 純, 山本 圭香, 中田聡史: アジア沿岸都市の地下環境統合解析, 地球惑星科学連合 2010 年大会(AHW017-01), 千葉県千葉市, 幕張メッセ国際会議場, 2010 年 5月 26 日
- 堤 浩之, 2010, 東南アジアの活構造と地震テクトニクス, 日本地質学会第 117 年学術大会.
- 堤 浩之・Thura Aung・Soe Min・Yu Wang・U Thein Htay・Yin Myo Min Htwe, 2010, トレンチ掘削調査によるミャンマー・ザガイン断層の活動間隔の解明, 日本活断層学会 2010 年度秋季学術大会.
- 富田昂、能勢正仁、家森俊彦、藤浩明、竹田雅彦、国武学、長妻努, 2010. MLT/GMLAT dependence of magnetic field variations contributing to the AE index and possibility of AE index improvement, 日本地球惑星科学連合 2010 年大会, 千葉.
- 富田昂、能勢正仁、家森俊彦、藤浩明、竹田雅彦、国武学、長妻努, 2010. CAWSES- II Kickoff Symposium in Japan, 京都.
- 富田昂、能勢正仁、J. Niehof、T. A. Fritz , 2010. MLT/GMLAT dependence of magnetic field variations contributing to the AE index and possibility of AE index improvement, 第 128 回地球電磁気・地球惑星圏学会総会・講演会、那覇.
- 内藤 陽子, 西 憲敬, 西本 絵梨子, 鈴木 睦, 光田 千紘, 高橋 千賀子, 今井 弘二, 眞子 直弘, 林 寛生, 佐野 琢己, 塩谷 雅人, 2010:「SMILES により観測された大気微量成分の全球的な分布とその力学的背景」, 第 34 回極域宙空圏シンポジウム,(口頭)東京都立川市,2010.12.2
- 西 憲敬・鈴木順子・濱田 篤・塩谷雅人, 2011: 熱帯大規模東進波動の速度. 大気圏シンポジウム, 25. (2011 年 2月 21 日, 神奈川県相模原市)
- 西島 潤, 藤光 康宏, ヤヤン ソフヤン, 福田 洋一, 谷口 真人:A10 絶対重力計及び CG-3M 相対重力計を用いた地下流体モニタリング, 地球惑星科学連合 2010 年大会(SGD002-03), 千葉県千葉市, 幕張メッセ国際会議場, 2010 年 5月 28 日.
- 西島 潤, Yayan Sofyan, 藤光康宏, 福田洋一, 谷口真人:地熱開発地域における繰返し精密重力測定を用いた地熱貯留層モニタリング, 日本測地学会第 114 回講演会 (2010 年 11月 8 日~10 日, 京都大学宇治キャンパス 宇治おうばくプラザ) (11月 10 日発表)
- 長谷川 崇, 福田 洋一, 田中 愛幸, 宮崎 真一, 付 広裕, 橋本 学, 山本 圭香:GRACE 及び GPS データから求

めた 2004 年スマトラ-アンダマン地震のアフタースリップ及び粘弾性緩和モデル, 地球惑星科学連合 2010 年大会(SGD002-09), 千葉県千葉市, 幕張メッセ国際会議場, 2010 年 5 月 28 日.

長谷川崇, 福田洋一, 田中愛幸, 宮崎真一, 山本圭香: GRACEデータから得られる2004年スマトラ地震後の余効変動モデルの精度評価, 日本測地学会第 114 回講演会 (2010 年 11 月 8 日~10 日, 京都大学宇治キャンパス 宇治おうばくプラザ) (11 月 10 日発表)

原田裕己・町田忍・齋藤義文・横田勝一郎・浅村和史・西野真木・田中孝明・綱川秀夫・渋谷秀敏・高橋太・松島政貴・清水久芳, 2010. かぐや(SELENE)衛星観測に基づく地球磁気圏プラズマと月の相互作用の研究. 日本地球惑星科学連合 2010 年大会, 千葉.

原田裕己・町田忍・齋藤義文・横田勝一郎・浅村和史・西野真木・綱川秀夫・渋谷秀敏・高橋太・松島政貴・清水久芳, 2010. かぐや衛星によって観測された電子速度分布関数における"gyro-loss"効果. 第 128 回地球電磁気・地球惑星圏学会総会・講演会, 那覇.

日比野研志, 石川裕彦, 2011: 大気エクマン層内の不安定摂動に対する逆転層の与える影響 (口頭), 気象学会, 東京, 2011 年 5 月

平原和朗, 大谷真紀子, 光井能麻, 堀高峰, 高速多重極法を用いた無限均質媒質弾性体中での大規模地震発生サイクルシミュレーション, 日本地球惑星科学連合 2010 年大会, SSS027-P17, 千葉, 幕張, 5 月.

平原和朗・大谷真紀子・高橋康人・堀高峰・兵藤守・中島浩・岩下武史, 地震発生サイクルシミュレーションコードの高速化: (2) Hierarchical Matrices 法の適用, 日本地震学会 2010 年度秋季大会, P3-42, 広島, 京都, 10 月.

広瀬民志, 西憲敬, 濱田篤, 里村雄彦, ISCCP 衛星雲観測データに含まれる天頂角以外の問題, 日本気象学会 2010 年度秋季大会 (2010 年 10 月 27 日-29 日, 京都)

広瀬成章, 石川洋一, 淡路敏之, 2011, Wavelet 解析を用いた津軽海峡周辺における潮位の季節内変動について, 2011 年度日本海洋学会春季大会, 2011 年 3 月 24 日 (東京大学柏キャンパス)

福居大志・澁谷拓郎・中尾節郎・西村和浩・澤田麻沙代・平原和朗, 紀伊半島の地震波速度構造, 日本地震学会 2010 年度秋季大会, P3-11, 広島, 京都, 10 月.

福田洋一: インドネシアの絶対重力・超伝導重力観測, 重力と水ワークショップ, 平成 22 年度東京大学地震研究所共同利用特定共同研究(B)「精密重力測定のための陸水補正法の開発と適用」, 東京大学宇宙線研究所 神岡宇宙素粒子観測施設, 2010 年 9 月 29 日

福田洋一, 西島潤, 橋本学, 長谷川崇, 風間卓仁, 長崎鋭二, Yayan Sofyan, 谷口真人, Hasanuddin Z. Abidin, Heri Andreas, Irwan Gumilar, Robert Delinon: 統合測地観測手法によるインドネシア3都市での地盤沈下の研究 (第3報), 日本測地学会第 114 回講演会 (2010 年 11 月 8 日~10 日, 京都大学宇治キャンパス 宇治おうばくプラザ) (11 月 10 日発表)

正木喜啓・平原和朗, 地震波干渉法による 2003 年十勝沖地震における地下構造変化検出の試み, 日本地震学会 2010 年度秋季大会, P2-22, 広島, 京都, 10 月.

町田忍, 宮下幸長, 家田章正, 2010. サブストームのオンセットを説明する Catapult Current Sheet Relaxation Model について, 日本地球惑星科学連合 2010 年大会, 千葉.

町田忍, 宮下幸長, 家田章正, 能勢正仁, 佐藤馨, V. Angelopoulos, J. P. McFadden, H. U. Auster, 2010. サブストームオンセット時のプラズマシートの変化: THEMIS 衛星データ事例解析(III), 第 128 回地球電磁気・地球惑星圏学会総会・講演会, 那覇.

松村充・品川裕之・家森俊彦, 2010. 2次元非静力学中性大気モデルを用いた下層大気起源大気擾乱の数値実験 -地表-熱圏間の重力音波共鳴現象の解明に向けて-, 日本地球惑星科学連合 2010 年大会, 千葉.

松村充・品川裕之・家森俊彦, 2010. 3次元非静力学中性大気モデルを用いた地表-中間圏間の重力音波共鳴の数値実験, 第 128 回地球電磁気・地球惑星圏学会総会・講演会, 那覇.

松村充・品川裕之・家森俊彦, 2011. 地震・火山噴火に伴って発生する大気中の音波・内部重力波に関する数値実験, 防災研究所研究発表講演会.

松村充・品川裕之・家森俊彦, 2010. 地表-中間圏間の重力音波共鳴の形成過程に関する数値実験, 青い地球の地震学研究集会, 東大地震研.

- 松村充・品川裕之・家森俊彦, 2010. 密度成層中での低周波音波の共鳴現象に関する数値実験, 日本流体力学会年会, 北大.
- 松村充・品川裕之・家森俊彦, 2010. 2次元非静力学中性大気モデルを用いた重力音波共鳴に関する数値実験, CAWSES-II キックオフシンポジウム, 京都大学宇治キャンパス.
- 三井雄太・平原和朗, 非定常な間隙流体圧が断層のスティックスリップ挙動に及ぼす影響 – 現象論モデルの統合による –, 日本地震学会 2010 年度秋季大会, C22-08, 広島, 10 月。
- 三井雄太・平原和朗, 震源核生成の初期段階における断層面上クリープ伝播を特徴づける無次元パラメータ, 日本地震学会 2010 年度秋季大会, P3-46, 広島, 10 月。
- 山崎弘恵, 里村雄彦, カットセル法を用いた 2 次元大気ドライモデルの性能検証, 日本気象学会 2010 年度秋季大会 (2010 年 10 月 27-29 日, 京都)
- 山本 圭香, 福田 洋一, 仲江川敏之, 長谷川 崇, 谷口 真人: チャオプラヤ川流域における GRACE 経年変化トレンドの解釈について, 地球惑星科学連合 2010 年大会 (SGD002-P07), 千葉県千葉市, 幕張メッセ国際会議場, 2010 年 5 月 27 日 (Poster)
- 山本圭香, 福田洋一, 仲江川敏之, 長谷川崇, 谷口真人: GRACE で観測されたインドシナ半島の陸域貯留量経年変化と数年スケール気候システム変動との関係について, 日本測地学会第 114 回講演会 (2010 年 11 月 8 日~10 日, 京都大学宇治キャンパス 宇治おうばくプラザ) (11 月 10 日発表)
- 山本博基, 2010: 自転軸対称モデルによる惑星大気大循環 (口頭), 2010 年度気象若手会夏の学校, 京都, 2010 年 7 月
- 山本博基, 余田成男, 2010: ギーラシメカニズムに基づくスーパーローテーションの理論的研究~代数方程式によるオーダー見積もり~ (口頭), 日本気象学会 2010 年度秋季大会, 京都 2010 年 10 月
- 由井 智志, 福田 洋一, 池田 博, 東 敏博, 早河 秀章, 田村 良明, 川崎 一朗, ParluhanManurung: インドネシア・チビンの超伝導重力計で観測された重力潮汐, 地球惑星科学連合 2010 年大会 (SGD002-06), 千葉県千葉市, 幕張メッセ国際会議場, 2010 年 5 月 28 日.
- 由井 智志, 竹本 修三, 福田 洋一, 東 敏博, 早河 秀章, 新谷 昌人, 高森 昭光, 森井 互, 大橋 正健: Spheroidal-Toroidal Coupling を構成するねじれモードの減衰定数, 地球惑星科学連合 2010 年大会 (SGD002-P04), 千葉県千葉市, 幕張メッセ国際会議場, 2010 年 5 月 27 日 (Poster)
- 余田成男, 2010: 太陽の気候への影響 (口頭), 京都大学生存圏研究所「第 153 回生存圏シンポジウム~宇宙生存環境学の開拓~, 京都大学宇治キャンパス木質ホール, 京都 2010.8.6

(地質学鉱物学分野)

◇論文

- Fujimoto, Y., Kono, Y., Hirajima, T., Ishikawa, M., and Arima, M., 2010. P-wave velocity and anisotropy of lawsonite and epidote blueschists: Constraints on wave transportation along subducting oceanic crust. *Physics of the Earth and Planetary Interiors*, v. 183, p. 219–228.
- Garcia, M.O., Swinnard, L., Weis, D., Greene, A.R., Tagami, T., Sano, H., and Gandy, C.E., 2010. Petrology, geochemistry and geochronology of Kaua'i lavas over 4.5 Myr: Implications for the origin of rejuvenated volcanism and the evolution of the Hawaiian plume. *Journal of Petrology*, doi: 10.1093/petrology/egq027.
- Hayashi, N., and Tsutsumi, A., 2010. Deformation textures and mechanical behavior of a hydrated amorphous silica formed along an experimentally produced fault in chert. *Geophysical Research Letters*, doi: 10.1029/2010GL042943.
- Hoshide, T., and Obata, M., 2010. Zoning and resorption of plagioclase in a layered gabbro, as a petrographic indicator of magmatic differentiation. *Earth and Environmental Science, Trans. Royal Society of Edinburgh*, v. 100, p. 235–249.
- Ibuki, M., Ohi, S., Tsuchiyama, A., and Hirajima, T., 2010. Analysis of Mn-bearing lawsonite occurring in meta-siliceous rocks in Hakoishi serpentinite mélangé of Kurosegawa Belt, Central Kyushu, Japan. *Journal of Mineralogical and Petrological Sciences*, v. 105, p. 340–345.
- Iizuka, T., Komiya, T., Johnson, S.P., Kon, Y., Maruyama, S., and Hirata, T., 2009. Reworking of HADEAN crust in the Acasta gneisses, northwestern Canada: Evidence from in-situ Lu-Hf isotope analysis of zircon. *Chemical Geology*, v. 259, p. 230–239.
- Iizuka, T., Komiya, T., Rino, S., Maruyama, S., and Hirata, T., 2010. Detrital zircon evidence for Hf isotopic evolution of granitoid crust and continental growth. *Geochim. Cosmochim. Acta*, v. 74, p. 2450–2472.
- Iizuka, T., Nakai, S., Sahoo, Y. V., Takamasa, A., Hirata, T., and Maruyama, S., 2010. The tungsten isotopic composition of Eoarchean rocks: Implications for early silicate differentiation and core-mantle interaction on Earth, *Earth Planet. Sci. Lett.*, v. 291, p. 189–200.
- Ikehata, K., Notsu, K., and Hirata, T., 2011. Copper Isotope Characteristics of Copper-Rich Minerals from Besshi-Type Volcanogenic Massive Sulfide Deposits, Japan, Determined Using a Femtosecond LA-MC-ICP-MS. *Economic Geology*. (in press)
- Irisawa, K., Yin, Q., and Hirata, T., 2009. Discovery of non-radiogenic tungsten isotopic anomalies in the Allende CV3 chondrite. *Geochemical Journal*, v. 43, p. 395–402.
- Kamei, A., Obata, M., Michibayashi, K., Hirajima, T., and Svojtka, M., 2010. Two contrasting fabric patterns of olivine observed in garnet and spinel peridotite from a mantle-derived ultramafic mass enclosed in felsic granulite, the Moldanubian zone, Czech Republic. *Journal of Petrology*, v. 51, p. 101–123.
- Kashiwagi, K., and Hirasawa, S., 2010. Jurassic radiolarians and other microfauna recovered from the trace fossils of the Kiritani Formation of the Tetori Group in the Yatsuo area, Toyama Prefecture, northern Central Japan. *Paleontological Research*, v. 14, p. 212–223.
- Kawakami, T., and Hokada, T. 2010. Linking *P-T* path with development of discontinuous phosphorus zoning in garnet during high-temperature metamorphism—an example from Lützow-Holm Complex, East Antarctica. *Journal of Mineralogical and Petrological Sciences*, v. 105, p. 175–186.
- 北川博道・高橋啓一, 2010. ナウマンゾウの第 2, 第 3 大臼歯の形態的特徴とそれに基づく臼歯標本の再検討の例. *化石研究会会誌*, v. 43 (1), p. 30–39.
- Kumagae, T., Maeda, H., and Komatsu, T., 2011. Paleocology of *Inoceramus amakusensis* Nagao et Matsumoto, 1940 (Bivalvia) in a Late Cretaceous shallow clastic sea: the Himenoura Group, Kyushu, Japan. *Cretaceous Research*, v. 32. (in press).

- Lin, W., Byrne, T., Tsutsumi, A., Chang, C., Yamamoto, Y. and Sakaguchi, A., 2010. A comparison of stress orientations determined by two independent methods in a deep drilling project. In Zhao, Labiouse, Dudd, and Mathier, eds., *Rock Mechanics in Civil and Environmental Engineering*, Taylor & Francis Group, London, ISBN 978-0-415-58654-2.
- Maeda, H., Kumagae, T., Matsuoka, H., and Yamazaki, Y., 2010. Taphonomy of large *Canadoceras* (ammonoid) shells in the Upper Cretaceous Series in South Sakhalin, Russia. *Paleontological Research*, v. 14, p. 56-68.
- Maeda, H., Tanaka, G., Shimobayashi, N., Ohno, T., and Matsuoka, H., 2011. Cambrian Orsten lagerstätte from the Alum Shale Formation: fecal pellets as a probable source of phosphatic preservation. *Palaios*, v. 26, p. 225-231.
- Meneghini, F., Di Toro, G., Rowe, D.C., Moore, J.C., Tsutsumi, A., and Yamaguchi, A., 2010. Record of mega-earthquakes in subduction thrusts: the black fault rocks of Pasagshak Point (Kodiak Island, Alaska). *Geological Society of America, Bulletin*, v. 122 (7/8), p. 1280-1297; doi: 10.1130/B30049.1.
- Misaki, A., and Maeda, H., 2009. Lithostratigraphy and biostratigraphy of the Campanian-Maastrichtian Toyajo Formation in Wakayama, southwestern Japan. *Cretaceous Research*, v. 30, p. 1398-1414.
- Misaki, A., and Maeda, H., 2010. Stratigraphy of the mid- to upper Cretaceous System in the Aridagawa area, Wakayama, southwest Japan. *Island Arc*, v. 19, p. 517-529.
- Miyake, A., and Kawano, J., 2010. High-temperature molecular dynamics simulation of aragonite. *Journal of Physics: Condensed Matter*, v. 22, p. 225402.
- 森下知晃・小澤一仁・小畑正明, 2010, マントル科学研究の最近の動向-特に再肥沃化, レオロジー, オフィオライト問題: 第5回国際レルズライト会議報告. *岩石鉱物科学*, v. 39, p. 85-103.
- Nakamura, D., and Hirajima, T., 2010. Significant cooling during exhumation of UHP eclogite from the Taohang area in the Sulu region, eastern China, and its significance. *Island Arc*, v. 19, p. 707-717.
- Nakamura, D., Kobayashi, T., Shimobayashi, N., Svojtka, M., and Hirajima, T., 2010. Sr-sulphate and associated minerals found from kyanite-bearing eclogite in the Moldanubian Zone of the Bohemian Massif, Czech Republic. *Journal of Mineralogical and Petrological Sciences*, v. 105, p. 251-261.
- Nishimura, T., Maeda, H., Tanaka, G., and Ohno, T., 2010. Taxonomic evaluation of various morphological characters in the Late Cretaceous desmoceratine polyphyletic genus "*Damesites*" from the Yezo Group in Hokkaido and Sakhalin. *Paleontological Research*, v. 14, p. 33-55.
- Nishizawa, M., Yamamoto, H., Ueno, Y., Tsuruoka, S., Shibuya, T., Sawaki, Y., Yamamoto, S., Kon, Y., Kitajima, K., Komiya, T., Maruyama, S., and Hirata, T., 2010. Grain-scale Iron isotopic distribution of pyrite from Precambrian shallow marine carbonate revealed by femtosecond laser ablation multi-collector ICP-MS technique: Potential proxy for the redox state of ancient seawater. *Geochim. Cosmochim. Acta.*, v. 74, p. 2760-2778.
- Ohi, S., Miyake, A. and Yashima, M., 2010. Stability field of the high-temperature orthorhombic phase in the enstatite-diopside system. *American Mineralogist*. v. 95, p. 1267-1275.
- Ohnishi, M. and Shimobayashi, N., 2011. Tsumebite from the Kisamori mine, Akita prefecture, Japan. *Journal of Mineralogical and Petrological Sciences*, v. 106, p. 51-56.
- Okabayashi, S., Yokoyama, T. D., Kon, Y., Yamamoto, S., Yokoyama, T., and Hirata, T., 2011. Evaluation of Laser Ablation in Liquid (LAL) technique as a new sampling technique for elemental and isotopic analysis using ICP-mass spectrometry. *J. Anal. Atom. Spectrom.* v. 26, p. 1393-1400.
- Ono, T., Kumamoto, A., Kasahara, Y., Yamaguchi, Y., Yamaji, A., Kobayashi, T., Oshigami, S., Nakagawa, H., Goto, Y., Hashimoto, H., Omura, Y., Imachi, T., Matsumoto, H., and Oya, H., 2010. The Lunar Radar Sounder (LRS) onboard the KAGUYA (SELENE) spacecraft. *Space Science Reviews*, v. 154, p. 145-192.
- 大坪 誠・山路 敦, 2010. 2007年新潟県中越地震にともなう小木ノ城背斜西翼隆起域での地震被害と地殻変動と

の関連. 地質学雑誌, v. 116, p. 615–623.

- Safonova, I., Maruyama, S., Hirata, T., Kon, Y., and Rino, S., 2010. LA ICP MS U-Pb ages of detrital zircons from Russia largest rivers: Implications for major granitoid events in Eurasia and global episodes of supercontinent formation. *Journal of Geodynamics*, v. 50, p. 134-153.
- Sakaguchi, A., Chester, F., Curewitz, D., Fabbri, O., Goldsby, D., Kimura, G., Li, C-F., Masaki, Y., Sreaton, E., Tsutsumi, A., Ujiie, K., and Yamaguchi, A., 2010. Seismic slip propagation to the up-dip end of plate boundary subduction interface faults: Vitrinite reflectance geothermometry on Integrated Ocean Drilling Program NanTroSEIZE cores. *Geology*, v. 39, p. 395-399, doi:10.1130/G31642.1.
- Sato, K., Santosh, M., Tsunogae, T., Chetty, T. R. K., and Hirata, T., 2010. Subduction-accretion-collision history along the Gondwana suture in southern India: A laser ablation ICP-MS study of zircon chronology. (in press)
- Sato, K., Santosh, M., Tsunogae, T., Chetty, T. R. K., and Hirata, T., 2011. Laser ablation ICP mass spectrometry for zircon U-Pb geochronology of metamorphosed granite from the Salem Block : Implication for Neoproterozoic crustal evolution in southern India. *Journal of Mineralogical and Petrological Sciences*, v. 106, p. 1-12.
- Sawaki, Y., Shibuya, T., Kawai, T., Komiyama, T., Omori, S., Iizuka, T., Hirata, T., Windley, B. F., and Maruyama, S., 2010. Imbricated ocean-plate stratigraphy and U-Pb zircon ages from tuff beds in cherts in the Ballantrae complex, SW Scotland. *Geological Society of America Bulletin*, v. 122, p. 454-464.
- Sawaki, Y., Ohno, T., Tahata, M., Komiyama, T., Hirata, T., Maruyama, S., Windley, B. F., Hand, J., Shu, D., and Li, Y., 2010. The Ediacaran radiogenic Sr isotope excursion in the Doushantuo Formation in the Three Gorges area, South China. *Precambrian Research*, v. 176, p. 46-64.
- Shimobayashi, N., Ohnishi, M., and Miura, H., 2011. Ammonium sulfate minerals from Mikasa, Hokkaido, Japan: boussingaultite, godovikovite, efremovite and tschermigite. *Journal of Mineralogical and Petrological Sciences*, v. 106, p. 158-163.
- 末岡・田上・堤・長谷部・田村・荒井・山田・松田・小村, 2010. フィッショントラック熱年代に基づいた六甲地域の冷却・削剥史. *地学雑誌*, v. 119, p. 84-101.
- Tanaka, G., Taniuchi, H., Maeda, H., and Nomura, S., 2010. Original structural color preserved in an ancient leaf beetle. *Geology*, v. 38, p. 127-130.
- Tsunakawa, H., Wakabayashi, K., Mochizuki, N., Yamamoto, Y., Ishizaka, K., Hirata, T., Takahashi, F., and Seita, K., 2009. Paleointensity study of the middle Cretaceous Iritono granite in northeast Japan: Implication for high field intensity of the Cretaceous normal superchron. *Physics of the Earth and Planetary Interiors*, v. 176, p. 235-242.
- Ubukata, T., Tanabe, K., Shigeta, Y., Maeda, H., and Mapes, R., 2010. Epenshape analysis of ammonoid sutures. *Lethaia*, v. 43, p. 266-277.
- Ujiie, K., and Tsutsumi, A., 2010. High-velocity frictional properties of clay-rich fault gouge in a megasplay fault zone, Nankai subduction zone. *Geophysical Research Letters*, doi:10.1029/2010GL046002.
- Watanabe, Y., Matsuoka, H., Sakai, S., Ueda, J., Yamada, M., Ohsawa, S., Kiguchi, M., Satomura, T., Nakai, S., Brahmantyo, B., Maryunani, K., Tagami, T., Takemura, K., and Yoden, S., 2010. Comparison of Stable Isotope Time Series of Stalagmite and Meteorological Data from West Java, Indonesia. *Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology*, v. 293, p. 90-97.
- 山路 敦, 2010. 日本海拡大時のプレート運動と堆積環境から推定した古地形. *地質ニュース*, no. 676 (12月号), 口絵.
- 山路 敦, 2010. 日本海拡大: 新潟地域の現在の地殻変動の背景として. *地質ニュース*, no. 676 (12月号), p. 8-15.
- 山路 敦, 2010. 日本海拡大後の東北日本火山弧における地殻成長量. *月刊地球*, v. 32, p. 352-355.
- Yamaji, A., Sato, K. and Tonai, S., 2010. Stochastic modeling for the stress inversion of vein orientations:

Paleostress analysis of Pliocene epithermal veins in southwestern Kyushu, Japan. *Journal of Structural Geology*, v. 32, p. 1137–1146.

Yamasaki, S., Sawada, R., Ozawa, A., Tagami, T., Watanabe, Y., and Takahashi, E., 2011. Unspiked K–Ar dating of koolau lavas, Hawaii: Evaluation of the influence of weathering/alteration on age determinations. *Chemical Geology* (in press), doi:10.1016/j.chemgeo.2011.05.003.

Yamashita, S., Matsuoka, H., Naruse, H., 2011. Formation processes of shell concentrations in the Lower Cretaceous estuarine sediments of the Okurodani Formation, Tetori Group, Gifu Prefecture, central Japan. *Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology*, v. 308, p. 476–491.

安井謙介・加藤利依・神戸敦・今井尚子・丸山啓志・河合真梨香・木林理・松岡廣繁, 2011. 愛知県田原市の表浜で確認されたアオウミガメの漂着死体について. *三河生物*, v. 2, p. 59–60.

Yui, T.F., Maki, K., Usuki, T., Lan, C.Y., Martens, U., Wu, C.M., Wu, T.W., and Liou, J.G., 2010. Genesis of Guatemala jadeitite and related fluid characteristics: insight from zircon. *Chemical Geology*, v. 270, p. 45–55.

Zwingmann, H., Yamada, K., and Tagami, T., 2010. Timing of brittle deformation within the Nojima fault zone, Japan. *Chemical Geology*, v. 275, p. 176–185.

◇著書

平田岳史, 2011. 化学のブレークスルー:革新論文から見たこの10年の進歩と未来(機器分析編),化学同人.

松岡廣繁, 2010. 古生物学事典(項目分担). 日本古生物学会編. 576 pp. 朝倉書店, 東京.

Misaki, A. and Maeda, H., 2010. Two Campanian (Late Cretaceous) nostoceratid ammonoids from the Toyajo Formation in Wakayama, Southwest Japan. In, Tanabe, K., Shigeta, Y., Sasaki, T., and Hirano, H., eds., *Cephalopods – Present and Past*. p.223–231, Tokai University Press, Tokyo.

◇研究費の成果報告書

河上哲生, 2010, 極限領域変成岩中の硫化鉱物が記録する形成時期・示強変数情報・起源の解明. 科学研究費補助金(若手B)研究成果報告書. 5 p.

河上哲生, 池田 剛, 2010, リュツォ・ホルム岩体産コンダライト中のザクロ石の微量元素累帯構造と部分熔融および年代測定可能な副成分鉱物の消長の関係解明. 平成 21 年度共同研究報告書. 国立極地研究所, p. 32–33.

松岡廣繁・楠橋 直, 2011. 桑島層から見つかる前期白亜紀のトリテイロドン類化石. 桑島化石壁産出化石調査報告書, p. 37–42. 白山市教育委員会.

松岡廣繁・京都大学理学部地質学鉱物学教室古生物学研究グループ, 2010. 平成 22 年度高山市荘川地域の化石を活用した地域活性化事業—化石の活用による地域振興に向けた調査—報告書.

三宅亮, 2010. 造岩鉱物の拡散の依存性について. 平成 22 年度京都大学化学研究所スーパーコンピューターラボラトリー研究成果報告書.

野本哲也, 2010. 東北日本に産するアイスランドイトの形成史. 平成 21 年度深田助成金報告書.

◇会議・シンポジウム・研究会等の報告書・論文

(教職員)

Byrne, T.B., Lin, W., Tsutsumi, A., Yamamoto, Y., Lewis, J.C., Kanagawa, K., Kitamura, Y., Yamaguchi, A., and Kimura, G., 2010. Anelastic strain recovery in ocean floor sediments reveals extension across SW Japan

- subduction zone, SSS019-03. 日本地球惑星科学連合 2010 年大会予稿集, 幕張メッセ国際会議場, 2010 年 5 月 23 日.
- Byrne, T.B., Lin, W., Tsutsumi, A., Yamamoto, Y., Lewis, J., Kanagawa, K., Kitamura, Y., Yamaguchi, A., and Kimura, G., 2010. Anelastic strain recovery in ocean floor sediments reveals extension across SW Japan subduction zone. 2010 Western Pacific Geophysics Meeting, 台北国際会議場, 2010 年 6 月 23 日.
- Grantham, G.H., Ishikawa, M., Tsuchiya, N., Kawakami, T., and Satish-Kumar, M., 2010. Aspects of the structural evolution of Balchenfjella, East Antarctica and its Gondwana context. 第 30 回極域地学シンポジウム講演要旨, 東京.
- Grantham G.H., Kawakami, T., Ishikawa, M., Satish-Kumar, M., Tsuchiya, N., and Graser, P., 2010. Preliminary results of metamorphic P-T studies on East Sør Rondane, Antarctica. 第 30 回極域地学シンポジウム講演要旨, 東京.
- 平島崇男, 2010. スラブ起源流体の発生深度と量: 変成岩からの制約. 新学術領域研究(研究領域提案型)地殻流体 9 月修善寺セミナー.
- Hirajima, T., and Nakamura, D., 2010. Significant cooling during the exhumation of UHP eclogite from Taohang area in the Sulu region, eastern China, and its tectonic significance. WPGM in Taipei, 台湾, 2010 年 6 月 23 日. (招待講演)
- Hirajima, T., Sengen, Y., Nishimura, K., and Ohsawa, S., 2010. Li/B ratio in deep fluids as an indicator of their generation depth. EGU2010-6343, GMPV16/GD5.9, Vienna, Austria, 2010 年 5 月 5 日.
- 平田岳史, 2010, 無機質量分析法を用いた地球化学研究のグランドデザイン. 第 71 回分析化学討論会. (招待講演)
- Hirata, T., 2010, In-situ Elemental and Isotopic Analyses using Femtosecond-Laser Ablation-ICP-mass Spectrometry for Geochemical Samples. Western Pacific Geophysical Meeting, Taipei. (招待講演)
- Hirata, T., 2010, Introduction of laser ablation-ICP mass spectrometry as a multifaced tool in Earth and Biosciences. JAAS Symposium on Atomic Spectrometry, Tsinghua Univ., Beijing. 招待講演)
- Hirata, T., 2010, Laser Ablation-ICP-mass spectrometry. The 3rd Asia-Pacific Workshop on Laser Ablation. Hina Univ. Geochience, Wuhan. (招待講演)
- Hirata, T., 2010. Non-traditional Applications of Laser Ablation Technique into the Earth Sciences. The international chemical congress of pacific basin societies (PACIFICHEM 2010), Honolulu, Hawaii. (招待講演)
- 平田岳史, 2011, レーザーアブレーション ICPMS 法(LA-ICPMS 法)による U-Pb 年代測定. 第 35 回フィッシュントラック研究会, 京都(招待講演)
- 星出隆志・小畑正明・Christy, A.G., 2010. マグマ溜り中の流体相のトレーサーとしての塩素: 室戸岬斑れい岩体の地球化学的研究. 日本地球惑星科学連合 2010 年大会予稿集, SVC062-11, 幕張メッセ, 千葉.
- 星出隆志・小畑正明, 2010. 磁鉄鉱を黒雲母で交代するその場熱水変質反応に伴う塩素の移動と定着: 室戸岬斑れい岩体での観察. 日本地球惑星科学連合 2010 年大会予稿集, SCG082-07, 幕張メッセ, 千葉.
- 星出隆志・小畑正明, 2010. 斑晶の識別・追跡マーカーとしてのクロムスピネル包有物. 日本鉱物科学会 2010 年度年会, R4-20, 島根大学.
- Hoshide, T., Obata, M., and Christy, A.G., 2010. Chlorine as a tracer of aqueous fluid in a crystallizing magma reservoir: a geochemical study of the Murotomisaki Gabbro, SW Japan. Joint Meeting of Korean and Japanese Geological Societies - Muroto Geopark, U1, Muroto, Kochi, Japan.
- 星出隆志・小畑正明・Christy, A.G., 2010. 層状貫入岩体における全岩 Cl 量の変化—結晶化するマグマ中での流体相の発生と移動. 日本火山学会 2010 年秋季大会, 3B-13, 京都大学.
- 井上 文・郁芳随徹・坂口有人・田上高広・渡邊裕美子, 2010. 四万十付加体の震源断層におけるフィッシュントラック分析. 地球惑星科学関連学会 2010 年連合大会, 幕張, 千葉, 2010 年 5 月 25 日.

- 石川正弘・河上哲生・Satish-Kumar, M.・Grantham, G. H.・土屋範芳, 2010. 東南極セールロンダーネ山地バルヒェン山の地質構造:JARE51 の予察的報告. 第30回極域地学シンポジウム講演要旨, 東京.
- 河上哲生・石川正弘・Satish-Kumar, M.・土屋範芳・吉田健太, 2010. 東南極セール・ロンダーネ山地に産する泥質変成岩類中の Al_2SiO_5 鉱物. 日本地質学会第117年学術大会講演要旨, p.133, 富山.
- 河上哲生・サティシュ・クマール・土屋範芳・石川正弘・東野文子・吉田健太, 2010. 東南極セールロンダーネ山地パーレバンデおよびバルヒェン山に産する泥質変成岩類. 第30回極域地学シンポジウム講演要旨, 東京.
- 河上哲生・柚原雅樹・上久保寛・小山内康人・Punya Charusiri, . 2010. タイ中部 Pranburi-Hub Kapong 地域に産する高度変成岩類. 日本鉱物科学会 2010 年度年会講演要旨集. p.183, 松江.
- 神前 喬・佐伯和人・下林典正・大竹真紀子・荒井朋子・土山明, 2010. 月の斜長石の反射スペクトルにおける 1.25 mm 吸収帯と含有微量 Fe との関係. 日本惑星科学会 2010 年秋季講演会, 名古屋大学, 2010 年 10 月 6-8 日.
- Kubo, N., Namiki, N., Ohtake, M., Yamaji, A., Haruyama, J., and Matsunaga T., 2010. Layering and thickness of basaltic lava flows in Mare Humorum; new spectral analysis of Multiband Imager data of Kaguya (SELENE). Abstracts of Papers Submitted to the Lunar and Planetary Science Conference, v. 41, p. 1915.
- 熊本篤志・小野高幸・山口 靖ほか, 2010. かぐや月レーダサウンドによる月地表・地下構造の観測. 日本地球惑星科学連合 2010 年大会, 幕張, 千葉.
- Lin, W., Byrne, T.B., Tsutsumi, A., Chang, C., Yamamoto, Y., and Sakaguchi, A., 2010. A comparison of stress orientations determined by two independent methods in a deep drilling project. Extended abstract for European Rock Mechanics Symposium (EUROCK 2010), Switzerland, June, 15-18, 2010,.
- Lin, W., Byrne, T.B., Tsutsumi, A., Yamamoto, Y., Sakaguchi, A., Yamamoto, Y., and Chang, C., 2010. Applications of anelastic strain measurements in scientific ocean deep drillings. Extended abstract for the 5th International Symposium on In-situ rock stress, Beijing, China, Aug. 25-27, 2010.
- 前田晴良・重田康成, 2011. 蝦夷層群研究の展望. 松本達郎会員追悼シンポジウム-白亜紀研究の進展, 日本古生物学会第160回例会講演予稿集, p. 8, 高知, 2011 年 1 月 28 日.
- Maki, K., Yui, T.F., Fukuyama, M., Wang, K.L., Martens, U., Grove, M., and Liou, J.G., 2010. Zircon U-Pb ages, trace element and Hf isotope compositions of migmatites from the Higo metamorphic terrane, Japan. 日本地球惑星科学連合 2010 年大会予稿集, SMP055-02, 幕張メッセ, 千葉.
- Maki, K., Yui, T.F., Fukuyama, M., Wang, K.L., Martens, U., Grove, M., and Liou, J.G., 2010. Formation of migmatites of the Higo metamorphic terrane, central Kyushu, Japan: zircon U-Pb ages, trace element and Hf isotope analyses. 2010 Western Pacific Geophysics Meeting, Taipei Taiwan.
- Matsuno, J., Tsuchiyama, A., Noguchi, R., Miyake, A., Shimobayashi, N., Ichikawa, S., and Souma, N., 2011. Reduction experiments of amorphous silicates with the mean composition of GEMS. Program and Abstracts, 42nd Lunar and Planetary Science Conference, 1810.pdf, The Woodlands, Texas, 7-11 March, 2011.
- 三宅亮, 2010. ペリクレーズ(MgO)中の空孔の電子状態計算. 日本鉱物科学会 2010 年会講演要旨集, p. 149, 島根大学, 松江, 2010 年 9 月 23-25 日.
- 三宅亮, 2010. ペリクレーズ(MgO)中の空孔の電子状態計算. 第24回分子シミュレーション討論会, 福井県民ホール, 福井, 2010 年 11 月 24-26 日.
- Miyake, A., and Kawano, J., 2010. High-temperature molecular dynamics simulation of aragonite. In Abstracts, 20th General Meeting of the International Mineralogical Association. Acta Mineralogica-Petrographica Abstract Series 6, p. 819, Budapest, Hungary, 21-27 August, 2010.
- 三宅亮・高谷真樹・兒玉優・大井修吾, 2010. フォルステライト・コランダム・白金の熱膨張率. 日本鉱物科学会 2010 年会講演要旨集, p. 147, 島根大学, 松江, 2010 年 9 月 23-25 日.
- Naemura, K., Ikuta, D., Kagi, H., Odake, S., Ueda, T., Ohi, S., Kobayashi, T., and Hirajima, T. and Svojtka, M., 2010, Diamond and other mineralogical records of very deep origin in spinel-garnet peridotite from

- Moldanubian Zone, Bohemian Massif. AGU, San Francisco, California, USA, 2010 年 12 月 15 日. (招待講演)
- 苗村康輔・野口直樹・上田匡将・平島崇男, 2010, ボヘミア産ざくろ石橄欖岩から見いだした超深部条件(200 km 以深)を示唆する証拠. 9 月 11 日, 日本鉱物科学会 2010 年度年会(松江)
- 中村大輔・平島崇男, 2010. 中国東部・蘇魯地域における超高压変成エクロジヤイトの冷却上昇履歴とその意義. 日本鉱物科学会 2010 年度年会, 松江, 2010 年 9 月 24 日.
- 中野伸彦, 足立達朗, 小山内康人, 河上哲生, Punya Charusiri, 柚原雅樹, 米村和紘, 吉本 紋. 2010. タイ西部・インタノン帯の変成・火成史解読の試み. 日本鉱物科学会 2010 年度年会講演要旨集. p.206, 松江.
- Obata, M., and Ozawa, K., 2010. Kelyphite and symplectite after garnet: microstructure, formation processes and reaction kinetics International Mineralogical Association, Budapest, Aug. 21-27, 2010. (招待講演)
- 小畑正明・上田匡将, 2010. 超塩基性シュードタキライトの観察から中-深部地震の震源過程とメカニズムを考える. 日本地質学会第 117 年学術大会, 富山, 2010 年 9 月.
- 小畑正明・上田匡将・Di Toro, Giulio, 2010, ウルトラマイロナイト(Sheared)シュードタキライトとその地震発生的意義, 地球惑星科学連合 2010 年大会, 幕張メッセ国際会議場.
- 大井修吾・兒玉優・伊神洋平・三宅亮, 2010. 高温その場 X 線回折実験による斜方輝石($Mg_{1.8}Fe_{0.2}Si_2O_6$)の相転移. 日本地球惑星科学連合 2010 年大会予稿集, SPG082-P05, 幕張メッセ, 千葉, 2010 年 5 月 23-28 日.
- 大井修吾・兒玉優・伊神洋平・三宅亮, 2010. 低温型-高温型斜方輝石と低温型-高温型単斜輝石の相転移温度. 日本鉱物科学会 2010 年会講演要旨集, p. 146, 島根大学, 松江, 2010 年 9 月 23-25 日.
- Ohi, S., Kogiso, T. and Miyake, A., 2011. Synthetic experiments of dehydrated fluid inclusions from hydrated minerals, International symposium on geofluids. Program and Abstracts, 1st International Symposium on Geofluid, p. 76, Tokyo, March 17-19, 2011.
- Ohi, S., Miyake, A. and Yashima, M., 2010. Stability of the high-temperature orthorhombic phase in $Mg_2Si_2O_6$ - $CaMgSi_2O_6$ system. Abstracts, 20th General Meeting of the International Mineralogical Association; Acta Mineralogica-Petrographica Abstract Series 6, p. 813, Budapest, Hungary, August 21-27, 2010.
- Osanai, Y., Nakano, N., Owada, M., Satish-Kumar, M., Kawakami, T., Miyamoto, T., Yonemura, K., and Yoshimoto, A., 2010. Multiple collision system and related metamorphism during Asian continental growth. 日本地質学会第 117 年学術大会講演要旨, p.67, 富山.
- Sakaguchi, A., Chester, F., Curewitz, D., Fabbri, O., Goldsby, D., Kimura, G., Li, C-F, Masaki, Y., Screenshot, E., Tsutsumi, A., and Ujiie, K., 2010. Evidence for high frictional heat at a shallow portion of the faults, Tonankai earthquake rupture area. SSS019-14, 日本地球惑星科学連合 2010 年大会予稿集, 幕張メッセ国際会議場, 2010 年 5 月 24 日.
- Sakaguchi, A., Chester, F., Curewitz, D., Fabbri, O., Goldsby, D., Kimura, G., Li, C., Masaki, Y., Screenshot, E., Tsutsumi, A., Ujiie, K., and Yamaguchi, A., 2010. Frictional high heat at shallow portion of the mega-splay fault and frontal thrust: Core analysis of IODP NanTroSEIZE stage 1, 2010 Western Pacific Geophysics Meeting, 台北国際会議場, 2010 年 6 月 23 日.
- 酒井治孝, 2010. ヒマラヤ山脈の上昇とナップテクトニクス. 日本地質学会 117 年学術大会, p.22, 富山.
- 酒井治孝, 2010. 沈み込み帯型造山帯と大陸衝突型造山帯の比較. 日本地質学会 117 年学術大会, p.23, 富山.
- Satish-Kumar, M., Tsuchiya, N., Kawakami, T., and Ishikawa, M., 2010, Determination of peak metamorphic temperature condition using calcite-graphite carbon isotope thermometry in rehydrated high-grade metamorphic terrains. 日本鉱物科学会 2010 年度年会講演要旨集. p.187, 松江.
- 佐藤活志, 2010. 応力逆解析手法の比較研究: 多重逆解法と Hough 変換による逆解法. 日本地球惑星科学連合 2010 年大会, STT075-01, 千葉.
- 佐藤活志, 2010. クラック方向分布への柔軟な確率モデルの当てはめと古応力推定. 日本地質学会 117 年学術大会, p.115, 富山.

- Sato, K., 2010. A wide-use method of fault-slip analysis: its principle and applications. Stress controls on faulting, fracturing and igneous intrusion in the Earth's crust: A meeting to commemorate the work of Ernest Masson Anderson, Abstract p. 67, Glasgow, UK.
- Shimobayashi, N., 2010. Antiphase boundaries found in sillimanite phenocrysts in Tosu rhyolite (Japan). *In* Abstracts, 20th General Meeting of the International Mineralogical Association; Acta Mineralogica-Petrographica Abstract Series 6, p. 436, Budapest, Hungary, August 21-27, 2010.
- 下林典正・能登谷智史, 2010. LRGB 合成法による EPMA-CL 像のカラーイメージング化. 日本顕微鏡学会第 66 回 学術講演会発表要旨集, p. 191, 名古屋国際会議場, 名古屋, 2010 年 5 月 23-26 日.
- 下林典正・大西政之・三浦裕行, 2010. 北海道三笠産アンモニウム硫酸塩鉱物:1. ゴドヴィコフ石・エフレモフ石・ツェルミツヒ石. 日本鉱物科学会 2010 年会講演要旨集, p. 96, 島根大学, 松江, 2010 年 9 月 23-25 日.
- Shimobayashi, N., Takaya, M., Nomoto, T., and Notoya, S., 2010. LRGB colour imaging of panchromatic SEM-CL images. Abstracts, 20th General Meeting of the International Mineralogical Association; Acta Mineralogica-Petrographica Abstract Series 6, p. 692, Budapest, Hungary, August 21-27, 2010.
- 藤内智士・佐藤活志・芦寿一郎, 2010. 小断層解析による熊本県天草諸島北東部の古第三紀以降の応力変遷. 日本地球惑星科学連合 2010 年大会, STT075-02, 千葉.
- 藤内智士・佐藤・活志・山路敦, 2010. 宮崎層群下部の小断層スリップデータを用いた古応力逆解析. 日本地質学会 117 年学術大会, p.114, 富山.
- Tagami, T., 2010. Thermal processes of seismogenic zones inferred from the thermochronology of fault rocks, 地球惑星科学関連学会 2010 年連合大会, 幕張, 千葉, 2010 年 5 月 24 日.
- Tagami, T., 2010. Thermochronology of fault zones. International Conference on Thermochronology Thermo2010, Glasgow, United Kingdom, August 17, 2010. (招待講演)
- 土谷成輝・平島崇男, 2010, 三波川帯徳島県高越地域に産するエクロジャイト中に見られるザクロ石の組成累帯構造について. 日本鉱物科学会 2010 年度年会, 松江, 2010 年 9 月 24 日.
- 土屋範芳・三浦英樹・菅沼悠介・橋詰二三雄・山崎慎一・山田亮一・小川泰正・Satish-Kumar, M.・河上哲生・石川正弘・Grantham, G.H., 2010. Geochemical characteristics of major and minor elements of soil and rocks in Sør Rondane Mountains, East Antarctica. 第 30 回極域地学シンポジウム講演要旨, 東京.
- Tsuchiya, N., Satish-Kumar, M., Kawakami, T., Ishikawa, M., and Grantham, G. H., 2010, Transport of geofluid revealed by stable isotopic compositions of carbon and oxygen of carbonate rocks in Sør Rondane Mountains, East Antarctica. 第 30 回極域地学シンポジウム講演要旨, 東京.
- 堤 昭人・井上 結貴, 2010. アラスカコディアック島の細粒黒色断層岩形成過程について. 日本地球惑星科学連合 2010 年大会予稿集, SSS020-07, 幕張メッセ国際会議場, 2010 年 5 月 26 日.
- Tsutsumi, A., Inoue, Y., and Ujiie, K., 2010. Frictional properties of argillaceous mélange rock from the Kodiak Island, Alaska. Abstract for the Joint Meeting of Korean and Japanese Geological Societies - Muroto Geopark-, Kochi, Japan, Aug. 23-25, 2010.
- 堤 昭人・氏家恒太郎, 2010. 付加体を構成する泥質物質の高速摩擦特性, 日本地質学会第 117 年学術大会, 富山大学, 2010 年 9 月 19 日.
- 氏家恒太郎・堤 昭人, 2010. 断層ガウジにおける thermal pressurization に関する実験的研究と特徴的微小構造. 日本地球惑星科学連合 2010 年大会予稿集, SSS020-18, 幕張メッセ国際会議場, 2010 年 5 月 26 日.
- Ujiie, K. and Tsutsumi, A., 2010. Frictional property and microstructures of the Nankai splay fault zone at seismic slip rates. 2010 Western Pacific Geophysics Meeting, 台北国際会議場, 2010 年 6 月 23 日.
- 氏家恒太郎・堤 昭人, 2010. 南海付加体における巨大分岐断層物質の高速せん断摩擦特性と微小構造. 日本地質学会第 117 年学術大会, 富山大学, 2010 年 9 月 19 日.
- Ujiie, K., and Tsutsumi, A., 2010. High-velocity frictional properties and microstructures of clay-rich fault gouge in

megasplay fault zone, Nankai subduction zone. American Geophysical Union 2010 Fall Meeting, Moscone Center, San Francisco, 2010 年 12 月 14 日.

Ujiie, K., Tsutsumi, A. and Kameda, J., 2010. Frictional property and microstructures of splay fault at seismic slip rate. 日本地球惑星科学連合 2010 年大会予稿集, SSS019-15, 幕張メッセ国際会議場, 2010 年 5 月 24 日.

渡邊裕美子・福永卓也・北 愛美・長谷川航・坂井三郎・田上高広・竹村恵二・余田成男, 2010. 鍾乳石と樹木年輪を用いた古気候学的研究. フィッショントラック研究会, 京都, 2011 年 1 月 7-8 日.

Watanabe, Y., Matsuoka, H., Sakai, S., Ueda, J., Yamada, M., Ohsawa, S., Kiguchi, M., Satomura, T., Nakai, S., Brahmantyo, B., Maryunani, K., Tagami, T., Takemura, K., and Yoden, S., 2010. Paleoclimatological Study using Stalagmite from Java Island, Indonesia, 2010 PAGES Regional Workshop in Japan, Nagoya, Japan, June 5-6, 2010.

Watanabe, Y., Matsuoka, H., Sakai, S., Ueda, J., Yamada, M., Ohsawa, S., Kiguchi, M., Satomura, T., Nakai, S., Brahmantyo, B., Maryunani, K., Tagami, T., Takemura, K., and Yoden, S., 2010. Paleoclimatological Study using Stalagmite from Java Island, Indonesia, IGBP PAGES 1st Asian 2K Workshop, Nagoya, Japan, August 26-27, 2010.

渡邊裕美子・坂井三郎・田上高広・竹村恵二・余田 成男, 2010. インドネシア・ジャワ島の石筍における過去 400 年間の炭素・酸素同位体比変動. 地球惑星科学関連学会 2010 年連合大会, 幕張, 千葉, 2010 年 5 月 23-28 日.

Watanabe, Y., Tamura, S., Harada, M., Nakatsuka, T., Mizuno, S., Sugiyama, J., Tagami, T., and Tsuda, T., 2010. Comparison between Tree-ring Data of Sungkai (*Peronema canescens*) and Meteorological Data from West Java, Indonesia, IGBP PAGES 1st Asian 2K Workshop, Nagoya, Japan, August 26-27, 2010.

山田国見・村上雅紀・田上高広・山田隆二, 2010. ジルコン(U-Th)/He 年代の短時間/熱水加熱実験, 地球惑星科学関連学会 2010 年連合大会. 幕張, 千葉, 2010 年 5 月 25 日.

Yamada, K., Murakami, M., Tagami, T., and Yamada, R., 2010. Ultra short term or hydrothermal retention experiments of zircon (U-Th)/He age, International Conference on Thermochronology Thermo2010, Glasgow, United Kingdom, August 16, 2010.

山口飛鳥・石川剛志・加藤 浩, Moore, J.C.・Rowe, C.D.・Meneghini, F.・堤 昭人・氏家恒太郎・木村 学, 2010. コディアク付加体 Pasagshak Point thrust における地震時の水-岩石相互作用. 日本地球惑星科学連合 2010 年大会予稿集, SSS020-06, 幕張メッセ国際会議場, 2010 年 5 月 26 日.

山路敦・佐藤活志・藤内智士, 2010. 鉍脈群からの応力状態推定:羽島(串木野)地域の石英脈への適用. 日本地球惑星科学連合 2010 年大会, SRD051-06, 千葉.

Yamaji, A., Sato, K., and Tonai, S., 2010. A new stochastic model for inferring the state of stress from epithermal vein orientations. Stress controls on faulting, fracturing and igneous intrusion in the Earth's crust: A meeting to commemorate the work of Ernest Masson Anderson, Abstract p. 71, Glasgow, UK.

山路 敦・佐藤活志・藤内智士, 2010. 鉍脈鉍床形成時の応力状態:亀裂のある岩体中の流体移動. 石油技術協会 2010 年春期講演会, 福岡国際会議場.

山崎誠子, 山田国見, 田上高広, Zwingmann, H., 2010. 断層ガウジ試料の K-Ar 年代測定に向けた取り組み. 日本質量分析学会 同位体比部会, 別府, 大分, 2010 年 11 月 17 日.

(院生・学生)

福永卓也・渡邊裕美子・松岡廣繁・中井俊一・田上高広・竹村恵二・余田成男, 2010. 石筍の年分解能時間モデル構築に向けた基礎研究. 地球惑星科学関連学会 2010 年連合大会, 幕張, 千葉, 2010 年 5 月 23-28 日.

福永卓也・渡邊裕美子・松岡廣繁・中井俊一・田上高広・竹村恵二・余田成男, 2010. インドネシアの鍾乳石に見られる年縞を用いた高分解能年代モデル構築. 日本質量分析学会 同位体比部会, 別府, 大分, 2010 年 11 月 17-19 日.

- Fukunaga, T., Watanabe, Y., Matsuoka, H., Nakai, S., Tagami, T., Takemura, K., and Yoden, S., 2010. Constructing high-resolution age model based on annual bandings of Indonesian stalagmites for paleoclimatology. PMIP3 Kyoto Workshop, Kyoto, Japan, December 6-10, 2010.
- 福永卓也・渡邊裕美子・松岡廣繁・中井俊一・田上高広・竹村恵二・余田成男, 2010. 鍾乳石における年代モデルの構築. フィッショントラック研究会, 京都, 2011年1月7-8日.
- 原田麻央・渡邊裕美子・中塚 武・水野寿弥子・杉山淳司・田上高広・津田敏隆, 2011. インドネシア産 樹木年輪(スンカイ)の炭素・酸素同位体比分析を用いた気候復元のための基礎研究. フィッショントラック研究会, 京都, 2011年1月7-8日.
- 長谷川航・澤村教伸・渡邊裕美子・田上高広, 2011. 北海道南西部の洞窟「北海洞」における東アジアモンスーン変動史の復元. フィッショントラック研究会, 京都, 2011年1月7-8日.
- 東野文子・河上哲生・サティシュ・クマール・土屋範芳・石川正弘, 2010. 東南極セールロンダーネ山地バルヒェンに産する黒雲母-ザクロ石-珪線石片麻岩に見られる塩素に富んだ黒雲母の産状. 第30回極域地学シンポジウム講演要旨, 東京.
- 平澤 聡・柏木健司, 2010. 富山県南-南東部に分布する上部ジュラ系手取層群海成層の微化石を含む棲管状生痕化石について. 日本地質学会第117年学術大会講演要旨, p. 236, 富山, 2010年.
- Hirasawa, S. and Kashiwagi, K., 2010. Trace fossils as microfossils preserver: A case of burrows containing Late Jurassic radiolarians and other microbial remains from the Upper Mesozoic Tetori Group, central Japan. Short papers for the 8th international congress on the Jurassic System, Earth Science Frontiers, 17, Special Issue, p. 188-190, 2010.
- 伊神洋平・三宅 亮・高谷真樹・兒玉 優・大井修吾, 2010. 珪線石のムライトへの分解過程の放射光粉末 X線回折実験. 日本鉱物科学会 2010年学術大会講演要旨集, p. 144, 島根大学, 松江, 2010年9月23-25日.
- 伊神洋平・高谷真樹・兒玉 優・三宅 亮・大井修吾, 2010. 珪線石のムライト化の放射光粉末 X線回折実験と微細組織観察. 第2回極域科学・宙空間・気水圏・生物・地学シンポジウム講演予稿集(CD-ROM), PG15, 国立極地研究所, 東京, 2010年12月14-18日.
- 郁芳随徹・長谷部徳子・山田国見・田上高広・渡邊裕美子・村上雅紀・山田隆二・荒井章司, 2010. 熱年代学的手法を用いた茂住祐延断層周辺岩石の熱履歴の分析. 地球惑星科学関連学会 2010年連合大会, 幕張, 千葉, 2010年5月23日.
- 井上美幸・瀬戸雄介・留岡和重・平島崇男・下林典正・野口直樹・大井修吾・小林記之, 2010. CK 隕石の斜長石の鉱物学的特徴と熱・衝撃履歴. 日本鉱物科学会 2010年学術大会講演要旨集, p. 162, 島根大学, 松江, 2010年9月23-25日.
- Kita, M., Watanabe, Y., Sakai, S., Fukunaga, T., Tagami, T., Takemura, K., and Yoden, S., 2010. Paleoclimate study over the last 500 years using the stalagmite from western Java, Indonesia. PMIP3 Kyoto Workshop, Kyoto, Japan, December 6-10, 2010.
- 北 愛美・渡邊裕美子・坂井三郎・福永卓也・田上高広・竹村恵二・余田成男, 2010. インドネシア・ジャワ島西部の石筍を用いた過去 500年間の古気候研究. 日本質量分析学会 同位体比部会, 別府, 大分, 2010年11月17-19日.
- 北 愛美・渡邊裕美子・坂井三郎・福永卓也・田上高広・竹村恵二・余田成男, 2011. インドネシア・西ジャワの鍾乳石中の炭素・酸素同位体変動. フィッショントラック研究会, 京都, 2011年1月7-8日.
- 北川博道, 2010. 化石研究会第134回例会特別講演. 島嶼環境へ進出した長鼻類化石の進化と絶滅. 化石研究会会誌, v. 43 (2), p. 113, 富岡市, 2010年11月.
- 北川博道・木野村孝一・岡村喜明, 2010. 大分県姫島村丸石鼻層産足跡化石(予報). 化石研究会会誌, v. 43 (1), p. 59, 新潟市, 2010年5月.
- 北川博道・高橋啓一, 2010. ナウマンゾウの第2, 第3大臼歯の形態的特徴とそれに基づく臼歯標本の再検討の例. 日本古生物学会 2010年年会予稿集, p.12, つくば市, 2010年6月.

- Kitagawa, H., Takahashi, K., Chang, C.H., Tsai, C.H., Tanaka, T., 2010. An island mammoth in Taiwan. 5th International Conference on Mammoth and their relatives, Le Puy-en-Velay, France, 2010, Quaternaire, (3), p. 151.
- 兒玉 優・三宅 亮・川寄智佑, 2010. 東南極大陸 Napier 岩体, Riiser Larsen 山に産する片麻岩中の ternary feldspar とその化学組成近傍における高温高压実験. 第 2 回極域科学・宙空圏・気水圏・生物・地学シンポジウム講演予稿集(CD-ROM), PG10, 国立極地研究所, 東京, 2010 年 12 月 14-18 日.
- 兒玉 優・三宅 亮・下林典正・北村雅夫, 2010. 東南極大陸 Napier 岩体, Riiser Larsen 山に産する片麻岩中の ternary feldspar の微細組織について. 日本鉱物科学会 2010 年会講演要旨集, p. 262, 島根大学, 松江, 2010 年 9 月 23-25 日.
- 黒滝啓介・北川博道・高橋啓一・松岡廣繁, 2010. 東京都渋谷区神宮前上部更新統より産出したナウマンゾウ化石(原宿標本)原宿標本. 日本古生物学会 2010 年年会予稿集, p.12, つくば市, 2010 年 6 月.
- 丸山啓志・松永豪・野村真一・松岡廣繁, 2010. 北海道日高地方沙流川流域より産出した小型クジラ類化石について(予報). 化石研究会会誌, v. 43, No. 1, p. 58-59.
- 丸山啓志・松岡廣繁, 2011. 北海道日高地方沙流川河床のニウ層群産小型ハクジラ類化石の *Kentriodon* 属への同定. 日本古生物学会第 160 回講演予稿集, p. 61, 高知.
- 中村 文・河上哲生, 2010. 長石中のリンの組成累帯構造から見る黒雲母の形成過程. 第 30 回極域地学シンポジウム講演要旨, 東京.
- 中村 文, 河上哲生, 2010. 長石中のリンの組成累帯構造から見る黒雲母の形成過程. 日本鉱物科学会 2010 年度年会講演要旨集, p.192, 松江.
- 牲川菜月・北村雅夫・下林典正・三宅 亮・高谷真樹・兒玉優・平田岳史・横山隆臣, 2010. 雪の砲弾集合の理論的解釈とその作製実験. 学習院大学計算機センター特別研究プロジェクト「結晶成長の数理」第 5 回研究会—鏡像対称性と結晶成長—講演資料集, 学習院大学, 東京, 2010 年 12 月 24-25 日.
- Nomoto, T., Kani, T., Matsuoka, H., and Kitamura, M., 2010. Mineralogical study of a stalagmite in Goa Asrep cave, Central Java. 日本地球惑星科学連合 2010 年大会予稿集, SCG082-P01, 幕張メッセ, 千葉, 2010 年 5 月 23-28 日.
- 野本哲也・下林典正, 2010. 斜長石の構造から推測した栃木県茂木地域に産するアイスランダイトの形成過程. 日本火山学会講演予稿集 2010 年度秋季大会, p. 78, 京都大学, 京都, 2010 年 10 月 9-11 日.
- 野本哲也・三宅亮・下林典正・北村雅夫, 2010. 東北日本脊梁地域に産する宇津野火山岩の形成過程. 日本鉱物科学会 2010 年会講演要旨集, p. 263, 島根大学, 松江, 2010 年 9 月 23-25 日.
- Okabayashi, S., Yokoyama, T.D., Yamamoto, S., Yokoyama, T., and Hirata, T., 2010. Evaluation of Laser Ablation in Liquids as New Sampling Method for ICP-MS. 10th European Workshop on Laser Ablation in Elemental and Isotopic Analysis, Program and Abstracts, p. 42-43, Kiel (Germany), June 29-July 1, 2010.
- 岡林識起・横山隆臣・横山哲也・平田岳史, 2010. 元素・同位体分析を目的とした液中レーザーアブレーション法(LAL)の開発. 日本地球化学会第 57 回年会講演要旨集, p. 151, 熊谷.
- 岡林識起・横山隆臣・横山哲也・平田岳史, 2010. 液中レーザーアブレーションの局所同位体分析への利用. 質量分析学会同位体比部会, 別府, 2010 年 11 月 17-19 日.
- 大西政之・下林典正・三浦裕行, 2010. 北海道三笠産アンモニウム硫酸塩鉱物:2. ブサンゴ石. 日本鉱物科学会 2010 年会講演要旨集, p. 97, 島根大学, 松江, 2010 年 9 月 23-25 日.
- 大西政之・下林典正・宮脇律郎, 2010. 兵庫県新井鉱山産 Cu に富むシューレンベルグ石. 日本鉱物科学会 2010 年会講演要旨集, p. 88, 島根大学, 松江, 2010 年 9 月 23-25 日.
- 末岡 茂・Kohn, B.P.・田上高広・長谷部徳子・堤 浩之・山田国見・田村明弘・荒井章司・狩野謙一・池田安隆・白濱吉起, 2011. 低温領域の熱年代学から見た木曾山脈・赤石山脈の傾動隆起. フィッショントラック研究会, 京都, 2011 年 1 月 8 日.

- 高橋啓一・北川博道, 2010. ミヤコノゾジカはノロ属のシカなのか. 日本古生物学会 2010 年年会予稿集, p. 11, つくば市, 2010 年 6 月.
- 土屋範芳・M. Satish-Kumar・河上哲生・石川正弘, 2010. 東南極, セール・ロンダーネ山地の炭酸塩岩の炭素, 酸素同位体組成と流体移動(予報). 日本地質学会第 117 年学術大会講演要旨, p.132, 富山.
- 津久井敦也・堤 昭人・福岡 浩, 2010. 大規模海底地すべりと付加体前縁断層上盤物質の摩擦特性. 日本地すべり学会研究発表会講演集, v. 49, p. 23, 沖繩, 2010 年 7 月 7 日.
- Tsukui, A., Tsutsumi, A., and Fukuoka, H., 2010. Deep-seated submarine landslides and frictional properties of accretionary prism from the hanging wall of the frontal thrust region, offshore the Kii Peninsula. American Geophysical Union 2010 Fall Meeting, Moscone Center, San Francisco, 2010 年 12 月 14 日.
- 上田匡将, 2010. 北イタリア Balmuccia かんらん岩シュードタキライト断層脈中のかんらん石結晶上に定方位に発達する斜方輝石反応縁(「斜方輝石フリンジ」)とその意義: ストレスマーカー? 日本地質学会第 117 年学術大会, 富山, 2010 年 9 月.
- 上田匡将, 2010. マントル岩上昇時に脆性-延性遷移帯で形成された mylonitic pseudotachylyte, イタリアアルプス. 地球惑星科学連合 2010 年大会, 幕張メッセ国際会議場.
- 上岡周平・山路敦・佐藤活志・春山純一・大竹真紀子・松永恒雄, 2010. 詳細地形(DTM)から推定されたグラーベンの地下構造モデル. 日本地質学会 117 年学術大会講演要旨, p.112, 富山, 2010 年.
- 上岡周平・山路 敦・佐藤活志・春山純一・大竹真紀子・松永恒雄, 2010. 月の詳細地形(DTM)から推定されたグラーベン下のマグマだまり. 日本惑星科学会秋季講演会, P028, 名大野依学術交流館, 2010 年.
- 渡辺順也・松岡廣繁, 2011. 現生アオサギ *Ardea cinerea* の個体発生における骨成長と長骨表面構造の変化. 日本古生物学会第 160 回例会講演予稿集, p. 67, 高知.
- 横山隆臣・平田岳史・壇原 徹・壇原有吾・岩野英, 2010. リダクションイオン検出法を用いたジルコン U-Pb 年代測定-どこまで若いジルコンに迫れるか-. 質量分析学会同位体比部会, 別府, 2010 年 11 月 17-19 日.
- Yokoyama, T.D., Imai, T., Suzuki, T. Takahashi, E., Takeyama, M., and Hirata, T., 2010. Compound metallic standard materials for femtosecond-LA-ICP-MS. 10th European Workshop on Laser Ablation in Elemental and Isotopic Analysis, Program and Abstracts, p. 28-29, Kiel (Germany), June 29 - July 1, 2010.
- 横山隆臣・今井崇暢・横山哲也・高橋栄一・鈴木敏弘・竹山雅夫・平田岳史, 2010. 親鉄性元素分析のための金属質標準試料の合成. 日本地球化学会第 57 回年会講演要旨集, p. 153, 熊谷.
- 吉田健太・平島崇男, 2010. 四国中央部別子地域五良津西部岩体北端近傍に産する角閃岩中のカルデラ型 Mn 累帯構造を示すザクロ石. 日本地質学会第 117 年学術大会講演要旨, p. 257, 富山.
- 吉田健太・千眼喜照・土谷成輝・皆川広太・小林記之・三島壮智・大沢信二・平島崇男, 2010. 三波川帯四国中央部別子地域に産する高 Li/B 流体包有物. 日本鉱物科学会 2010 年度年会, 松江, 2010 年 9 月 24 日.

◇その他(地図・地質図, ガイドブック, データベース)

- 平澤 聡・柏木健司・藤田将人, 2010. 富山県に分布する上部ジュラー下部白亜系手取層群の海成層と恐竜足跡化石. 日本地質学会第 117 年学術大会見学旅行案内書, 地質雑, v. 116, 補遺, p. 103-121.
- Hoshide, T., and Obata, M. 2010, Origin of igneous layering - The guide for the field trip of the Murotomisaki Gabbroic Intrusion, Southwest Japan. Joint Meeting of Korean and Japanese Geological Societies - Muroto Geopark - Field Excursion Guidebook, p. 2-20.

付録2. 観測データ・野外調査

◇観測データ

海洋物理学研究室:KH1103 東京大学海洋研究所・JAMSTEC 研究船 白鳳丸調査航海乗船(2011年3月12日—16日(中止))

測地学研究室:桜島, 2010年5月~2011年3月、絶対重力測定

測地学研究室:熊本, 2010年5月、10月、2011年3月、絶対重力測定

測地学研究室:滝上, 2010年6月、2011年3月、絶対重力測定

測地学研究室:インドネシア・ジャカルタ、バンドン、2010年7-8月、絶対重力測定

測地学研究室:インドネシア・チビノン、2010年7月~、超伝導重力計連続観測

測地学研究室:竹富町, 2010年4月~ 2011年3月, GPS連続観測

物理気候研究室:Vientiane(ラオス), 2010年雨期(欠測有り), レーダー観測

◇野外調査

岩出 昌:山口県下関市豊浦地域, 2011年3月4日-3月6日, 地質調査.

上村謙一郎:熊本県八代市東陽村付近, 2010年4月29日-5月6日, 地質調査.

唐沢與希:山口県下関市豊浦地域, 2011年3月4日-3月6日, 地質調査.

熊谷太朗:山口県下関市豊浦地域, 2011年3月4日-3月6日, 地質調査.

熊谷太朗:北海道天塩郡佐久・遠別地域, 2011年7月17日-7月19日, 地質調査.

酒井治孝・藤井理恵・中井一幸:中央ヒマラヤ(ネパール), 2011年3月7日-21日, 地質調査.

田上高広・松岡廣繁:北海道北海洞, 2010年6月13日-6月15日, 鍾乳洞調査.

田上高広:グラスゴー(イギリス, ロンドン), 2010年8月14日-8月15日, 同位体試料採取.

田上高広・渡邊裕美子:大分県稲積水中鍾乳洞, 2010年11月20日-11月22日, 鍾乳洞調査.

田上高広・渡邊裕美子:滋賀県高島市花折断層, 2010年8月6日-8月7日, 断層調査.

堤 昭人:コスタリカ沖, 2011年3月13日-2011年4月14日, 掘削研究(IODP第334次航海乗船研究者).

平島崇男・野口直樹・吉田健太・土谷成輝・朝倉顯爾・上村謙一郎:四国中央部汗見川地域, 2010年6月14日-16日, 地質調査.

平島崇男・吉田健太:チェコ共和国, 2010年5月10-18日, 地質調査.

前田晴良:北海道遠別町遠別川流域, 2010年7月7日-7月18日, 地質調査.

前田晴良:熊本県内大臣地域, 2010年10月11日-10月14日, 地質調査.

前田晴良:岐阜県福地地域, 2010年9月3日-9月5日, 地質調査.

前田晴良:山口県下関市豊浦地域, 2010年3月4日-3月7日, 地質調査.

前田晴良:徳島県中部地域, 2010年3月27日-30日, 地質調査.

松岡廣繁・丸山啓志・黒滝啓介・福田康太・木林理:愛知県松原市表浜地域・宮下地域, 2010年11月2日, スナメリ死骸・アオウミガメ死骸調査.

丸山啓志・河合真梨香・木林理:愛知県松原市表浜地域, 2010年7月16日, アオウミガメ死骸調査.

丸山啓志:北海道沙流郡日高町富岡沙流川流域, 2010年8月22日, 地質調査.

丸山啓志:鹿児島県日置市江口浜, 2011年7月26日, コマッコウ死骸腐敗状況調査.

渡邊順也:山口県下関市豊浦地域, 2011年3月4日-3月6日, 地質調査.

付録3. その他の活動

◇国際共同研究

石川洋一:「Use of satellite data derived ocean color and SST information for Thailand Fishery」Department of Fisheries, Thailand

里村雄彦: タイ、ラオス、ベトナムの各国気象局と、現地に適用可能なレーダーエコー合成技術及び雨量変換技術に関する共同研究を実施中

重 尚一: IPWG (International Precipitation Working Group), 2001 年に WMO (World Meteorological Organization)/CGMS (Coordination Group for Meteorological Satellites)の下部組織として発足。世界各国の研究チームが作成した種々の降水マップを、日本のレーダー・アメダス解析雨量を用いて評価する日本域検証ページ(http://www-ipwg.kugi.kyoto-u.ac.jp/IPWG/sat_val_Japan.html)を運営し、IPWG 国際検証ネットワークの確立に貢献している。

田上高広: ハワイ諸島のホットスポット火山研究, 1999 年度-2010 年度. 米国 US Geological Survey, Univ. Hawaii, マントル深部からの上昇流に起因するホットスポット型火山帯形成の標準モデル構築を目指して、ハワイ-天皇海山列の東端にあたるハワイ諸島周辺において、年代測定と化学分析などを用いた共同研究を行っている。

田上高広: 野島断層の年代学的研究, 2004 年度-2010 年度. オーストラリア CSIRO パース支部, 野島断層などの地震断層の活動履歴を復元するため、断層粘土より分離したイライトを用いて K-Ar と Ar/Ar 年代測定を行っている。

津田敏隆・余田成男・杉山淳司・田上高広・渡邊裕美子・中塚 武: インドネシアの樹木年輪を用いた研究. 2007 年度-2010 年度. インドネシア LIPI, アジア赤道域の過去のモンスーン気候/気象変動, 特にエルニーニョ南方振動(ENSO)について、局地的な降水量の指標となる樹木年輪から読み解く事を目的として共同研究を進めている。

堤 昭人: IODP(Integrated Ocean Drilling Program)の南海トラフ地震発生帯掘削研究(2007 年度から継続中)およびコスタリカ沖浸食型沈み込み帯掘削研究(2011 年 3 月 14 日から継続中)において採取された沈み込み帯断層物質をもちいて、断層変形機構や摩擦すべり特性を明らかにすることを目的とした共同研究を行っている。

平島崇男: スロバキア共和国の高圧変成岩の共同研究者(M. Radvanec ら)が来校, EPMA, Raman 分光分析を実施, 2010 年 10 月 20 日-11 月 9 日。

福田洋一: GGP(Global Geodynamics Project)(1997 年から継続中)、IAG(International Association of Geodesy)の 10 数カ国、地球ダイナミクスの研究を目的とした超伝導重力計による全球的観測網

余田成男・竹村恵二・里村雄彦・田上高広・大沢信二・渡邊裕美子: インドネシアの鍾乳石を用いた赤道域の古気候/古環境研究, 2005 年度-2010 年度. インドネシア Institut Teknologi Bandung, アジア赤道域の過去のモンスーン気候/気象変動, 特にエルニーニョ南方振動(ENSO)について、局地的な降水量の指標となる地下水中の酸素・炭素同位体 変動から読み解く事を目的として、インドネシア国内の鍾乳洞において鍾乳石(石筍)と滴水を採取し、綿状組織観察・化学分析・年代測定などの共同研究を進めている。

◇社会的貢献

泉 拓良・松岡廣繁: トークショー「X トーク第1弾: 鳥の木乃伊の謎に迫る」。京都大学総合博物館特別展『科学技術 X の謎』関連イベント, 京都大学総合博物館, 2010 年 5 月 15 日。

上田匡将・東野文子・河上哲生: 大地は語る(地質の日イベント)展示, 京都大学総合博物館, 2010 年 5 月 15-16 日。

上田匡将・黒須弘美・丸山啓志: 大地は語る(地質の日イベント)企画・実行委員会, 京都大学総合博物館, 2010 年 3 月-5 月 16 日。

河上哲生: 兵庫県立伊丹北高等学校 サイエンスレクチャー講師, 2010 年 9 月 10 日。

北川博道: きしわだ自然資料館特別展記念講演「ナウマンゾウ復元の現在」, 2010 年 12 月 18 日。

久家慶子: 伊丹北高校サイエンスレクチャー「地球の鼓動を探る」, 伊丹北高校, 2010 年 10 月 8 日(出張講義)

久家慶子:京都大学女性研究者支援センター「車座フォーラム」講師, 京都大学医学部, 2010年11月14日(高校生への研究生活紹介)

久家慶子:理学部ラジオ、 α -Station、2010年11月14日(研究生活紹介)

熊谷太朗:むかわ町立穂別博物館, 春季特別展「白亜紀巨大二枚貝 イノセラムス・ホベツエンシス展」展示協力.

熊谷太朗:新三重県立博物館建設予定地, 地層調査委員.

黒須弘美・岩出昌・河村麻衣・丸山啓志:「化石にさわろ, 青空子ども博物館 in 円山」. 京都大学総合博物館・円山公園音楽堂事務部共催, 円山公園音楽堂, 2010年5月5日.

黒須弘美・丸山啓志・河村麻衣・三好茜:「化石レプリカの作成」. 週末子ども博物館・大地は語る(地質の日イベント)共催, 京都大学総合博物館, 2010年5月15日.

齊藤昭則:大崎市立古川東中学校、2010年7月7日(出張授業)

齊藤昭則:岩沼市立岩沼小学校、2010年7月8日(出張授業)

齊藤昭則、宮崎真一:沖縄県竹富町立船浦中学校、上原小学校、黒島小中学校、2010年9月13日-15日(出張授業)

齊藤昭則:「サイエンスレクチャー2010」、伊丹北高校、2010年9月30日(出張授業)

齊藤昭則:小百合モンテッソーリ学園小百合幼稚園、2011年1月20日(出張授業)

酒井治孝:京都大学総合博物館レクチャーシリーズ 78 回講演「エベレストの謎」(地質の日関連イベント). 京都大学総合博物館, 2010年5月15日.

酒井治孝:日本ネパール協会関西支部講演「ヒマラヤの誕生とモンスーンの成立」. 2010年6月5日.

酒井治孝:徳島県立博物館企画展展示協力「ヒマラヤ-自然と人々の暮らし」. 2010年4月29日-6月6日.

佐藤活志:伊丹北高校サイエンス・レクチャーでの講演「付加体-日本列島の骨格」. 2010年9月24日.

里村雄彦:芦屋川カレッジ(芦屋市高齢者大学)「六甲おろしと季節風」講師

重 尚一:第22回日本気象学会夏期特別セミナー(若手会夏の学校)での講演「私のささやかな冒険(=研究)談~学部生時代から現在までを振り返って~」, 京都府ゼミナールハウス, 2010年7月17日

重 尚一:京都大学理学部 ELCAS・最先端科学の体験学習講座(京都大学理学部・未来の科学者養成講座) 体験学習コース・宇宙地球, 京都大学理学部1号館(京都市), 2011年1月8日(1回)

重 尚一:ラジオ番組出演「 α -ACADEMIC SPECTRUM」第25回, 2011年3月20日, α -Station FM KYOTO

下林典正:一般市民向け講演「ヒスイに伴う Sr, Ba 鉱物」. 京都勸業会館・みやこめっせ, 石ふしぎ大発見展・第22回京都ショーでの特別講演, 2010年10月9日.

下林典正:ラジオ番組出演, FM 京都 α -Station「 α -ACADEMIC SPECTRUM」, 2010年10月17日.

平田岳史:兵庫県立柏原高等学校進路探求ウィーク講演, 2009年9月30日.

平田岳史:山梨県立都留高等学校講演, 2010年8月28日.

平田岳史:日本地球化学会ショートコース開催, 2010年9月7日.

平田岳史:株式会社クレハ分析センター学術講演会, 2010年9月10日.

平田岳史:横浜桐蔭高等学校フロンティアセミナー講演, 2010年9月19日.

平田岳史:ELCAS(京都大学理学部主催), 2010年10月-11月(3回).

平田岳史:地球惑星秋の学校, 2010年10月9日.

平田岳史:兵庫県立北須磨高等学校インスパイアハイスクール, 2010年11月9日.

平田岳史:兵庫県立西脇高等学校インスパイアハイスクール, 2010年12月9日.

前田晴良:和歌山県立自然史博物館企画展展示協力「白亜紀前期の世界」, 2010年7月17日-8月31日.

前田晴良:京大防災研究所一般研究集会講演「地学復権に向けての京都大学の試行錯誤—地質の日の取り組み—」.
京都大学防災研究所, 2010年9月2日.

前田晴良: 名古屋大学博物館特別講演会「化石のメカニズムを探る」. 名古屋大学博物館, 2011年2月12日.

前田晴良: 2011年地質の日記念企画展 大地は語る 2011 特別講演「ふんが守った! 5億年前の立体ミジンコ化石」.
京都大学総合博物館, 2011年5月14日.

前田晴良・大野照文・渡邊順也・理学研究科中央図書館:地鉦教室資料に関するアウトリーチ「関東大震災 京大調査団員の手紙」.
京都新聞(2011年5月13日朝刊), 京都大学ホームページ「総合トップ」(5月23日)ほか.

前田晴良・田中源吾・下林典正・大野照文・松岡廣繁:研究成果のアウトリーチ「ふんが守った立体化石」.
朝日新聞(2011年4月16日夕刊), 京都新聞(4月13日朝刊), 産経新聞(4月13日朝刊), 中日新聞(4月13日朝刊), 日本経済新聞(4月13日朝刊), 毎日新聞(4月20日朝刊), 京都大学ホームページ「研究トップ」(4月12日)ほか.

前田晴良・松岡廣繁・熊谷太朗・北川博道・有吉 俊・牧田侑子・丸山啓志・吉田亜希菜・渡邊順也: 2010年度11月祭研究室企画展示「化石のメカニズムを探る」および普及講演. 京都大学百周年時計台記念館, 2010年11月23日.

町田忍:「宇宙に浮かぶ地球とオーロラの神秘, お寺で宇宙学・全国オーロラ研究会」、浄慶寺(京都)、2010年12月3日(一般向け講演)

松岡廣繁:体験学習講師「賀茂川地学散歩」.
京都大学総合博物館・夏休み学習教室「体験 EXPO 2010'夏」, 2010年8月4日.

松岡廣繁:体験学習講師「荘川化石フォーラム」.
高山市教育委員会, 2010年8月8日.

松岡廣繁:出前授業「動物の骨と筋肉の仕組み」.
子どもの知的好奇心をくすぐる体験事業-京都大学と京都府教育委員会との連携事業, 京丹後市吉原小学校, 2010年11月8日.

松岡廣繁:出前授業「動物の骨と筋肉の仕組み—あたまの骨の形と役割」.
子どもの知的好奇心をくすぐる体験事業-京都大学と京都府教育委員会との連携事業, 京丹後市立大宮第一小学校, 2010年11月16日.

丸山啓志:「昔と今のイルカのお話」.
週末こども博物館, 京都大学総合博物館, 2010年11月20日.

宮崎真一:小中学校における理科特別授業(竹富町・石垣市)

余田成男:平成22年度膳所高等学校生徒向け公開講座(前期) 生命化学Aコース
平成22年9月3日 京都大学大学院理学研究科理学部1号館566号室
講義内容「地球温暖化問題の理学的基礎知識」

余田成男:京都大学理学部 ELCAS・最先端科学の体験型学習講座(京都大学理学部・未来の科学者要請講座)
平成22年11月20日, 12月4日, 平成23年2月5日(3回) 京都大学理学部1号館(京都市)
講義内容「地球温暖化の科学」

余田成男:京都大学と京都教育委員会との連携事業 ～京都市町立小・中学校・府立学校における出前授業～
平成23年2月9日 京都府立宮津高等学校
「子どもの知的好奇心をくすぐる体験事業」

◇各種役員・編集員等

(地球物理分野)

秋友和典:日本海洋学会「海の研究」編集委員

秋友和典:日本海洋学会 評議員

秋友和典:日本陸水学会 limnology 編集委員

淡路敏之:GODAE・国際委員

淡路敏之:CLIVR・国際委員

淡路敏之:日本学術会議 IAPSO 小委員会・委員
淡路敏之:科学技術会議・専門委員
淡路敏之:IGOS/GODAE・ワーキンググループ責任者
淡路敏之:(財)日本海洋科学振興財団・理事
淡路敏之:日本海洋学会・評議員
石川洋一:日本海洋科学振興財団・海洋放射能等検討委員会・委員
石川洋一:海洋宇宙連携委員会・海運・海洋セーフティ分科会委員
石川洋一:JAXA 衛星海面高度計技術検討部会委員
石岡圭一:日本気象学会気象集誌編集委員
石岡圭一:日本気象学会関西支部常任理事
石岡圭一:日本惑星科学会情報部会委員
久家慶子:文部科学省 科学技術・学術審議会 測地分科会 地震火山部会・臨時委員
久家慶子:文部科学省 科学技術・学術審議会 測地分科会・臨時委員
久家慶子:(社)日本地震学会・理事
久家慶子:Pure and Applied Geophysics (Birkhauser)・Editor
根田昌典:気象庁異常気象分析作業部会 委員
齊藤昭則:地球電磁気・地球惑星圏学会・運営委員
齊藤昭則:電子航法研究所・客員研究員
齊藤昭則:EPS 運営委員会・委員長
齊藤昭則:URSI 電波科学研究連絡委員会 G 分科会委員
里村雄彦:(社)日本気象学会・気象研究コンソーシアム検討委員
里村雄彦:文部科学省 科学技術専門家ネットワーク専門調査員
里村雄彦:学術会議 MAHASRI 小委員会副委員長
里村雄彦:学術会議 CLIVAR 小委員会委員
里村雄彦:学術会議 IAMAS 小委員会委員
里村雄彦:IAMAS International Commission on Climate 委員
里村雄彦:SOLA(日本気象学会)・編集副委員長
重 尚一:日本気象学会気象集誌・編集委員
重 尚一:全球降水観測計画利用検討委員会委員
堤 浩之:日本活断層学会理事
堤 浩之:日本活断層学会編集委員長
堤 浩之:地震調査研究推進本部地震調査委員会長期評価部会活断層評価分科会委員
堤 浩之:地震予知総合研究振興会活断層の位置・形状検討委員会委員
平原和朗:(社)日本地震学会・会長
平原和朗:日本学術会議地球惑星科学委員会国際対応分科会 IASPEI 小委員会・委員
平原和朗:Asian Seismological Commission ・会長
平原和朗:地震予知連絡会・副会長
平原和朗:(独)海洋研究開発機構「地震・津波観測監視システム構築」研究推進委員会・委員
平原和朗:(東北大学)海底地殻変動観測技術の高度化運営委員会・委員

福田洋一: 日本測地学会・副会長、評議員、庶務委員、企画委員長
福田洋一: 京都工芸繊維大学非常勤講師(地学実験)・前期 30 時間集中
福田洋一: 日本学術会議地球惑星科学委員会 IUGG 分科会・IAG 小委員会・委員
福田洋一: 総合地球環境学研究所「都市の地下環境に残る人間活動の影響」・共同研究員
福田洋一: 情報・システム研究機構国立極地研究所運営会議南極観測審議部会委員
福田洋一: 情報・システム研究機構国立極地研究所南極観測委員会地圏専門部会部会長
福田洋一: 京都大学防災研究所附属地震予知研究センター運営協議会委員
福田洋一: IAG(International Association of Geodesy), Commission 2 (Gravity Field) President
福田洋一: Polar Science (Elsevier) Associate Editor
町田 忍: 京大超高層電波研究センター電波科学計算機実験専門委員
町田 忍: URSI 電波科学研究連絡委員会 H 分科会委員
町田 忍: 地球電磁気・地球惑星圏学会大林奨励賞選考委員
町田 忍: 地球電磁気・地球惑星圏学会地学教育問題検討委員会委員
宮崎真一: 日本測地学会・評議員, 編集委員
余田成男: 日本気象学会: 第 36 期常任理事・総合計画委員・学術委員・広報委員・学会賞候補者推薦委員・
各賞候補者推薦委員・国際学術交流委員・名誉会員推薦委員・気象コンソーシアム検討委員
余田成男: IUGG/IAMAS/ICMA・委員長
余田成男: Journal of the Atmospheric Sciences(AMS)・Editor
余田成男: Theme Leader "Stratosphere-Troposphere Dynamical Coupling" in SPARK SSG "Stratospheric
Processes and their Role in Climate" (SPARC) is a project of the "World Climate Research Program"
(WCRP)
余田成男: 京都大学学際融合教育研究推進センター長
余田成男: 文部科学省研究開発局環境エネルギー課気候変動予測に関する計算機検討会委員
余田成男: 東京大学大気海洋研究所協議会委員
余田成男: 防災研究所附属水資源環境研究センター運営協議会委員
余田成男: 生存圏研究所外部評価委員

(地質学鉱物学分野)

小畑正明: Journal of Metamorphic Geology(Blackwell)・Editorial Review Board.
小畑正明: Journal of Mineralogical and Petrological Sciences・Associate Editor.
小畑正明: Island Arc (Blackwell)・Editorial Advisory Board.
小畑正明: Mineralogical Society of America, Fellow.
河上哲生: International Association for Gondwana Research, Steering Committee.
河上哲生: 日本鉱物科学会・将来企画委員会委員.
酒井治孝: ネパール地質学会誌編集委員.
酒井治孝: 直村奨学会(ネパールへの教育支援活動組織)特別顧問.
酒井治孝: 御船恐竜博物館策定委員会委員.
佐藤活志: 独立行政法人海洋研究開発機構地球深部探査センター(CDEX)アドバイザー, 平成 22 年 4 月 1 日 -
平成 23 年 3 月 31 日.

田上高広: International Fission Track Working Group, Committee member.

田上高広: 日本学術会議 地球惑星科学委員会 IUGS 分科会 ICS 対応地質年代学小委員会委員.

田上高広: 日本地質学会・代議.

堤 昭人: 地震発生の素過程研究推進部会・委員.

堤 昭人: 地震・編集委員.

平島崇男: 日本鉱物科学会・評議員 (2010/8/31 まで).

平島崇男: 日本鉱物科学会・会員担当特別顧問 (2010/9/1-).

平島崇男: Journal of Mineralogical and Petrological Sciences 副編集長.

平島崇男: 岩石鉱物科学 編集委員.

平島崇男: International Eclogite Conference Coordinating Committee 日本代表員.

平島崇男: 日本学術会議事務局・地球惑星科学員会 IUGS 分科会 ILP 小委員会 (H21 年 4 月 1 日 - H23 年 9 月 30 日).

平島崇男: 京都市青少年科学センター あり方検討専門家会議委員 (H22/12/14-).

前田晴良: 日本古生物学会評議員, 1997-現在.

前田晴良: 日本古生物学会常務委員, 1999 年-現在.

前田晴良: Paleontological Research, Associate Editor, 2009 年-現在.

山路 敦: 日本地質学会理事.

山路 敦: 地質学雑誌編集委員会副委員長.

山路 敦: Monographs on Environment, Earth and Planets (MEEP) 誌編集委員.

山路 敦: 宇宙航空研究開発機構 SELENE プロジェクト共同研究員.

◇非常勤講師

久家慶子: (独) 建築研究所国際地震工学部講義「Earthquake Source Process」・2011 年 2 月 28 日-3 月 2 日

久家慶子: 北海道大学大学院理学研究院・理学部地震学特論「地震波形解析と地震の物理」・2010 年 12 月 20 日-22 日

堤 浩之: 国立大学法人東北大学大学院理学研究科「自然地理学特別講義 II」

前田晴良: 佐賀大学教育学部非常勤講師, 2010 年 8 月.

◇招聘研究者・客員研究者

Adam Peter Hitchcock (University of Toronto) 期間: 2010/4/28-2010/6/15

研究課題: 「大気大循環モデルデータを用いた中層大気の力学解析」

受け入れ予算: グローバル COE プログラム「極端気象と適応社会の生存科学」 招聘外国人研究者

Briggs, Derek E.G. (Yale University), (招聘): 前田晴良・大野照文, 2010 年 6 月 7 日-9 日, 日本古生物学会創立 75 周年事業, 研究課題: 「軟体部保存のタフォノミー」.

Fang Xu (ドイツ, Stuttgart 大学) (招聘): 福田洋一、短期交流学生 (JAUW INTERNATIONAL FELLOWSHIP) (2010 年 9 月 15 日~2010 年 12 月 15 日 研究課題: 「GNSS(Global Navigation Satellite System) の地球物理学的応用に関する研究」)

付録4. 助成金

(地球物理分野)

秋友和典：“対流と傾圧不安定の相互作用に注目した高緯度海域における底・深層水形成過程の研究”，文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C) (一般)、平成 20-22 年度、130 万円

淡路敏之(代表)：日周期大気海洋熱・水交換を介した海洋混合層・積雲フィードバックの数値的研究、科学研究費補助金・基盤研究 B(平成 21-23 年度)、420 万円

淡路敏之(代表)：函館マリンバイオクラスターUMI(Universal Marine Industry)のグリーンイノベーション、受託研究費、平成 21-25 年度、866 万円

石岡圭一(代表)：「デスクトップスーパーコンピューターのための地球流体数値ライブラリの開発」

科学研究費補助金挑戦的萌芽研究(平成 22-25 年)、22 年度：130 万円

石川洋一(代表) “アカイカ漁場探査シミュレーションモデル開発研究”、受託研究費、平成 21 年度-平成 22 年度、148 万円

石川洋一(代表) “気候変動に伴う水産資源・海況変動予測技術の革新と実用化”、受託研究費、平成 22 年度-平成 26 年度、500 万円

石川洋一(代表) “SAFEプロトタイピング(漁場管理)分野に関する研究業務”、受託研究費、平成 22 年度-平成 24 年度、69.3 万円

久家慶子(代表)：稍深発地震の物理プロセスに関する地震学的研究、科学研究費補助金・基盤研究 C(平成 22-24 年度)、130 万円

根田昌典(代表)：“GCOM-W1 AMSR2 で得られる海上風速観測精度の向上とそれを用いた海面フラックスデータの評価”、共同研究、平成 22 年度、168 万円

根田昌典(分担) “大気-海洋間運動量交換過程に対する波浪の影響に関する研究”，(代表：轡田邦夫 東海大学教授)文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C) (一般)，平成 22 年度から 2 年間，平成 22 年度，20 万円

齊藤昭則(代表)：地球科学データの 4 次元可視化共有システムの構築、科学研究費補助金・若手研究(B)(平成 21-23 年度)、80 万円

齊藤昭則(代表)：地球立体表示装置と衛星データを用いた教育プログラムの開発、文部科学省 宇宙利用促進調整委託費(平成 21-23 年度)、367 万円

齊藤昭則(分担)：高感度分光多点観測による超高層大気変動の研究、科学研究費補助金・基盤研究(A) (一般) (平成 20-24 年度)、219 万円

里村雄彦(代表)：熱帯陸上の長寿命台風：東南アジア内陸の広範囲に災害を起こす擾乱の維持機構，科学技術研究費補助金・基盤研究 B(平成 21-23 年度)，320 万円

里村雄彦(代表)：気候変動下における季節進行の変動の解明および熱帯豪雨の再現に関する研究，受託研究費，科学技術振興機構(平成 21-24 年度)，170.9 万円

里村雄彦(分担)：ヒマラヤ・アッサム・バングラデシュ地域に豪雨をもたらす準 2 週間周期変動の解明，科学技術研究費補助金・基盤研究 B(平成 22-24 年度)，50 万円

重 尚一 (代表)：熱帯降水システムに伴う潜熱加熱の大気大循環への影響に関する研究、科学研究費補助金・若手研究(B)(平成 19 年度～22 年度)、50 万円

重 尚一 (代表)：マイクロ波放射計に基づく高時間分解能降雨マップのための GSMaP マイクロ波サウンダ降雨推定アルゴリズムの開発、受託研究費(宇宙航空研究開発機構)(平成 22 年度)、695 万円

重 尚一 (代表)：衛星データを用いた全球降水マップの作成と評価、受託研究費(三井物産環境基金)(平成 22 年度)、480 万円

重 尚一 (分担)：次世代の衛星搭載複合型マルチパラメータ降水観測システムの開発に関する研究，科学研究費補助金・基盤研究(C) (一般) (平成 22-23 年度)，30 万円

堤 浩之(代表)：フィリピン断層帯の大地震発生パターンの地形学的・地震学的研究，科学研究費補助金基盤研究

B(平成 20-22 年度), 280 万円.

堤 浩之(代表):四国の中央構造線活断層系の活動性状に関する研究, 共同研究(株式会社四国総合研究所), 平成 22 年度, 50 万円.

堤 浩之(分担):地質構造にもとづく潜在震源断層マッピング, 科学研究費補助金基盤研究 B(平成 22-24 年度), 60 万円.

平原和朗(代表):不連続面を含む日本列島下の 3 次元速度構造研究、科学研究費補助金・基盤研究B(平成 20-22 年度)、380 万円

平原和朗(代表):文部科学省委託研究 東海・東南海・南海地震の連動性評価のための調査観測・研究 ―物理モデル構築及び地震発生シミュレーション研究: シミュレーション手法と物理モデルの高度化―、海洋研究開発機構よりの受託研究(平成 20-24 年度)、2,050 万円

福田洋一(代表):赤道域から地球を覗く―インドネシアでの超伝導重力観測、科学研究費補助金・基盤研究B(平成 19-22 年度)、1,500 千円(直接経費)

福田洋一(代表):最新測地観測手法の統合によるインドネシア3都市での地盤沈下の比較研究、科学研究費補助金・基盤研究B・海外学術調査(平成 20-22 年度)、4,200 千円(直接経費)

町田忍(代表):サブストームトリガー・駆動機構の完全解明に向けた先端研究、科学研究費補助金・基盤(B)(平成 22-24 年度)、270 万円

宮崎真一(代表):GPS のデータ同化による八重山スローイベント発生領域の摩擦特性の解明と発生予測、科学研究費補助金・基盤研究 B(平成 21-23 年度)、3,000 千円(直接経費)

余田成男(代表):「気候変化における成層圏の影響の評価及び力学的役割の解明」

科学研究費補助金基盤研究 A(平成 20-23 年)、22 年度:990 万円

余田成男(分担):「極端気象と適応社会の生存科学」

グローバル COE プログラム(平成 21 年-25 年)、22 年度:1,400 万円

(地質学鉱物学分野)

小畑正明(代表):超塩基性(かんらん岩)シュードタキライトの研究, 科学研究費補助金・基盤研究(C)(平成 20-22 年度), 1,100 千円.

河上哲生(分担):平成 21 年度-25 年度 科学研究費基盤研究(A)海外学術調査「アジア大陸における衝突型造山帯の精密解析と大陸変動テクトニクスの解明」(分担, 代表・小山内康人), 分担金 100 千円(H22).

河上哲生(分担):平成 22 年度-24 年度 科学研究費基盤研究(A)「多相固体包有物を用いた深部流体活動の実態解明」(分担, 代表・平島崇男), 分担金 400 千円(H22).

河上哲生(分担):平成 22-25 年度 情報・システム研究機構 国立極地研究所 プロジェクト研究「極域から探る固体地球ダイナミクス」(代表・本吉洋一).

河上哲生(分担):平成 21-23 年度 情報・システム研究機構 国立極地研究所 一般共同研究「東南極・セール・ロンダーネ山地の変動テクトニクスの解明」(代表・小山内康人).

河上哲生(分担):平成 22 年度 情報・システム研究機構 国立極地研究所 一般共同研究「東南極セール・ロンダーネ山地の岩石学、構造地質学および地球化学的研究」(代表・土屋範芳).

酒井治孝(代表):シワリク層群の堆積学的研究によるヒマラヤ山脈の削剝史の研究, 東京地学協会研究・調査助成金(平成 22 年度), 500 千円.

酒井治孝(代表):ヒマラヤの上昇・削剝史とモンスーン開始を前縁盆地堆積物に探る, 京都大学コアバックアップステージ(平成 22 年度), 4,000 千円.

佐藤活志(代表):応力逆解析法の基本原理の検証, 科学研究費補助金・若手研究(B)(平成 21-23 年度), 600 千円.

佐藤活志(分担):「かぐや」のデータによる月テクトニクス研究(代表・山路敦), 科学研究費補助金・基盤研究(B)(平成 22-23 年度), 配分額 600 千円.

田上高広(代表):熱年代学と方解石脈分析による沈み込み帯震源域の熱過程研究, 科学研究(基盤研究(B))(平成 21-23 年度), 5, 720 千円.

田上高広(代表):(U-Th/He)年代測定システムの構築と地質試料への適用に関する研究, 日本原子力研究開発機構先行基礎工学研究(平成 21-23 年度), 700 千円.

田上高広(分担):巨大地震断層の物質科学的研究によるすべりメカニズムの解明, 科学研究(新学術領域研究)(平成 21-23 年度), 871 千円.

堤 昭人(分担):巨大地震断層の力学的・水理学的特性の解明, 科学研究費補助金(新学術領域研究)(平成 21-25 年度)(代表・金川久一)(配分額 17,500 千円).

堤 昭人(分担):摩擦発熱による粘土鉱物の脱水が地震すべりに与える効果の解明, 科学研究費補助金(基盤研究(B))(平成 21-23 年度)(代表・氏家恒太郎)(配分額 250 千円).

堤 昭人(分担):岩石摩擦の物理的素過程に関する実験的研究, 地震及び火山噴火予知のための観測研究経費(京都大学防災研究所)(平成 22 年度)(配分額 570 千円).

平島崇男(代表):平成 22 年度-24 年度 科学研究費基盤研究(A)「多相固体包有物を用いた深部流体活動の実態解明」, 37,500 千円.

平島崇男(分担):「地殻流体:その実態と沈み込み変動への役割」科学研究費補助金 新学術領域研究(研究領域提案型)(平成 21-25 年度)(代表・小木曾哲), (配分額 4,360 千円).

前田晴良(代表):菱鉄鉱ノジュール中のアンモノイド化石の保存・産状, 科学研究費補助金・基盤研究(C)(平成 21-23 年度), 1,100 千円.

渡邊裕美子(代表):鍾乳石を用いた熱帯陸域の古気候変動研究, 科学研究(若手研究(B))(平成 21-23 年度), 900 千円.

渡邊裕美子(代表):付加体中の炭酸塩鉱物脈の年代学的研究, 東京大学地震研究所一般共同研究費(平成 22 年度), 178 千円.

渡邊裕美子(代表):鍾乳石を用いた高時間分解能古気候復元-アジア水循環変動の将来予測に向けて-科学研究(最先端・次世代研究開発支援プログラム)(平成 22-25 年度), 210 千円.

【受賞】

兒玉 優: 第 14 回日本鉱物科学会ポスター研究発表最優秀賞.

前田晴良: 2009 年度日本古生物学会論文賞. 「栃木県塩原層群(湖成更新統)の珪藻質ラミナのタフオノミー」, 2010 年 6 月 12 日.

御前明洋・前田晴良: 日本古生物学会優秀ポスター賞. 「白亜紀後期異常巻アンモノイド *Pravitoceras sigmoidale* とそれに付着する二枚貝の産状」, 2010 年 6 月 12 日.

付録 5. 地球物理技術情報活動報告

2010 年度としての特記すべき事柄としては、布地のポスターに印刷可能な大判プリンターを導入したことである。この大判プリンターは、複写室に置かれた既存の大判プリンターの故障時のバックアップも兼ねている。また、商用ソフトウェアである PGI コンパイラをより包括的なパッケージのものに変え、Fortran コンパイラだけでなく、C コンパイラ等も使えるように整備した。これは GPU 向け最適化も可能なものである。さらに、2010 年度には、輻合部が主となって教室および専攻の Web ページが刷新された。これによって見栄えがかなり向上した。

2006 年度に地球物理学教室のサーバー（メール、Web、その他）を 1 台の強力なサーバーに集約したが、その後特段の異常も無く順調に稼働している。その後も OS のバージョンアップやアップグレード作業を定期的に行い、サーバーのセキュリティを強固な状態に保っている。メールのウィルスチェックおよびスパム（迷惑メール）チェックのソフトウェアも 2006 年度に導入したものをライセンスを継続して購入することによって運用しており、スパムの振り分けなどが可能になっている。

最近ではユーザレベルの計算機環境は各講座で整えられているため、その使い方に必要な教育も各講座で行われているということで技術情報委員会としての説明会は開催していないが、過去の説明会の資料や教室のネットワークに関する最新情報は、<http://www.kugi.kyoto-u.ac.jp/local/gijutu/index.html>にあるので随時参照されたい。

なお、本教室の計算機・ネットワーク環境の維持・更新には、主として高畑技官があたっている。

技術情報委員長 石岡圭一

発行年月日：2011年（平成23年）9月30日

発行：京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻

編集：地球物理学分野図書委員会・地質学鉱物学分野教室内自己点検委員会